



POD[®] HD Pro



アドバンスド・ガイド

本ガイドでは、POD HD Proの特徴や機能を
詳しくご紹介します

エレクトロフォニック限定版

目次

1 - 概要	1・1
ホーム・ビュー	1・1
チューナー・モード	1・4
タップ・テンポ.....	1・5
接続	1・5
POD HD Proエディット・ソフトウェア	1・6
2 - システム・セットアップ.....	2・1
システム・セットアップへアクセスする	2・1
ページ 1、Setup:Utilities.....	2・2
ページ 2、Setup:Utilities.....	2・3
ページ 3、Setup:Inputオプション	2・4
ページ 4、Setup:Output	2・8
ページ 5、Setup:Digital Output	2・9
ページ 6、MIDI/Tempo	2・10
ページ 7、Setup:Variax Options.....	2・11
ページ 8、James Tyler Variax Tuning Options	2・16
ページ 9、Setup: L6 LINK Audio	2・17
ページ 10、Setup: L6 LINK Control	2・18
3 - 特徴 & 機能	3・1
エフェクト・ブロック	3・1
ミキサー・ブロック	3・4
エフェクト・ブロックを移動する	3・5
エフェクト&アンプ・ブロックFBVフットスイッチのアサイン	3・7
ダイナミックDSP	3・8
4 - セットリスト & プリセット	4・1
セットリストを使って作業をする	4・1
プリセットを使って作業をする	4・5
プリセットの保存.....	4・6

5 - エフェクト・エディット・モード..... 5・1

エフェクト・エディット・モードにアクセスする..... 5・1

6 - アンプ、キャビネット & マイクモデル..... 6・1

アンプ・モデルの位置決め 6・1

アンプ、キャビネット、マイク・モデルを選ぶ 6・3

アンプ・パラメーターをエディットする..... 6・6

アンプおよびキャビネット・エディット・ディスプレイ 6・7

アンプ /プリセット・モデル 6・12

キャビネット・モデル..... 6・15

7 - エフェクト・モデル 7・1

ダイナミクス・モデル..... 7・1

ディストーション・モデル 7・2

モジュレーション・モデル..... 7・3

フィルター・モデル..... 7・5

ピッチ・モデル 7・6

プリアンプ+EQモデル 7・9

ディレイ・モデル 7・10

リバーブ・モデル 7・12

ボリウム・パン/ワウ・モデル..... 7・14

8 - ルーパー・モード 8・1

ルーパー・フットスイッチ・コントロール&パフォーマンス・ビュー 8・1

ルーパー・セッティング..... 8・5

9 - USBオーディオ 9・1

Line 6 USBオーディオ・ドライバー 9・1

Line 6 Audio-MIDI装置パネル 9・3

Mac®—Line 6 Audio-MIDI装置 9・4

Windows®—Line 6 Audio-MIDIデバイス..... 9・10

付録 A : Line 6 Monkey™A・I

Line 6 Monkeyを起動する	A・1
アップデートを入手する	A・2
Line 6 Variaxアップデート	A・4

付録 B : FBVフットコントローラー.....B・I

FBV MkII & FBVシリーズ・コントローラー	B・1
FBV用のセットアップ・オプション	B・2
FBV コントローラー・デバイスフットスイッチ&ペダル・マッピング	B・5
FBV Shortboard MkII	B・5
FBV Express MkII	B・8
FBV Longboard	B・10
FBV Shortboard	B・13
エクспレッション・ペダルとVariax®ノブ・コントローラーのアサイン	B・16
アンプ&エフェクト・ブロック・フットスイッチのアサイン	B・18
セット・リストを選択する	B・22
タップ・テンポ	B・22
Tunerモード	B・23

付録 C : MIDI.....C・I

MIDIを利用したPOD HD Proの機能の操作	C・2
バンク&プログラム・チェンジ・メッセージ	C・3
POD HD Pro/FBVをMIDIコントローラーのとして使用する	C・5

Line 6、POD、DT50、DT25、Variax、James Tyler、Vetta、L6 LINK、Custum Tone、および Line 6 Monkey は、Line 6、Inc の登録商標です。その他の全ての製品名や商標名、アーティスト名は各社が所有しており、Line 6 との関連や提携関係はありません。製品名や画像、アーティスト名は、Line 6 が本製品向けにサウンド・モデルの開発を行った際に研究したトーンやサウンドを識別するためにのみ使用されています。これらの製品や商標、画像、アーティスト名の使用は、協力関係やエンドースを暗示するものではありません。

I - 概要

POD® HD Proアドバンスド・ガイドへようこそ。本ガイドでは、POD HDの特徴や、機能を詳しくご紹介します。POD HDに関する基本的な情報は、**POD HDパイロット・ガイド**を良くお読みください。その上で本機をさらに徹底的に使い込むための内容をこのガイドでご紹介していきます！ この章では、まず始めに主だった画面と機能の概要から説明します。

このガイドは、フラッシュメモリー・バージョン2.0（またはそれ以降）をインストールしたPOD HD Proを対象に記載されています。Line 6 Monkeyを使用して最新のアップデートを確認し、インストールを行ってください— [A・1 ページの「付録 A：Line 6 Monkey™」](#) 参照。

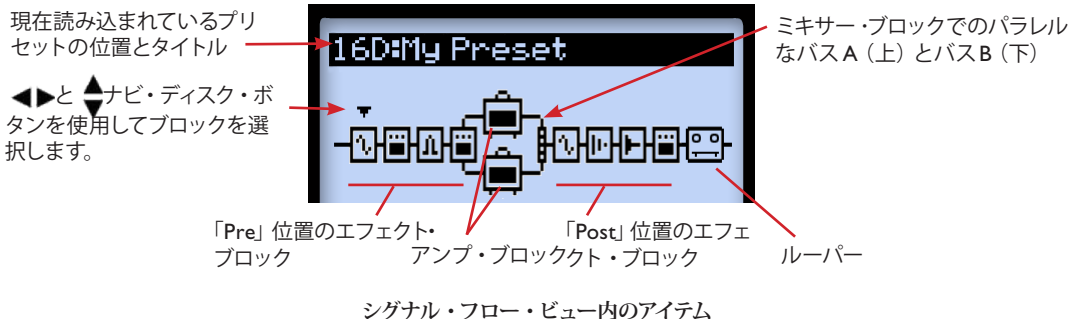
ホーム・ビュー



ホーム・ビュー画面が出発点です。**VIEW** ボタンを押すことで、3種類のホーム・ビューを順番に切り替えることができます。いずれのホーム・ビュー画面でも、**PRESETS** ノブを回すと、現在選択されているセトリストからプリセットを呼び出すことができ、また**PRESETS** ノブを押すと他のセトリストから選択が可能になります。

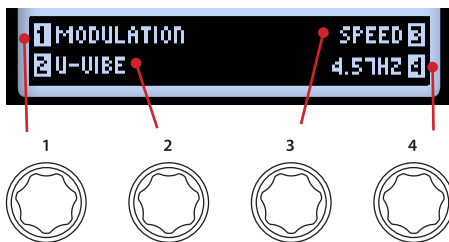
シグナル・フロー・ビュー

シグナル・フロー・ビューには、現在選択されているプリセットの全てのアンプ&エフェクト「ブロック」とそれらの順序が表示されます。以降の章でも繰り返し登場しますが新しいアンプやエフェクト・モデルの選択、パラメーターのエディット、位置変更やその他数々の動作を実行させるためにブロックを「選択する」のがこの画面です。



各プリセットのシグナル・フロー構造は、アンプ&エフェクト・ブロックを置くことの可能な、以下の3つのメイン・セクションで構成されています：プリ、ポスト、平行なバス A & B。

Signal Flow画面の下方に、マルチファンクション・ノブ1～4を使用してアクセスするパラメーターが4種類まで表示されます。



マルチセレクト・ノブでパラメーターにアクセスする

これらは、現在選択されているブロック特定のパラメーターであり、新しいモデルとエディット・パラメーターを選ぶことができます。または詳細なエディット・モードに入り、本章以降で記載されるように、他の画面上で追加設定にアクセスすることができます。

ビッグ・ユーザー・ビュー

この画面では、現在読み込まれているプリセット番号のみが大きく表示されるので、暗いステージ上では特に便利です！

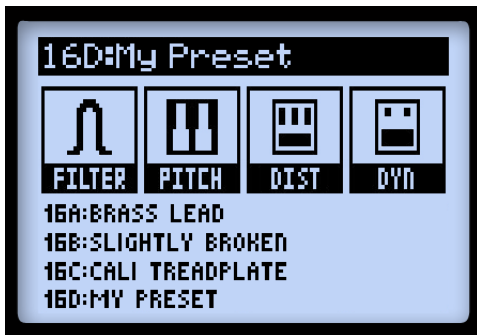


ビッグ・ユーザー・ビュー

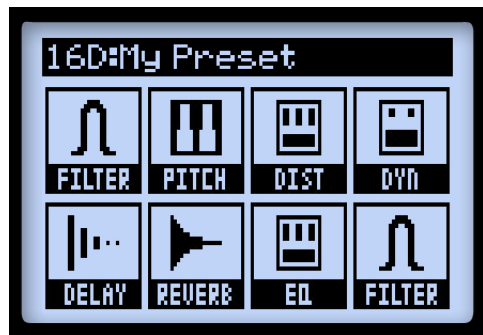
パフォーマンス・ビュー

FBVコントローラーが接続されている場合、この画面にLine 6 FBV™コントローラーのフットスイッチの機能が表示されます。器機の設定に応じて、表示される画面は3種類のバリエーションがあります。画面下部の4つのオプションは、FBV **A**、**B**、**C**、**D**フットスイッチに関連しています。

現在のPOD HD Pro Setup - FS MODEの設定を示す以下のような画面が表示されます。詳細は、1・3ページの「ページ 1, Setup: Utilities」も併せてご覧ください。

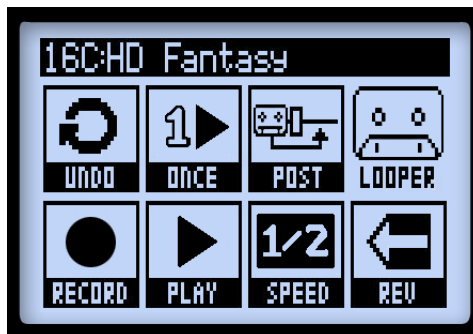


「ABCD」モード



「FS 5-8」モード

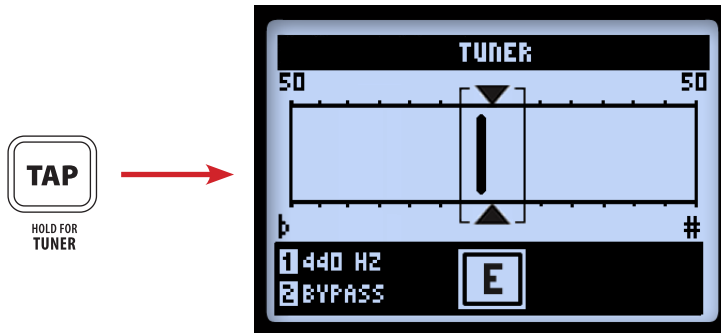
POD HD Proで Looperモードを起動させると（Looperモードは、FBV機器を接続すると利用可能になります）、3番目の画面にFBV **A**、**B**、**C**、**D**フットスイッチを利用してアクセスするLooper機能が表示されます。[8・1ページの「ルーパー・フットスイッチ・コントロール&パフォーマンス・ビュー」](#)も併せてご覧ください。



Looperモードが起動中のパフォーマンス・スビュー

チューナー・モード

チューナー・モードに入るには、**TAP** ボタンを長押しします。マルチファンクション・ノブで調整可能なオプションがいくつか用意されています。



チューナー画面

チューナーは、POD HD Proの Input 1 ソースから送られる信号のみを受信することに注意してください。

ギターの弦を個々に弾くと音名が表示されます。バーが中心より左に位置している場合は弦がフラット、右に位置している場合はシャープです。バーが中心の範囲内にあれば、表示の上下に三角形のマークが表示されピッチが合っていることを意味します。

- リファレンス (ノブ 1) : 標準の 440Hz 以外の基準ピッチでチューニングしたい場合は、425 から 455Hz までの範囲で選びます。
- オーディオ (ノブ 2) : チューニングを行う間 POD HD Pro のアウトプットから音を出したくない場合は、**MUTE** を選択します。**BYPASS** を選択すると、ギターのドライ音を聞くことができます。

チューナー・モードを終了するときは、**TAP** スイッチかフットスイッチのどれかを押します。

タップ・テンポ



POD HD Proでは**TAP**ボタンを利用してアクセスする「Tempo」値をタップ・テンポと呼んでいます。リズムに合わせて踏むことでテンポを設定します。あるいは、セットアップの中でTempo値を数字で設定することも可能です ([2・10ページの「ページ 6、MIDI/Tempo」](#) 参照)。この設定はプリセット毎に保存されます。

TAPボタンが点滅して現在設定されているタップ・テンポBPM (Tap LED パラメーターがあらかじめ「On」に設定されている場合-[2・10ページの「ページ 6、MIDI/Tempo」](#) 参照) を示します。**Tempo Sync** パラメーターが用意されたテンポベースのエフェクト (モジュレーション、フィルター & ディレイ・エフェクト) は、このタップ・テンポ値をもとに音符を任意に設定することができます。

接続

インプット&アウトプットの接続に関する詳細は、**POD HD Proパイロット・ガイド**をご覧ください。特定の使用方法についての詳細は、以降の章の中にも記載されています！

POD HD Pro エディット・ソフトウェア

line6.jp/software へアクセスして、Mac®とWindows®コンピュータ用の無償パッチ・エディター/ライブラリアン、Line 6 POD® HD Pro Editソフトウェアをダウンロードできます。POD HD EditとUSB接続を利用することで、トーン・プリセットの作成、オーディション、カスタマイズ、バックアップや復元が簡単な操作で行うことができ、本機にトーン・プリセットを数に限りなく保存することができます。



POD HD Pro Editアプリケーション

2 - システム・セットアップ

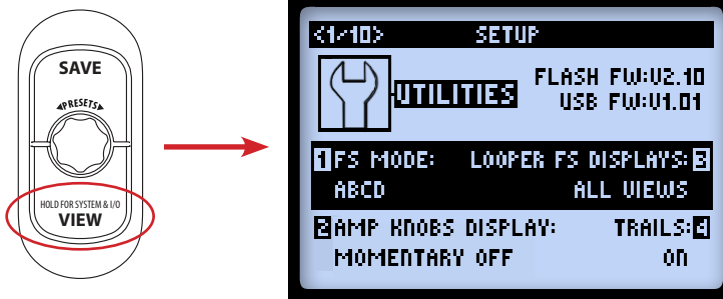
この章では、POD® HD Proのシステム設定を構成するオプションについて説明します。

System Setupのパラメーターの中には「グローバル」設定（現在選ばれているプリセットに関係なく、常に維持される設定です）と、以下のセクションで述べるように、プリセット毎に個々に保存されるものがあることに注意してください。後者のタイプのセッティングを変更した後に内容を保持しておきたい場合は、必ずそのプリセットを保存してください。グローバル設定の全てをデフォルト値に戻すときは、ナビ・ディスクの左矢印ボタンを押しながらPOD HDの電源をオンに入れます。

2・1

システム・セットアップへアクセスする

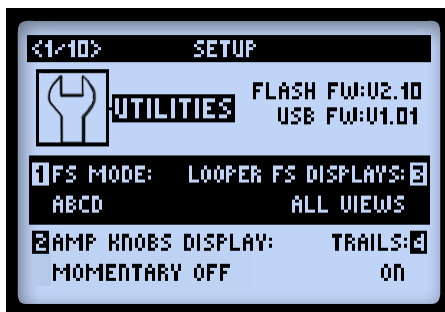
Setup オプションにアクセスする場合は、**VIEW** ボタンを長押しします。ここでは本機の機能、インプット & アウトプット・セッティングやその他の設定を行うことができます。



◀▶ ナビ・ディスク・ボタンを使用して、Setup ページ内を移動します。

ページ 1、Setup : Utilities

2・2



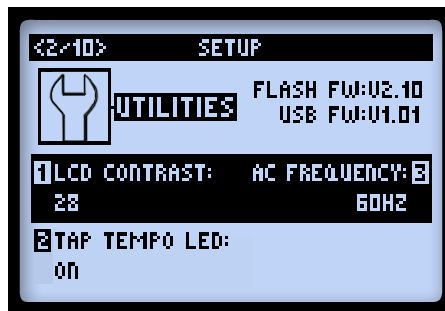
The top portion of the screen lists the **Flash Memory** and **USB Firmware** versions currently installed on your POD HD Pro device. The lower portion of the screen offers four options, adjustable using the Multi-function Knobs 1 - 4.

- **Footswitch Mode (ノブ 1):** このオプションは、接続したLine 6 FBVコントローラーのA、B、C、Dフットスイッチに適用されます。(B・1ページの「[付録 B : FBVフットコントローラー](#)」)を併せてご覧ください。ここで選択したモードに応じて、これらのボタンの機能がPOD HD Pro パフォーマンス・ビュー画面に表示されます (1・3ページの「[パフォーマンス・ビュー](#)」参照)。この設定はグローバルです。
 - 「ABCD」モード: **A、B、C、D** FBVフットスイッチを使用して、現在選択されているバンクのプリセット **A～D**を呼び出します。
 - 「FS 5～8」モード: **A、B、C、D** FBVフットスイッチでFS 5～8に割り当てたモデルのオン/オフを切り替えます。
- **Amp Knobs Display (ノブ 2):** 「On」に設定されている場合、アンプ・ノブを調節すると、アンプ・トーン・ノブの値が瞬時にLCD画面に表示されます。この設定はグローバルです。
- **LOOPER FS DISPLAY (ノブ 3):** このオプションで、Looperモードの起動中に (FBV機器が接続されている場合、Looperモードにアクセスすることができます)、いつ、どのように Looper画面を表示させるかを決めることができます (8・1ページ参照)。この設定はグローバルです。
 - ALL VIEWS:** Looperモードがオンのときは常にLooper画面が表示されます。
 - PERFORMANCE VIEW:** Looperモードの起動中は、**VIEW** ボタンを使用することでLooper画面やその他のパフォーマンス・ビュー (シグナル・フローやビグユーザー) 画面を切り替えることができます。プリセットを確認する、またはループ機能の使用中にモデルを調整する際に便利なオプションです。この設定はプリセット毎に保存されます。(この機能は、プリセットを変更するとエフェクト・ディケイの「スピルオーバー」は生じない点に注意してください。)

- **Trails (ノブ 4) :**「On」に設定されている場合、モデルをオフに切り替えた際にとエコーがリピートし、またディレイのディケイとリバース・エフェクトは効果が持続します。Trailsオプションを「Off」に設定した状態で、モデルをオフに切り替えると、ディケイは瞬時にミュートされます。この設定はプリセット毎に保存されます。

ページ 2、Setup : Utilities

2・3



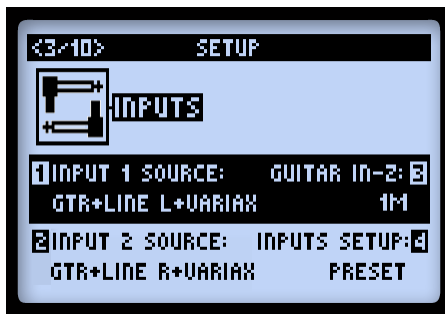
画面下のオプションには以下のものが用意され、全てがグローバル設定です。

- **LCD Contrast (ノブ 1) :**画面のコントラストを調整します。
- **TAP TEMPO LED (ノブ 2) :**「On」を選択すると **TAP** ボタン（または接続したFBVの**TAP**フットスイッチ）のLEDを点滅させて現在のテンポ値を示します。「Off」を選択しておくとライトは消灯したままです。
- **AC Frequency (ノブ 3) :**全てのHDアンプ・モデルには、真空管のヒーター部品に特有のACハムのシミュレーションが含まれています。これは真空管アンプのトーンに不可欠な要素です。リアルさを出すにはUSA（60Hz）またはUK（50Hz）の周波数にAC比を合わせてください。（この設定は、アンプ・モデルの設定によっては微妙な効果となる場合もありますが、POD HDを接続する真空管アンプのAC比とマッチさせると、より明白になることもあります。）
- **FBV EXPRESS (ノブ 4) :**このパラメーターはLine 6 FBV コントローラーが接続されている場合にのみ適用されます。FBV Express MkII 機器を使用する場合にのみ「On」に設定してください。[B・2 ページの「FBV用のセットアップ・オプション」](#)をご覧ください。

ページ 3、Setup : Input オプション

Inputs Setup ページでは、プログラム可能なパッチベイが内蔵されているかのように、どのデバイスのオーディオ入力を「ソース」に使用するかを選ぶ事ができます。ギターの入力インピーダンスを調整するコントロールも備えられています。

2•4



- **Input 1 および Input 2 (つまみ 1&2)** — シグナルパスへ送るソースの物理的な入力を選択します。各シグナルパスへ送るソースを個別に選択することも、SAMEを選択して両方のパスへ同じソースを送ることもできます。
 - **Variax** および **Variax Mag** インプット・ソースのオプションは、POD HD Pro **VARIAX** Digital Input (VDI) へ Line 6 Variax® ギターを接続した際に提供されます。
 - James Tyler® Variax® (JTV) の場合、「**Variax**」インプット・ソースは JTV のモデル・スイッチのセッティングに応じてモデルまたはマグネティック・ピックアップのシグナルを受信します。「**Variax Mag**」インプット・ソースは JTV のマグネティック・ピックアップのシグナルのみ受信します。

*注：JTV を使用している場合、「**Variax**」インプット・ソースはマグネティック・ピックアップ、モデルのどちらを使用していたかをプリセットごとに記憶するので、再び使用する際には新たに手動での選択やインプット変更を行うことなく前回終了したところからスタートすることができます。

- 第1世代の Variax 楽器を使用している場合、**Variax** インプット・ソースを選択することが推奨されます。詳細は Variax の説明書をご覧ください。
- **Guitar In-Z**— ギター・インプットの入力インピーダンスを選びます。この機能により、ギター・ピックアップにエフェクト・ペダルやチューブアンプが接続されたような負荷をかけ、トーンや振る舞いに影響を与えることができます。

注意：Guitar In-Z 設定は、**GUITAR IN** 入力にのみ影響を与えます。個々のモデルの入力インピーダンスについては、このセクション最後のインピーダンス・レイティング表を参照してください。

- **Auto** オプションでダイナミックに入力インピーダンスを設定し、POD HDのシグナル・チェーンの中の最初のアンプやエフェクト・モデルの入力インピーダンスに合わせることができます。
- または、ローからハイまでの様々なインピーダンス値（22k、32k、70k、90k、136k、230k、1M、3.5M）の中から選ぶことができます。設定値を低く選ぶと、高い周波数を減衰させてゲインが下がり、全体に柔らかい感じになります。設定値を高くすると、周波数レスポンスがフルになり、より高いゲインと固めの感じが得られます。
- **Inputs Setup** —このInputs画面の他の3 オプションを、プリセットごとに、またはグローバルに適用するかどうかを決定します。
 - **Preset** —プリセットを呼び出すと、Input 1 Source、Input 2 Source と Guitar In-Zパラメーター設定を、最後に保存した個々のプリセットと共に読み込みます。
 - **Global** —ここで「Global」を選択した場合、各プリセットに保存されている数値は無視され、このセットアップ・ページの他の3つのインプット・オプション（インプット・ソース1、2およびGuitar In-Z）の数値が全体で使用されます。このセットアップ・ページで設定した各インプット数値は**Input Setup - Global**に独立して保存されます。Input Setupを「Preset」に戻すと、各プリセットに保存されたインプットの数値が再び使用されます。

注：この設定が「Global」になっている状態でプリセットを保存すると、現在の全体のインプットおよびGuitar In-Z数値が各プリセットに書き込まれます。

アンプ&エフェクト・モデルーギター・インプット・インピーダンス・レイティング	
モデル	ギター・インプット・インピーダンス(Ω)
アンプ & プリアンプ	
全てのアンプ&プリアンプ・モデル	1M
ディストーション・エフェクト	
Screamer	230k
Color Drive	136k
Buzz Saw	230k
Facial Fuzz	22k
Jumbo Fuzz	90k
Fuzz Pi	22k
Octave Fuzz	230k
他全てのDistortionモデル	1M

アンプ&エフェクト・モデルーギター・インプット・インピーダンス・レイティング	
モデル	ギター・インプット・インピーダンス (Ω)
ダイナミクス・エフェクト	
全てのDynamicsモデル	1M
モジュレーション・エフェクト	
Dual Phaser	230k
U-Vibe	90k
Analog Chorus	22k
他全ての Modulationモデル	1M
フィルター・エフェクト	
全ての Filterモデル	1M
ピッチ・エフェクト	
全ての Pitchモデル	1M
ディレイ・エフェクト	
Multi Head	22k
Analog Echo	230k
Analog w/Mod	90k
他全ての Delayモデル	1M
プリアンプ+EQ エフェクト	
全てのプリアンプ+EQモデル	1M
リバーブ・エフェクト	
全ての Reverbモデル	1M
ワウ・エフェクト	
Weeper	90k
他全ての Wahモデル	1M
ボリューム & パン・エフェクト	
全ての Volume と Panモデル	1M
FX Loop	
FX Loop	1M

Source Input シグナル・ルーティングについて

エフェクト・ブロックへ、Source Input 1と2をどのようにルーティングするのかを理解しておくことが重要です。以下のような場合があります：

- Preの位置にアンプやエフェクト・ブロックを置いていない設定では、Input 1はパス A へのみ供給され、Input 2はパス B へのみ供給されます。インプット・ソースをパス A と B に独立させておきたい場合は、
- アンプ・ブロックやアクティブなモノ・エフェクト・モデルを Pre 位置に置くと、インプット・ソース 1&2 を一体化させた同じ信号をこれらのプリ位置に置いたモデルの各パス A & B へ送ります。Pre 位置のアンプやエフェクト・モデルへの過負荷を避けるため、楽器のボリュームレベルを調整する必要があります。
- ステレオ・エフェクト・モデルを Pre 位置に置くと、左チャンネルのエフェクト・アウトプットはパス A へ送られ、右のアウトプットはパス B へ送られます。*
- ミキサー・ブロックの Volume と Pan オプションは、ミキサーの「Post」にどのようなブロックが置かれているとしても、パス A & B アウトプットが送られる前に独立したコントロールを提供します。
- Input 2 を「Same」に設定すると、ステレオ・パス A & B の両方へインプット・ソースを効率的にルーティングできます（これにより、例えば 1 つのギター・インプットを 2 つのアンプ・モデルやパラレル・エフェクトへ送ることができます）。

モノとステレオ・エフェクトがシグナル・チェーンに及ぼす影響についての詳細は、[3・6ページの「モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング」](#)をご覧ください。

ページ 4、Setup : Output

このページのModeの設定により、POD HDのアナログ・アウトプットをダイレクト・レコーディング用、外部アンプ接続用に最適化できます。

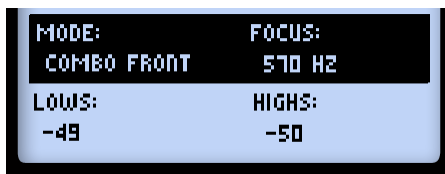
2・8

このModeセッティングは、POD HD Proの LEFT & RIGHT BALANCED、UNBALANCED、デジタル&ヘッドフォン・アウトプットに送られる信号及び、USB Record Send & L6 LINK™ アウトプットに送られる信号に対しても影響を与えます。



ノブ1を使用してOutputs Modeを選択します。これはグローバル設定です。

- **Studio/Direct:** ミキシング・コンソールまたは録音器機へ「ダイレクト」に接続する場合にベストなオプションです。この信号は、「Studio」キャビネット・モデル、マイク・モデル「AIR」コンボリユーションを含み、室ルーム内でアンプにマイキング音を模倣しています。
- **Combo と Stack 設定:** 外部アンプへ接続する際のトーンを最適化します。特別なEQカーブがそれぞれに加えられた「Live」キャビネット・モデルが信号に含まれていますが、マイク・モデルや「AIR」コンボリユーションは含まれません。
- **Combo Front & Stack Front:** 典型的なコンボ・アンプやアンプ・ヘッド + 外部キャビネットのフロント・インプットへ接続する際に使用します。これらのモードのどちらかを選択すると、トーンをさらに調整できる以下の追加オプションが表示されます。

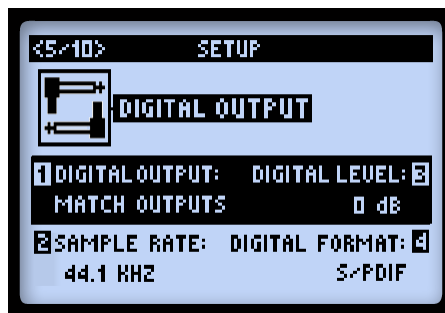


- **Lows (ノブ 2):** 低域をアッテネートする。

- **Focus (ノブ 3)** : 中域全体を持ち上げる。
- **Highs (ノブ 4)** : 高域をアッテネートする。
- **Combo Power Amp & Stack Power Amp**: コンボやヘッド・アンプのパワー・アンプへ接続します。

ヒント：Combo または Stack オプションを使用してチューブ・アンプに接続する場合、「フル」アンプ・モデルの中からではなく）Amp Model メニューからプリアンプ・モデルを1種類選択することをお勧めします。HD プリアンプ・モデルには、パワーアンプ・エミュレーションが含まれていないため、こうした接続に適しています。もちろん、間違った選択など存在しません！ POD が常にこだわるのが柔軟性です…可能性は全て試して、あなたのサウンドに最も合うモデルを選んでください！

ページ 5、Setup : Digital Output

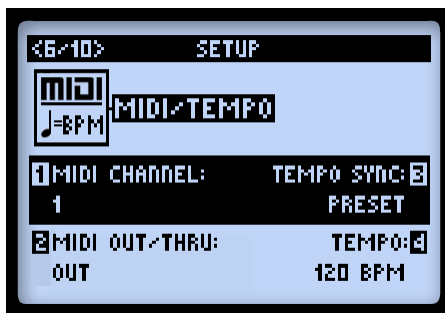


これらのオプションは、24ビット・デジタル・アウトプット（**S/PDIF**や**AES/EBU**）へ送る信号を設定する場合にのみ使用します。設定は全てグローバルです。別のデジタル機器を接続する場合は、同期が正しく維持されるよう、外部デバイスをPOD HD Pro（POD HD Proを「マスター」器機として）のクロックへ追従させるのがベストです。デジタル・クロックの機能についての詳細は、お手持ちのデジタル機器の説明書をご覧ください。

注意：**AES/EBU – L6 LINK**アウトプットはどちらの接続タイプにも使用することができるXLR端子です（[2・17ページの「ページ 9、Setup: L6 LINK Audio」](#)参照）。この画面のAES/EBUオプションは、AES/EBUアウトプットにのみ適用され、Line 6 DTシリーズ・アンプに接続されていれば、L6 LINKオーディオ信号に影響はありません。

- **DIGITAL OUTPUT (ノブ 1)** : 出力モードの信号タイプを選択します。
 - **Match Outputs** : Setup:Outputs 画面で構成した設定を使用します (2・8ページ 参照)。
 - **Dry Input** : アンプ、キャビネット、マイク、「E.R.」またはエフェクトでの処理をかけずにソースとする入力信号です。(DAWにドライ信号を録音する際に便利です。後からプラグインや再びアンプを加えることが可能です!)
- **Sample Rate (ノブ 2)** : サンプル・レートを: 44.1kHz、48kHz、88.2kHz または 96kHz から選択します。他のデバイスのS/PDIFやAES/EBUインプットへ接続する場合は、必ず両方のデバイスが同じサンプル比を使用するように設定してください。
- **Digital Level (ノブ 3)** : S/PDIFやAES/EBU信号の振幅を増加します: 0dB ~ +12dB
- **DIGITAL FORMAT (ノブ 4)** : S/PDIFかAES/EBUデジタル・アウトプットの設定のどちらかを選びます。

ページ 6、MIDI/Tempo



- **MIDI Channel (ノブ 1)** : POD HD ProがMIDI IN/OUT経由でMIDIコミュニケーションの送受信に利用する「システム」MIDIチャンネルを設定します。個々のチャンネル1~16のどれかを選ぶか、または「Omni」を全てのチャンネルに選択します。* これはグローバル設定です。

注意: ここで選択したMIDIチャンネルもまた、L6 LINKを利用したMIDIチャンネル・セッティングに影響を与えます (2・18ページの「[ページ 10、Setup: L6 LINK Control](#)」参照)。

- **MIDI OUT/THRU (ノブ 2)** : MIDI OUTがMIDI アウトプットとMIDI アウトプット+スルー間で切り替えられるようになります。

- **Tempo Sync (ノブ 3)** :テンポ・ベースのエフェクト (モジュレーション、ピッチ&ディレイ) の全ての「Speed」または「Time」パラメーターがを (ノブ 4) テンポBPM値に従った音価へ任意に設定できます。このTempo Syncオプションはグローバル設定であり、エフェクトがプリセットごとの値、またはグローバル設定としてのタップ・テンポのどちらに従うかを選ぶことができます。
 - **Preset** :テンポ設定はプリセット毎に保存され、呼び出されます。
 - **Global** :プリセット内に保存されたテンポ情報は無視されます。このオプションを「Global」に設定した状態でプリセットを保存しようとする、現在設定したテンポ値がそのプリセットと共に保存されることになります。
- **Tempo (ノブ 4)** : (リズムに合わせて **TAP** ボタンを押す代わりに) 現在選択したプリセットへ特定のテンポの数値を入力します。この値はプリセット毎に個々に保存されます。

ページ 7、Setup : Variax Options



Setup ページ 7 - Variax が接続されていません



Setup ページ 7 - James Tyler Variax が接続されています

上記の図で示されているように Variax が POD HD Pro **VARIAX** (VDI) インプットへ接続されている場合、Setup ページ 7 にモデル固有の追加オプションが表示されます。Variax が接続されている場合、その Variax の種類およびファームウェア・バージョンが画面の右上に表示されます。表示される使用可能なオプションや動作は、接続されている Variax の種類によって変わります (以下のセクションを参照してください)。いずれの Variax が VDI インプットに接続されている場合でも、ノブ 1 の機能は以下の通りです。

- **Variax Control (ノブ 1)** :全ての Variax のセッティングを、各プリセットまたはグローバルでアサインするかを Setup ページ 7 の画面で選択してください。
 - 「Preset」を選択した場合、Variax Setup 画面 (Setup ページ 7 と 8) に表示されるパラメーターは POD HD Pro の各プリセットに保存され呼び出されます。Variax が接続された状態で「Preset」を選択すると、画面に追加のオプションが表示されます。

- 「Global」を選択した場合、POD HD Proのプリセットで保存されたVariaxの設定とは関係なく、全てのVariaxの機能を手動でコントロールすることができます。

*注：James Tyler Variax (JTV) の場合、ギターのMag/Modelスイッチ（「Variax」インプット・ソースを通して聞こえている）が各プリセットまたはグローバルのどちらで呼び出されるかを決定します。

また、Setupページ8－JTV Tuning OptionはこのVariaxコントロール・セッティングに影響されません。チューニング設定は各プリセットに保存されます。

James Tyler® Variax®

全てのJames Tyler Variax (JTV) ファミリーのギターに対応しています。追加のJTVオプションの詳細は[2・16ページの「ページ 8、James Tyler Variax Tuning Options」](#)をご覧ください。



- Variax Control (ノブ 1) : [2・11ページ](#)をご覧ください。
- Model (ノブ 2) : Variaxのモデルおよびピックアップの位置の設定を選択します。JTVのモデルをPOD HD Proに保存されたモデルで置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください。
- Local Control (ノブ3) : JTVのボリュームとトーン・ノブ、およびセレクター・スイッチをアクティブのままにするか「ロック」するかを決定します。ロックされている場合、JTVのモデリング・ギターのアウトプットをノブおよびスイッチによって手元で操作することができなくなります。

*注：JTVギターのマグネティック・ピックアップ出力を使用している場合、Local Control - Lockedのセッティングではボリューム・ノブのみがロックされます。ノブ3で「ロック」が選択されている場合も、マグネティック・ピックアップ出力のトーンおよびピックアップ・スイッチの機能はロックされていない状態です。これにより、マグネティック・ピックアップ・アウトプット・モードの時はJTVのトーン・ノブやピックアップ・セクターを自由に使いつつ、モデル・アウトプット・モードに戻った際にはモデリングされた設定を「ロック」したままで使用することが可能になります。

また、これらのJTVコントロールがロックされている場合、JTVギターのModel Encoderノブを変更すると全てのロックが自動的に解除されます。

- ・ ノブがPOD HD ProアンプやFXパラメーターにアサインされている場合、JTVのボリュームおよびトーン・ノブを「ロック」しておくとう便利です。詳細は [B・16ページの「エクспレッション・ペダルとVariax®ノブ・コントローラーのアサイン」](#) をご覧ください。
- ・ JTVのピックアップ・セクター・スイッチを「ロック」すると便利な場合もあります。例えば、アコースティック（モデル）とエレクトリック（Mag）を行き来する場合、アコースティック・モデルをロックしておけばエレクトリックを弾いた時につまみを回したりピックアップを変えたりしても、アコースティックに戻った時に影響がないようにできます。
- ・ **Tone（ノブ4）**：JTVのトーン・ノブの数値を現在のプリセットと一緒に保存する、またはVariax Control（ノブ1）のセッティングでグローバルに適用することが可能です。

Variax Electric

全ての第1世代Variaxエレクトリック・ギターに対応しています。



- **Variax Control (ノブ1) :** [2・11ページ](#)をご覧ください。
- **Model (ノブ2) :** Variax のモデルおよびピックアップの位置の設定を選択します。JTVのモデルをPOD HD Proに保存されたモデルに置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください
- **Local Control (ノブ3) :** この機能は第1世代Variaxには適用されないため、選択可能なオプションはありません。
- **Tone (ノブ4) :** Variax ギターのトーン・ノブの数値を現在のプリセットと一緒に保存することができます。

VariaxAcoustic 700

Variax Acoustic ギターの追加機能は、Setup ページ 7a および 7b に表示されます。マルチファンクション・ノブ1、2、3は共通のコントロールで両方のSetup ページに表示されます。ノブ4は各ページ固有のものです。



- **Variax Control (ノブ1) :** [2・11ページ](#)をご覧ください。
- **Model (ノブ2ーページ7a、7b) :** Variax Acoustic のモデルを選択します。JTVのモデルをPOD HD Proに保存されたモデルに置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください。
- **Local Control (ノブ3ーページ7a、7b) :** この機能はVariax Acousticには適用されないため、選択可能なオプションはありません。
- **Mic Position (ノブ4ーページ7a) :** この数値を動かすと、アコースティック・ギターのサウンドホールの近くから遠くヘマイキングの位置を移動するシミュレーションをすることができます。
- **Comp (ノブ4ーページ7b) :** Variax Acoustic にかかるコンプレッサーの強さを選択します。

Variax Bass 700 & 705

Variax ベースの場合、ベースのコントロールは Setup ページ 7a、7b および 7c に表示されます。マルチファンクション・ノブ 1、2、3 は共通のコントロールで両方の Setup ページに表示されます。ノブ 4 は各ページ固有のものです。

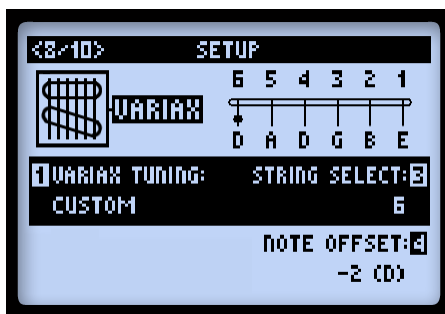


- Variax Control (ノブ 1—ページ 7a、7b および 7c) : [2・11 ページ](#)をご覧ください。
- Model (ノブ 2—ページ 7a、7b および 7c) : Variax ベースのモデルを選択します。Variax ベースのモデルを POD HD Pro に保存されたモデルに置き換えたくない場合は「Don't Force」を選択してください。
- Blend (ノブ 4—ページ 7a) : このノブを調整することで、ベースのネック側とブリッジ側のピックアップのバランスを取ることができます。
- Bass (ノブ 4—ページ 7b) : 低域の量を調整します。
- Treble (ノブ 4—ページ 7c) : 高域の量を調整します。

ページ 8、James Tyler Variax Tuning Options

ページ 8 Setup 画面は、James Tyler Variax ギターのチューニング・オプションを表示します*。これにより、接続された JTV ギターのオルタネート・チューニングの設定やエディットを行い、あらゆる POD HD Pro のプリセットと一緒に保存することができます。

*注：このチューニング機能は James Tyler Variax ファミリーのギターのみで使用できます。JTV が接続されていない（または第一世代の Variax が接続されている）場合、この画面に選択可能なオプションは表示されません。



- **Variax Tuning (ノブ 1)** : JTV ギターのチューニングが POD HD Pro のプリセットに影響されないようにするには「Don't Force」を選択してください。自分のチューニングを作成したい場合は「Custom」を選び、現在のプリセットに保存してください。
- **String Select (ノブ 3)** : 音程を変えたい弦（1 から 6）を選択します。
- **Note Offset (ノブ 4)** : プラスまたはマイナスを選択して、選択されている弦を半音ずつ上げる、または下げると画面上部のチューニング・グラフィックに反映されます。例えば、上記のスクリーンショットでは低い E（6 弦）を半音 2 つ下げて D の音*にしています。

*注：オフセット数値は常に正確です。使用しているギターが A=440Hz でスタンダード・ピッチ（EADGBE）でチューニングされているという前提で音程が表示されます。

ページ 9、Setup: L6 LINK Audio



これらのオプションは、L6 LINKを使用してPOD HD Proのオーディオ信号をLine 6 DTシリーズのアンプ（4台まで）およびStageSource™パワード・スピーカーに接続するための設定を行います。4台のアンプの設定は各プリセットに保存されます。複数のDTアンプおよびStageSourceスピーカーがPOD HD Pro-L6 LINKアウトプットに接続されている場合、各々が画面上に表示されます。例えば上記のスクリーンショットでは、「DT50」は#1アンプの位置に接続されています（これらはインジケータのラベルのみであり、プリセットには保存されません）。

1-4アンプ・オプション—L6 LINKで接続されている各DTアンプおよびStageSourceスピーカーに送られるPOD HDのオーディオ信号を選択してください。各アンプに送られるL6 LINKの信号はモノです。

- POD HDのメインのアウトプット信号を**L、R、L/R**（モノにまとめられる）のいずれにするかを選択してください。
- POD HDのアンプ・モデルのアウトプットを1つまたは2つから選択してください—**アンプ・モデルA、アンプ・モデルB、またはアンプ・モデルA/B**の両方。
- 接続されているDTアンプまたはStageSourceスピーカーを無音にするには、**ミュート**を選択してください。これは、DTアンプおよびStageSourceスピーカーにL6 LINKで接続されている場合に便利です*。StageSourceを「ミュート」状態でPOD HDのプリセットを保存し、エレキ・ギターのサウンドをDTアンプからのみ聞こえるように設定したり、別のプリセットでDTアンプを「ミュート」にしてアコースティック・ギターをStageSourceスピーカーからのみ聞こえるように設定したりすることが可能です。Line 6 Variaxギターを使用している場合、これらエレキおよびアコースティック・ギターのセッティングもPOD HDのプリセット内に保存することができます。

*注：StageSourceスピーカーは、L6 LINKの信号のチェーン内では必ず最後の位置に接続してください（例：POD HD Pro > DT50 > StageSource L3）。L6 LINK接続、DTシリーズのアンプおよびStageSourceスピーカーについての詳細は、弊社ウェブサイト（<http://jp.line6.com/support/manuals/>）にある説明書をご覧ください。

ページ 10、Setup: L6 LINK Control

2・18



これらのオプションにより、最大4台まで接続したLine 6 DTシリーズのアンプが POD HD Proのアンプモデル&セッティングにそれぞれどのように追従するのかを設定することができます。パラメーター1～4は、L6 LINKに接続されたDTシリーズのアンプ1～4にそれぞれ対応します。

- 各DTアンプは、現在選択されているプリセットアンプ・モデルAまたはアンプ・モデルBのどちらに従わせるのか、個々に設定することができます。
 - DTシリーズのアンプは、選択したアンプ・モデルAまたはBに適したパワーアンプ Topologyセッティングを自動的に設定します。
 - DTシリーズのアンプ・コントロールもまた、選択したアンプ・モデルA または Bに同期されます。
- あるいは、MIDIチャンネルを選択してDTアンプのMIDIコミュニケーション・チャンネルを設定することも可能です。これにより、それぞれのDTアンプが（POD HD Pro アンプ・モデルではなく、むしろ）本体に内蔵されているアンプ・モデルを利用するように効果的に設定し、またそれ自身のフロント・パネル・コントロールを、同じMIDIチャンネルに設定されている他のDTシリーズのアンプと「同期」させることができます。

*注:これらのL6 LINKコントロール・セッティングはDTシリーズのアンプでのみ使用可能であり、接続されているLine 6 StageSourceスピーカーでは無視されます。StageSourceスピーカーはMIDI CCメッセージには対応していません。

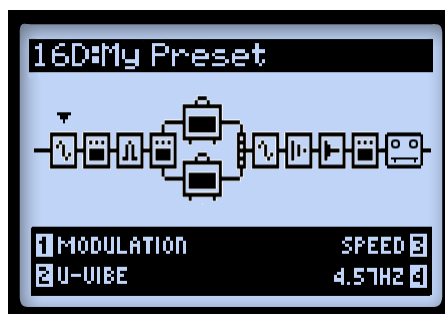
3 - 特徴&機能

この章ではPOD® HD Proが提供する主な特徴と機能について詳しく説明します。

エフェクト・ブロック

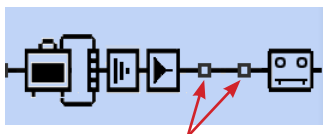
各プリセットには常に合計8種類のエフェクト・ブロックがあり、それぞれにどのような エフェクト・モデルも読み込むことができます（エフェクト・ループも例外ではありません。次のセクションをご覧ください）。シグナル・フロー・ビューの画面でエフェクト・ブロックを選択すると、マルチファンクション・ノブ1～4で調整可能なオプションが画面下に表示されます。

3・1



エフェクト・ブロックを選択した状態のシグナル・フロー・ビュー

- モデル・タイプ（ノブ 1）：エフェクト・モデルの中から選択します。
- 選択したブロックへエフェクトを読み込まない場合は、Noneを選びます。ブロックが何も無い状態で表示されますが、この状態で移動したり、新しいモデルを読み込んだりすることが可能です。トーンのDSP使用量を最小限に留めるためにも、必要のないエフェクト・ブロックを None に設定しておくことをお勧めします（[3・8ページの「ダイナミックDSP」](#)参照）。



モデルを「None」に設定した場合のエフェクト・ブロック

- エフェクト・モデル（ノブ 2）：モデル・タイプの一覧から気に入ったモデルを選びます。

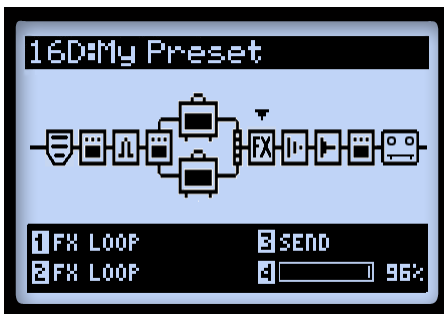
- エフェクト・パラメーター（ノブ 3）：調整可能な最大5種類のパラメーターの中から選びます。あるいは**ENTER**ボタンを2度押しして全モデルのパラメーターが表示されている画面にアクセスすることもできますー [5・1ページの「5 - エフェクト・エディット・モード」](#) 参照。
- パラメーター値（ノブ 4）：選択したパラメーターの値を調節します。

各エフェクト・ブロックには以下の機能も備わっています：

- **On/Off**：**ENTER** ボタンを1回押せばエフェクト・ブロックの「On」と「Off」が切り替わります。「Off」の場合、信号は処理されないままエフェクト・ブロックを通過します。
- **エフェクトの位置を移動**：各エフェクト・ブロックはシグナル・チェーン内を移動させることができるため、柔軟性の高いルーティングが可能です。アンプの前（「Pre」）、アンプの後ろ（「Post」）、パラレル・パス A & B の中の気に入った場所にエフェクト・モデルを置きます。詳細は [6・1ページの「アンプ・モデルの位置決め」](#) をご覧ください。
- **プリセット毎に保存**：全てのエフェクト・ブロック位置、読み込まれたエフェクト・モデルとトーンの中の全てのエフェクト・パラメーター値が各プリセットと共に保存されます。

FX Loop

8種類のどのエフェクト・ブロックも、エフェクトモデルではなく、エフェクト・ループを読み込むことができます。これによりPOD HD Proハードウェアのエフェクト・ループを信号経路内であればどこでも好きな所に置くことができます。たとえそれがパラレル・パス A や B の中でも可能です！



エフェクト・ループを選択した状態のシグナル・フロー・ビュー

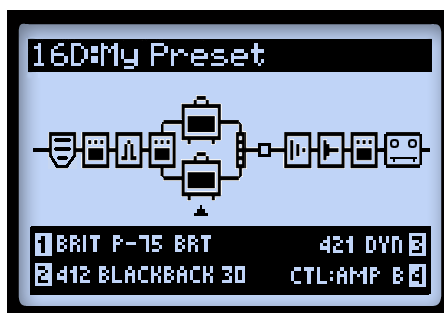
SEND & RETURN デバイスの接続を通して送られる信号が聞こえる前に、プリセット内のエフェクト・ブロックの1つを「FX Loop」に設定しておく必要があります。

シグナル・フロー・ビュー下部、またはエディット・モード画面に表示されるエフェクト・ループのアクセス・オプション **ENTER** ボタンを1回押せば、エフェクト・ループの「On」と「Off」が切り替わります。エフェクト・ループの位置とその全てのパラメーター値はプリセット毎に保存されます。[5・4ページ](#)の「FX Loop」も併せてご覧ください。

アンプ・ブロック

アンプ・ブロックは、信号経路上の「Pre」か「Post」の位置やパラレル・パスA内にひとつ置くことができます。あるいは、以下のようにパスA & B内に置けば2台のアンプを使用することができます。エフェクト・ブロックと同様に、アンプ・ブロックのOn/Off切り替えも可能であり、いくつかのエディット可能なパラメーターが含まれています。しかし、アンプに関しては利用可能な機能がさらにあるため、詳細に関しては[6・1ページ](#)の「6 - アンプ、キャビネット&マイクモデル」を参照してください。

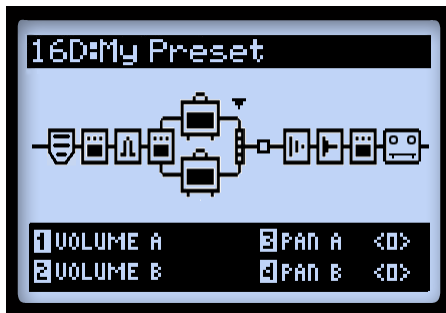
3・3



2つのアンプ・ブロックを持つプリセット

ミキサー・ブロック

ミキサーは常にパラレル・パス A & Bの後ろに位置し、各パスへ出力される信号が「Post」位置へ送られる前に Level と Pan を個々にコントロールすることができます。シグナル・フロー・ビューの中でミキサーを選択すると、その4種類のパラメーターが画面下に表示され、マルチファンクション・ノブ1～4でアクセスすることができます。

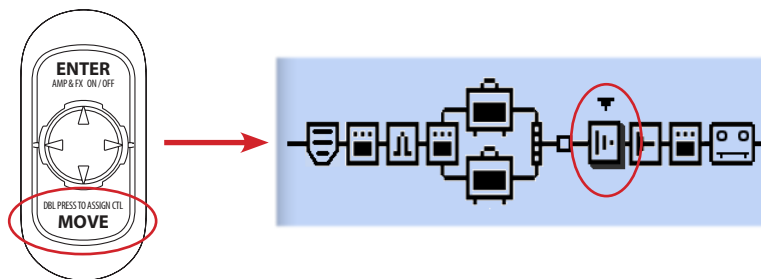


ミキサー・ブロックを選択したときのシグナル・フロー・ビューに表示される4種類のパラメーター

- **Volume A (ノブ 1)** : パス A アウトプットのボリュームレベルをコントロールします。0dB はがユニティ・ゲインです。
- **Volume B (ノブ 2)** : パス B アウトプットのボリュームレベルをコントロールします。0dB はがユニティ・ゲインです。
- **Pan A (ノブ 3)** : パス A アウトプットの左／右ステレオバランスを調整します。
- **Pan B (ノブ 4)** : パス B アウトプットの左／右ステレオバランスを調整します。

エフェクト・ブロックを移動する

8つのエフェクト・ブロックは、トーンの信号経路上で自由に移動させることができるため、柔軟性の高いルーティングが楽しめます。エフェクト・ブロックを移動させるときは、始めにシグナル・フロー・ビューの中から移動させたいエフェクト・ブロックを選びます。**MOVE**ボタンを押すと、選択したエフェクト・ブロックが「持ち上げられたように」表示され、移動可能になったことを示します。



3・5

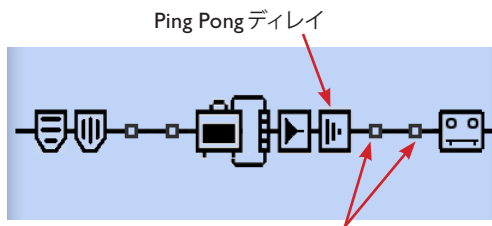
MOVE ボタンを押して、エフェクト・ブロックの位置を移します

FX ブロックは以下のように移動できます：

- ◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用して、エフェクト・ブロックを好きな位置へ移動させます。
- エフェクト・ブロックをパス A か B どちらかの中へ移し、パス内のアンプ・モデルの前か後ろへ置きます。◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用して、エフェクト・ブロックを反対側のパスへ移動させます。これにより、エフェクトを「パラレル」に作動させ、ミキサーの Level & Pan オプションを使用して個々のパス A & B アウトプットをブレンドすることができます！
- エフェクト・ブロックを置きたい場所が決まったら、**MOVE** ボタンを再び押し、その位置でドロップします。
- アンプ・ブロックは Pre や Post の信号経路の範囲内、あるいはパス A & B 内の定位置に移動させることができます。[6・1 ページの「アンプ・モデルの位置決め」](#)を参照してください。
- ルーパーもまた、選択して信号経路の始め（「Pre」）か終わり（「Post」）のどちらかへ移動させることができます。[8・1 ページの「8 - ルーパー・モード」](#)を参照してください。

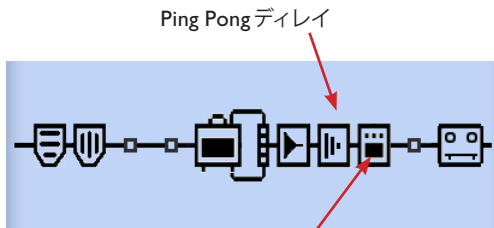
モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング

シグナル・チェーン内にステレオ効果のアウトプットを保持するモデル（全てのEQ、ワウ、ボリューム&エフェクト・ループ、いくつかのモジュレーション、フィルター、ピッチ&ディレイ）もあれば、逆にモノ・エフェクトのモデル（全てのダイナミクス、ディストーション、全てのアンプ&プリアンプ、その他様々なモデル）があることに注意してください。POD HD Proインプット1&2は、ステレオとしてシグナル・チェーンに送られます（2・4ページの「[ページ 3, Setup : Inputオプション](#)」参照）。従って、モノ・エフェクトやアンプ・モデルがどこに挿入されたとしても、このステレオ・シグナルの左右のチャンネルは「モノラル化」され、モデルのアウトプットで2チャンネルのモノ・シグナルとして聞こえます。以下がその例です：

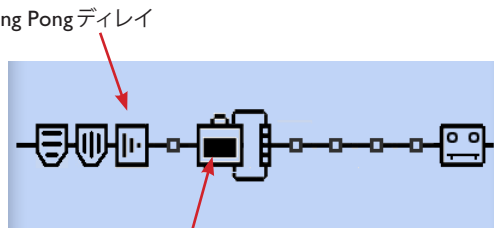


ディレイの後ろへモノ・アウトプットのエフェクトやアンプが無い場合

- 上記のように、Ping Pongディレイ（ステレオ出力のエフェクト・モデル）を他のエフェクトやアンプ・モデルの後に置くと、そのディレイが左と右のアウトプット間を行き交うのがわかるはずです。



ディレイの後ろにディストーション（モノ）エフェクト・モデルがある場合



同じパス内で、ディレイの後ろにアンプ・モデルがある場合

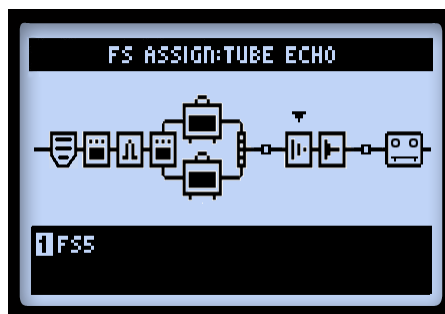
- Ping Pongディレイをモノ・エフェクト・モデル（左上参照）や、同じパス内のアンプ・モデル（右上参照）の直前に置いた場合は、ディレイが「モノラル化」され、左右両方のアウトプットで同じように聞こえます。

- **SEND & RETURN**端子を両方のステレオにセットとして利用するのであれば、エフェクト・ループはステレオ出力のエフェクト・モデルと同様にステレオで使用することができます。Leftの**SEND**または**RETURN**端子のみを使用した場合、エフェクト・ループ信号は結合されてモノになります。
- パラレル・パスAとBそれぞれもステレオのシグナル・パスであるため、上記と同じルールが当てはまります。ミキサー・ブロックは、その直後にある最初の「Post」エフェクト（あるいはアンプ・ブロック）へシグナルを送る前に、各パスのステレオ・バランスを独立コントロールします。
- シグナル・フローに関するさらに詳しい情報は、[6・1ページの「アンプ・モデルの位置決め」](#)をご覧ください。

エフェクト&アンプ・ブロックFBVフットスイッチのアサイン

どのエフェクトとアンプ・ブロックもまた、接続したLine 6 FBV™コントローラーを利用して離れた場所からブロックのモデルのOn/Offを切り替えるように「FS」（フットスイッチ）に割り当てを設定することができます。詳細は、[B・18ページの「アンプ&エフェクト・ブロック・フットスイッチのアサイン」](#)をご覧ください。

セットアップFS MODEオプション（[2・2ページの「ページ 1、Setup：Utilities」](#)参照）が「FS 5～8」に設定されている場合、FBVデバイスの**A、B、C、D**フットスイッチでFS 5～8に割り当てられたブロックを操作できることを覚えておくと便利です。FSの割り当てを作成し、エディットするときは、シグナル・フロー・ビュー内のエフェクトかアンプ・ブロックを選択してから、**VIEW**ボタンを押します。これによりFS ASSIGN画面が表示されます。全ての割り当てはプリセット毎に保存されます。



FS Assign 画面—ノブ1を使用してブロックのFSの割り当ての作成や編集を行います。

ダイナミック DSP

POD HD Proはサウンドに関する膨大な可能性を提供しますが、それにはかなりのデジタル・シグナル・プロセッシング (DSP) パワーが必要となります。我々は、モデルやシグナル・ルーティングのオプションを減らしてクリエイティブな潜在力を制限するのではなく、DSPのリソースをトーン・コンフィギュレーションへダイナミックに割り振ることのできる「ダイナミック DSP」システムを採用することにした。その結果、非常に大きなパワーを必要とするDSPモデルを複数使用したトーンを作成する場合には、プロセッシング・パワーの限界を超えてしまうことがあります。この場合には**DSP LIMIT REACHED** (DSPの限界に達しました) と表示され、トーンをアクティブにするため、選択されたモデルがバイパスされます。

3・8

DSP Limit の警告が一時的に表示されます

ここでDSPメッセージが表示され、選択したモデルは自動的にバイパスされます。



DSP Limit 警告が表示されたシグナル・フロー・ビュー

この例では、モデルを2台目のアンプに変更しようとする、DSPの制限を越えてしまいます。そのため、**DSP LIMIT REACHED**というメッセージが一時的に表示され、メッセージにあるように、選択されたAmp Bモデルは自動的にバイパスされます。こうしてDSPの限界に達した場合には、DSPリソースを解放するためにいくつかのオプションが考えられます。

- 他のアンプ・モデルを使用する。HDアンプ・モデルの中には、より多くのDSP能力を必要とするモデルがいくつかあるため、違うアンプ・モデルに切り替えてみてください。
- 2種類ではなく、1種類のアンプ・モデルだけを使用する。
- アンプやエフェクトモデルを「Off」に切り替えるか、ブロックのモデルを「None」に設定してみてください (3・1ページの「[エフェクト・ブロック](#)」参照)。ピッチ・シフターとリバーブ等、いくつかのエフェクト・タイプにはより多くのDSP処理能力が使われます。

注意：アンプやエフェクト・ブロックを「None」に設定する方が、そのブロックのモデルをオフへ切り替えるよりも、DSP使用率を大幅に減らすことができます。

- 気に入ったトーンがカスタマイズできたときは、後から呼び出せるように保存しておく便利です。

4 - セトリスト&プリセット

この章では全てのPOD® HD Pro トーンを使いこなすために、知っておくべきセトリストとプリセットを使った作業について説明します。

無償提供される Line 6 POD HD Pro エディット・ソフトウェアも忘れずにチェックしてください。Mac®やWindows®コンピュータ上でPOD HD Proのセトリスト & プリセットを数に制限無く作成、カスタマイズ、管理することができます! 4・[1・6ページ](#)の「[POD HD Pro エディット・ソフトウェア](#)」をご覧ください。

4・1

セトリストを使って作業をする

POD HD Proは、8種類のセット・リスト内に最大64プリセットを保存できます。そのセット・リストのひとつをロードして、完全な設定を保存したどのプリセット位置にもアクセスしたり、そこからプリセットをロードすることが可能です。

セトリストにアクセスする

PRESETS ノブを押して Set Lists 画面を表示させます。



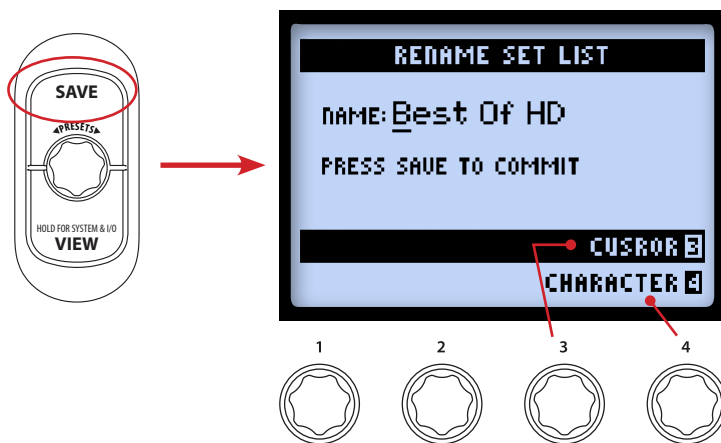
Set Lists 画面

DTシリーズ・アンプ・オーナー…「L6 LINK<->DT」セトリストには、特にL6 LINK接続を利用してDTシリーズ・アンプを接続したPOD HD Proと共に使用するためにデザインされたプリセットが満載されています。さらに、そのタイトルに「LVM」が含まれているこのセトリスト内のプリセットは、その「Low Power Mode」に設定されたDTシリーズ・アンプセットと共に使用するためにデザインされています。

セトリスト&プリセット

セトリストを読み込む：◀▶と◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用するか、**PRESETS**ノブを回してセトリストを選び、次に**ENTER**ボタンを押します。これにより選んだセトリストが直ちに読み込まれ、そのプリセット全てが利用可能になります。前回読み込んだプリセットは自動的にキャンセルされ、新しいセトリストから同じバンク/チャンネル位置番号のプリセットが読み込まれることに注意してください。

セトリストのリネーム：セトリストを選択した状態で、**SAVE**ボタンを押してRename Set List画面を表示させます。



セトリストのネームをエディットするときは、マルチファンクション・ノブ3を使用して文字の位置を選び、ノブ4を使用してその文字をエディットします。エディットが終了したら、再び**SAVE**を押して新しいネームを確定すると、Set Lists画面に再び戻ります。ただ**PRESETS**ボタンを押すと、ネーム変更を確定せずにSet Lists画面に戻ることができます。

セトリスト内のプリセットを並び替える

Set Lists 画面の中で2度 **ENTER** ボタンを押すと、現在選択中のセトリストの中のプリセットリストが表示されます。ここで各プリセットのバンク/チャンネルの場所を参照し、プリセットを読み込んだり、好きな順序にプリセットを並び替えることができます。

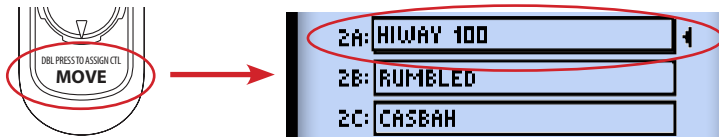


Set List — Presets 画面

プリセットを読み込む: ナビ・ディスク・ボタンか、**PRESETS** ノブを使用して64箇所の中からどれかを選びます。あるいは、◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用してリストの中のバンクを1つずつ目を通します。**ENTER** ボタンを押すと、選んだ場所のプリセットが直ちに読み込まれます。

プリセットを移動する: ここで例として「HIWAY 100」プリセットを2Aの場所から2Cへ移動してみましょう。

- 2Aの場所を「HIWAY 100」用に選択し、**MOVE** ボタンを押します。選択したプリセットが「持ち上げられたように」表示され、移動可能になったことを示します：



セットリスト&プリセット

4•4

- ナビ・ディスク・ボタンか**PRESETS**ノブを使用して、2Cの移動先を選びます。新しくバンク／チャンネルの場所を選ぶと、その結果となるプリセットの順序が画面に表示されることに注意してください。例として「HIWAY 100」を2Cへ入れたことで、プリセットの中の元の位置(2A)から移動先(2C)へスロットが変わります：



「Hiway 100」が2Aから2Cへ移動

- プリセットを好きなチャンネルの位置へ置いたら、**MOVE**ボタンを再び押してスロットの中へ「ドロップ」します。
- 気に入った順序に並び替えたいプリセットが他にある場合は、上記の手順を繰り返してください。変更を全て確定させるためには、**PRESETS**ボタンを必ず押してください。変更を保存中であることを示す「Saving」画面が表示されます。



Set List Saving画面

プリセットを使って作業をする

POD HD Proの中の8個のセトリストには、それぞれプリセットを保有するための64個のメモリーが含まれています。これらのセトリストとプリセットは、POD HD Proの内蔵メモリーに全て保持されています。このガイド全体を通じて示されているように、各プリセットには、現在使用中の全てのエフェクト & アンプ、それら全てのパラメーター、シグナル・フロー内のそれらの位置、フットスイッチ & ペダル割り当て、ミキサーセッティング、そしてインプット & アウトプット・オプションとその他のSetupオプションも同様に含まれています。

プリセットへアクセスする

ホーム・ビュー画面のどこからでも、**PRESETS**ノブを回すだけで現在選択中のセトリスト内を1つずつ確認することができます。現在読み込まれているバンク/チャンネル番号とプリセット・ネームがホーム・ビュー画面の上部に表示されます。(プリセットに変更を加えた後も内容をそのまま保持したい場合は、他のプリセットを読み込む前に、必ず保存してください!)



PRESETSノブを回して1つずつプリセットを確認します

なお、Set Lists - Preset画面内からセトリストの中に存在するプリセットにアクセスすることも可能です([4・1ページ](#) 参照)。

FBV™コントローラー A、B、C、Dチャンネル・フットスイッチ

別売りのLine 6 FBVコントローラーが接続されていれば、バンク・アップ▲またはバンク・ダウン▼**A、B、C、D**フットスイッチを使用してバンク&プリセット全体を一覧することができます。[B・1ページの「FBV MkII & FBVシリーズ・コントローラー」](#)も併せてご覧ください。

- FBVのバンク・アップ▲またはバンク・ダウン▼フットスイッチを押すと、バンク名の並ぶリストが表示されます。現在選択されているバンク/チャンネルがリストの筆頭で点滅します：



バンク名表示画面一次のバンクを順に表示

- FBVのバンク・ダウンまたはバンク・アップフットスイッチを押し続けると、上記の通り、前/次のバンクの**A、B、C、D**チャンネルとそのプリセットが並んで表示されます。**A、B、C、D**フットスイッチのいずれかを押して、バンク名の並ぶリストからプリセットを選択して読み込みます。

プリセットの保存

プリセットに対して行った変更を保ちたい、リネームしたい、または現在選んだプリセットを移動したい、という場合にはSave機能を使います。現在のプリセットが「未保存」の場合、シグナル・フロー・ビューの中でアスタリスク（*）が表示されます。



*が付いているプリセットは、まだ保存されていないことを意味します

変更を行ったプリセットを保持したい場合は、他のプリセットを呼び出す前に忘れずに保存してください！

SAVE ボタンを押して Save Preset 画面を表示させます。



Save Preset 画面

マルチファンクション・ノブ1～4を使用して保存機能を選びます。

- **Set List (ノブ 1)**:プリセットの保存先を8個のセトリストの中から選びます。デフォルトにより、現在読み込んだセトリストが表示されます。
- **Destination (ノブ 2)**:カスタム化したプリセットへの上書きを避けるために、「New Tone」が含まれている場所を選択します。
- **Cursor & Character (ノブ 3 & 4)**:プリセットをリネームするときは、ノブ3を使用して文字の位置を選び、ノブ4を使用して選んだ文字をエディットします。

ヒント！ プリセットのネーミングをスピーディーに行う…ナビ・ディスク・ボタンを使用して、カーソルを左右に移動させます。現在選択されている文字をクリアする場合は「ダウン」を押します。「アップ」を押すと、最初の文字が大文字、小文字、数字、空白と順に変わります。

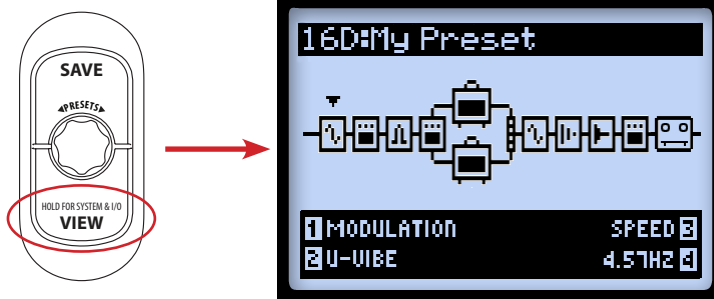
上記のセッティングが終了したら、**SAVE** ボタンを押して確定します。また、保存操作をキャンセルする場合は、**PRESETS** ノブか **VIEW** ボタンを押します。

5 - エフェクト・エディット・モード

この章では、エフェクトのために用意されたエディット・モードについて説明します。このモードからエフェクト・モデルとエフェクト・ループのエディット可能なパラメーター全てにアクセスすることができます（アンプ・モデルに関する詳細は、[6・6 ページの「アンプ・パラメーターをエディットする」](#)をご覧ください）。エディット・モードで行った変更は全てプリセット毎に保存されます。

エフェクト・エディット・モードにアクセスする

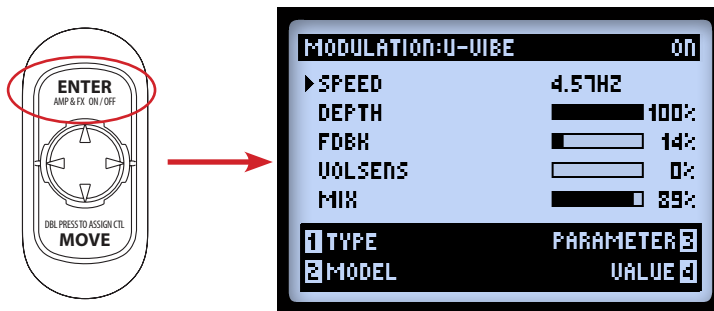
最初に**VIEW**ボタンを押してシグナル・フロー・ビューを表示させ、次にエディットしたいエフェクト・ブロックを選びます。



5・1

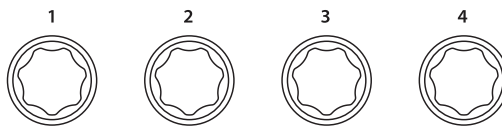
シグナル・フロー・ビューモジュレーション・エフェクト・ブロックが選択されている場合

◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用して、エディットしたいブロックを選びます。例では、現在モジュレーション・モデルが読み込まれている最初のブロックが選択されています。選択したブロックのエフェクト・モデルに対し、いくつかのオプションをエディットする場合は、シグナル・フロー・ビューの表示中にマルチセレクト・ノブ1～4を使用して行うことができますがエディット・モード画面に入ることによって、全てのパラメーターにへ即座にアクセスすることが可能です。**ENTER**ボタンを2度押しすると、エディット・モードが表示されます。



エフェクト・エディット・モードーModulation: U-Vibe エフェクト・モデルが読み込まれている場合

マルチファンクション・ノブ1～4を使用して、エディット・モード画面下方に表示されている、それぞれ番号の付いているオプションにアクセスします。

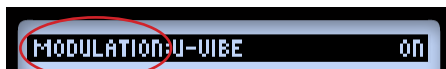


マルチファンクション・ノブ

エディット・モード画面の表示中にこれらのノブを使用すると、以下の機能にアクセスすることができます。

ノブ1ータイプ

このブロックの位置に挿入したいエフェクト・モデルのタイプを選びます。画面上部に選んだタイプが表示される s y。その右にモデルの On/Off も表示されます。



- **None**: ブロックからエフェクト・モデルを外すときは、「None」を選びます。
- **エフェクト**: エフェクト・タイプのリストから選びます。
- **FX Loop**: 技術的にはエフェクト・モデルではありませんが、そのデバイスのエフェクト・ループを挿入し、そのオプションも同様にエディットすることができます! [5・4ページの「FX Loop」](#)をご覧ください。

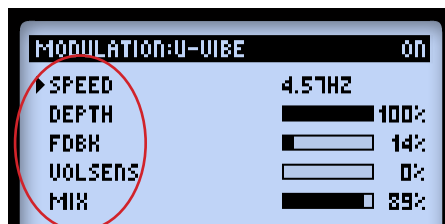
ノブ2ーモデル

現在選択されているエフェクト・タイプに特定のモデルを選びます。画面上部に選んだエフェクト・モデルが表示されます。



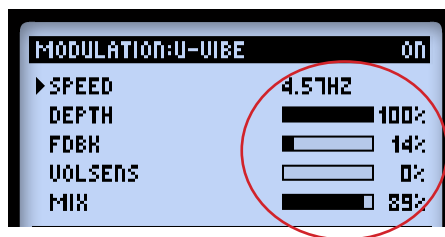
ノブ 3－パラメーター

◆ナビ・ディスク・ボタンを使用して表示されているパラメーターの中から選びます。「選択した」パラメーターは、左側に矢印が付いて示されます。



ノブ 4－値

選んだパラメーターの値を設定します。

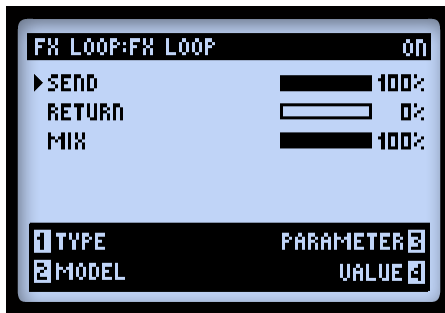


上記で示されるように、数値を使用するパラメーターもあれば、グラフィックのバー表示を使用するパラメーターもあります。

ヒント:ほぼ全てのエフェクトとエフェクト・ループのパラメーターは、FBV™エクスプレッション・ペダルのコントロールに割り当てることができます! [B・16ページの「エクスプレッション・ペダルとVariax®ノブ・コントローラーのアサイン」](#)をご覧ください。

FX Loop

FXループはどのエフェクト・ブロックでも、その中に1つ挿入することができます。



エフェクト・ループ・エディット・モード画面

5•4

エフェクト・モデルの場合と同様に、パラメーター & 値のセッティングを調節します。これらのエフェクト・ループ・エディット・モードの設定はプリセット毎に保存されます。

- **Send:**エフェクト・ループ**SEND**アウトプットから外部デバイスへ送られる信号レベルを減らします。

注意：POD® HD Proの背面に位置する**LINE-STOMP**スイッチを使用して、ラック・エフェクト対ペダルのレベルを選びます。このSendパラメーターは、接続したデバイスに送るレベルをさらに微調整するために使用することができます。

- **Return:**エフェクト・ループ**RETURN**インプットで受け入れる信号レベルを調節します。
- **Mix:**POD HD Pro トーン信号と、エフェクト・ループ信号をブレンドします。100%に設定されている場合、POD HD Proの信号はフルのままエフェクト・ループ**SEND**アウトプットへ送られます。0%に設定されている場合、入力信号はエフェクト・ループを完全にバイパスするため、POD HDが処理をした信号だけを聴くことができます。必ずMixを100%以下に設定するか、エフェクト・ループ・ブロックを「Off」に切り替えてください。デバイスの**SEND&RETURN**端子間の接続が完全ではない場合、POD HD Proのアウトプットから聞こえるのは静寂のみということになってしまいます！

6 - アンプ、キャビネット&マイクモデル

この章では代表的なHDギター・アンプ & プリアンプ・モデルの選択とエディットに関する詳細を説明します。これらは全てPOD® HD Proの驚くべきサウンド・エンジニア・チームによって新たに開発されたモデルです！さらに、スピーカー・キャビネット、マイク・モデル、使用するアンプ・モデルに関する詳細も併せて記載します。

アンプ・モデルの位置決め

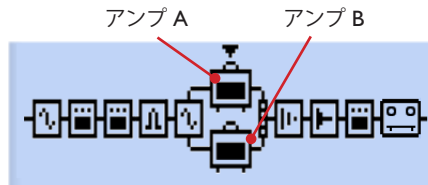
各プリセットで、1台または2台のアンプまたはプリアンプ・モデルを動作させることができます。各エフェクト・ブロックのように、アンプ・ブロックもまた **MOVE** ボタンを使用して別の位置に移動させることができます（[3・5ページの「エフェクト・ブロックを移動する」](#)参照）。ここでは、アンプの位置を変えた場合のシグナル・フローへの影響について説明します。

*注:マイク・プリアンプ・モデルをお探しですか？ ヴィンテージ・プリモデルは、全てのFXブロックの「Preamps+EQ」カテゴリー内にあります。プリアンプ・モデルがFXブロックにある（アンプ・ブロックではなく）ことにより、アンプ・モデルと共に、もしくはアンプ・モデルを使用せずに、シグナル・チェーンのどの位置でも使うことができる柔軟性が実現しています。詳細は[7・9ページの「プリアンプ+EQモデル」](#)をご覧ください。

6・1

パス A & B 内のアンプ

いくつかのファクトリー・プリセットが、既にこの種の設定を利用しています。1 種類のアンプ・モデルを移動させると、自動的に 2 番目のアンプ B ブロックがパス B の中に作られます。この設定では、上のアンプが Amp A、下が Amp B と呼ばれます。



パス A & B 内のアンプ・モデル

この設定における動作は：

- 各アンプ・ブロックは、別のアンプやプリアンプ・モデルに独立設定でき、また編集や有効/無効の設定を行えます*。

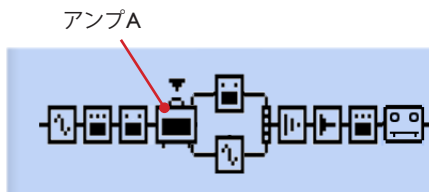
注意：アンプ/プリアンプ・モデルの中には、他よりも多くのDSPを使用するものがあります。2台のアンプを同時に使用するためには、エフェクト・モデルをいくつかバイパス、あるいは外す必要が出てくる場合もあります。詳細は[3・8ページの「ダイナミックDSP」](#)をご覧ください。

- どちらのパス内でも前や後ろに動かすことは可能です。
- アンプ・ブロックをパラレル・パスA/Bから出す場合には、以下のような操作になります：
 - アンプAを選び、**MOVE** ボタンを押し、次に▶ナビ・ディスク・ボタンを押します。これでアンプ Bがトーンから外されて、アンプAがポスト位置へ移動し、ミキサーのすぐ後（および「Post」エフェクトの前）に置くことができます。
 - アンプAを選び、**MOVE** ボタンを押し、次に◀ボタンを押します。これでアンプ Bがトーンから外されて、アンプAが Pre 位置へ移動し、パスA/Bが分かれるすぐ前（および「Pre」エフェクトの後）に置くことができます。
 - 上記の動作のため、アンプBが選択されている際に**MOVE** ボタンを押しても何も機能しません。

6・2

PreやPost位置のアンプ・ブロック

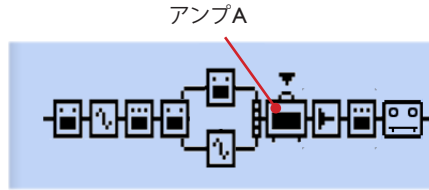
これらの位置では、どちらにあってもアンプ・ブロックは1種類のみ使用可能です。



「Pre」位置（パスA & Bの前）のアンプ

上記のようにアンプが Preにある場合、1台のアンプが両方のパス A & Bへ信号を送ります。パス Aか Bのどちらかにエフェクトを動かすことはいつでも可能です。その場合、これらはパラレルになり、各パスのアウトプットがミキサーの A & B Level、Panによってコントロールされる「ポスト・アンプ」エフェクトとして動作します。

インプット1 & 2の両方を使用する（またはこれらの Inputオプションにどちらも「SAME」を選ぶ）と、Pre位置のアンプやモノ・エフェクトモデルに2つの入力信号を結合して送るようになるため、信号レベルが上がり過ぎることがあります。プリ位置のモデルのオーバーロードを避けるために、楽器のボリュームは 必要に応じて下げてください。



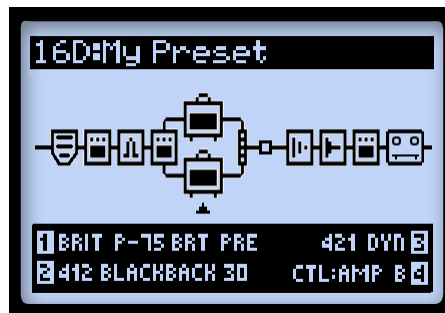
「Post」位置（パス A & Bの後）のアンプ

上記のようにアンプが Postにある場合、パラレル・パス A & Bがアンプのインプットへ送られます。*
パス Aか Bのどちらにもエフェクトを動かすことは可能です。その場合、これらはパラレルになり、各パスのアウトプットはミキサーの A & B Level、Panパラメーターによって個々にコントロールされるため、アンプへ届く前にカスタム・ブレンドすることができます。

注意：全てのアンプ & プリアンプは「モノ」モデルとして動作し、シグナル・フロー内で、それらの前に置かれたエフェクト・モデルのステレオ出力に影響を与えます。詳細に関しては、[3・6ページの「モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング」](#)をご覧ください。

アンプ、キャビネット、マイク・モデルを選ぶ

VIEW ボタンを押してシグナル・フロー・ビューを表示させ、ナビ・ディスクを使用してアンプ Aかアンプ Bを選びます。



アンプ Bを選択したときのシグナル・フロー・ビュー

アンプ・モデルを選ぶと、画面下方に4種類のエディット可能なアンプ・オプションが表示されます。マルチファンクション・ノブ1～4を使用してアクセスします。

- ノブ 1ーアンプ・モデルを選びます。
- ノブ 2ーキャビネット・モデルを選びます。

- ノブ 3—マイク・モデルを選びます。
- ノブ 4—選択したプリセットに 2 種類のアンプ・モデルが含まれている場合、どちらのアンプ（パス A や B 内のアンプ）をアンプ・トーン・ノブでコントロールするかをこのノブで設定します。

アンプ・モデル（ノブ 1）を変更すると、各アンプやプリアンプに対して、デフォルトのキャビネットとマイク・モデルが自動的に選択されます（[6・5 ページの「デフォルトのアンプ・セッティングについて」](#)参照）。ノブ 3 & 4 を使用して、好きなキャビネット・モデル、マイク・モデルをどれでも選択することができます。これらの設定はプリセット毎に保存されます。

ベシスト向けのヒント：パンチが欲しい場合は、Flip Top Bass Amp モデルをお試しください。このモデルでは、最高のベース・サウンドを出すためにマッチした 1x15 Flip Top スピーカー・キャビネットやマイク・モデル一式がロードされます（もちろん Flip Top Bass Amp モデルで他のキャビネットを選択することも、ギター・アンプとして Flip Top キャビネットを使用することも可能です）。これらのモデルについての詳細は以下のセクションをご覧ください。

アンプとプリアンプ・モデル

各アンプの「プリアンプ」バージョンも用意されています。その中から 1 種類を選び、アンプのプリアンプ段のトーンだけを得ることができます。その中から 1 種類を選び、アンプのプリアンプ段のトーンだけを得ることができます。POD HD Pro のアウトプットを外部アンプに送る場合や、L6 LINK™ 接続を使用する場合には推奨されます。*



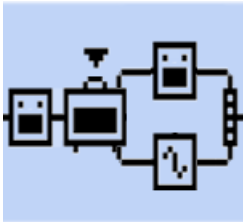
プリアンプ・モデルはアンプ B 用を選びます。

アンプかプリアンプのどちらを選んでも、キャビネットとマイク・モデルの追加アプリケーションは、**SETUP: OUTPUT** 設定によって決まります。[2・8 ページの「ページ 4、Setup : Output」](#)をご覧ください。

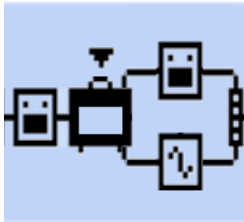
異なるアンプ間では全体のボリュームレベルにばらつきがありますが、これは正常です。当社モデリングしたクラシックなアンプそれぞれのプリアンプ・セクションは、全く異なります。従って、それらが送られるであろうパワー・アンプのタイプに最適なプリアンプのデフォルト値を設定しました。**DRIVE** と **VOLUME** ノブで必要なレベルが得られるまで微調整してください！

アンプ・ブロックの状態

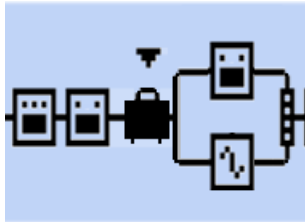
アンプ・ブロックの状態には3種類あります：オン、オフ（バイパス）、無効（ブロックが「Null」の状態と呼ばれることもあります）。



アンプ・ブロック「On」



アンプ・ブロック「Off」



アンプ・ブロック「無効」(Nullブロック)

デフォルトのアンプ・セッティングについて

別のアンプやプリアンプ・モデルに変更すると、あらかじめ決められたキャビネット&マイク・モデル、アンプ・トーンを補完するようデザインされたアンプ・トーン・ノブの設定が自動的にロードされます。この章を通して既に記載されているように、キャビネットやマイク・モデルは変更可能です。その場合、変更を保持するためにプリセットは必ず保存してください。

マイク・モデル

以下は全てのマイク・モデルのリストです。全てのギター・アンプのキャビネットで8種類のマイクが用意されており、1x15 Flip Top Bassキャビネットでは独自のマイク・モデルが8種提供されています。

マイク・モデルの詳細	
マイク名	以下の製品がベース*
ギター・キャビネット・マイク・モデル	
57 On Xs	Shure® SM57 ダイナミック、オン・アクシス
57 Off Xs	Shure® SM57 ダイナミック、オフ・アクシス
409 Dyn	Sennheiser® MD 409 ダイナミック
421 Dyn	Sennheiser® MD 421 Dynamic
4038 Rbn	Coles 4038 リボン
121 Rbn	Royer® 121 リボン
67 Cond	Neumann® U67 コンデンサー
87 Cond	Neumann® U87 コンデンサー

*本書で使用されている全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これら他社の商標は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった他社製品の音色とサウンドを識別するためにのみ使用しています。Shure®は、Shure Incorporatedの登録商標です。Sennheiser®は、Sennheiser Electronic Corporationの登録商標です。Neumann®は、Georg Neumann GMBHの登録商標です。Royer®は、Bulldog Audio, Inc. DBA Rover Labsの登録商標です。

マイク・モデルの詳細	
マイク名	以下の製品がベース*
ベース・キャビネット・マイク・モデル	
57 On Xs	Shure® SM57 ダイナミック、オン・アクシス
42I Dyn	Sennheiser® MD 42I ダイナミック
12 Dyn	AKG® D12
112 Dyn	AKG® D112
20 Dyn	EV® RE20
7 Dyn	Shure® SM7B
40 Dyn	Heil® PR40
47 Cond	Neumann® U47

アンプ・パラメーターをエディットする

選択したアンプ・モデルの On/Off

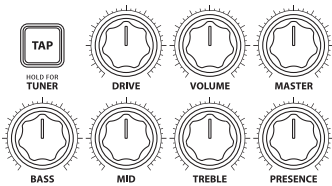
6・6



ENTER – AMP ON/OFF ボタンを一回押します。アンプを「Off」に切り替えると、アンプ、キャビネット、マイクの処理をバイパスします。

アンプ・トーンの調整

アンプ・トーン・ノブを回して調整し、選択したアンプに気に入ったセッティングを選びます。



アンプ・トーン・ノブ: **DRIVE、VOLUME、BASS、MID、TREBLEと PRESENCE**

アンプ・トーン・ノブの操作中には **AMP : EDIT** 画面が一時的に表示され、現在選択されているアンプ A&アンプ B モデル両方のトーン・ノブに設定されている実際の値を (Amp Knobs Display のセッティング次第で) 示します (2・2 ページの「[ページ 1、Setup : Utilities](#)」参照)。**AMP : EDIT** オプションの詳細は、次のセクションをご覧ください。

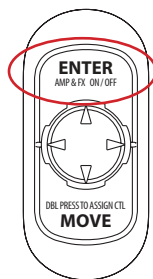
*本書で使用されている全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6 社との関連、または提携関係は一切ありません。これら他社の商標は、Line 6 のサウンド・モデル開発中に研究対象となった他社製品の音色とサウンドを識別するためにのみ使用しています。Shure®は、Shure Incorporatedの登録商標です。Sennheiser®は、Sennheiser Electronic Corporationの登録商標です。Neumann®は、Georg Neumann GMBHの登録商標です。Royer®は、Bulldog Audio, Inc. DBA Royer Labsの登録商標です。

アンプおよびキャビネット・エディット・ディスプレイ

ENTER ボタンを2度押しすると、**Amp & Cab Edit** 画面が表示されます。記載されているオプションは最大5ページにまで及ぶため、アンプ、キャビネット、マイクのセッティングを細かく微調整することができます*。これらの画面で行った設定は全てプリセット毎に保存されます。

*注：選択されているアンプ・モデルが「フル」アンプ・モデルの場合、以下に記載されているように、パワー・アンプ関連の機能をディープ・エディット（細部までエディット）するページ2と3、そしてキャビネットの機能をディープ・エディットするページ4と5が用意されています。選択したアンプ・モデルがプリアンプの場合は、以下に記載されているアンプ/キャビネット・エディット・ページ1、4、5と同じ機能を持つ3ページしか表示されません。ナビディスクの左右の矢印で使用可能なページにアクセスしてください。

アンプ・エディットページ 1



Amp: Edit 画面のページ 1—両方のアンプが On の場合

- 両方のアンプ・モデルが On の場合：アンプ・トーン・ノブで調整するに従い、上記のように画面のそれぞれのコントロールがアップデートされます。各ノブの周りに見える黒い「ドット」は、それぞれが最後に保存された値を示していることに注意してください。この画面の表示中にマルチファンクション・ノブ1～4を使用すれば、アンプ、キャビネット&マイク・モデル、アンプ A/B の選択にアクセスすることも可能です。



Amp: Edit 画面のページ 1—アンプ A がバイパス、アンプ B が Off の場合

- アンプ・モデルが Off の場合:上記のように、アンプ A 用に VOL ノブだけが表示されます。これはアンプ・モデルのバイパス・ボリューム専用の独立したパラメーターです。デバイスの **VOLUME** ノブを使用してこれを調整します。その値は、アンプ・ブロックがバイパスされるたびにプリセットとは別に保存されます。

アンプ・ブロックを「Null」に設定した場合、VOLUME ノブでレベルをコントロールすることはできません。

- マルチファンクション・ノブ 1～4 で画面下のオプションを調節します：
 - ノブ 1:アンプやプリアンプ・モデルを選択します。
 - ノブ 2:キャビネット・モデルを選択します（ページ 4 のオプションもご覧ください）。
 - ノブ 3:マイク・モデルを選択します（ページ 4 のオプションもご覧ください）。
 - ノブ 4:アンプ A またはアンプ B のどちらを調整するかを選びます（このオプションは全ての AMP:EDIT 画面で利用可能です）。

アンプ・エディットページ 2

ページ2には、アンプ・モデルのパワーアンプ特性に影響を与える3種類のオプションが用意されています。



Amp>Edit 画面のページ2 (ブリアンプ・モデルには表示されません)

- ノブ 1: このMASTERパラメーターでパワーアンプのディストーション量を調整します。このパラメーターは相互作用が高く、他全てのパワーアンプ・パラメーターに影響を与えます。MASTERの設定値が低ければ低いほど、他のコントロールへ及ぼす影響は少なくなります。
- ノブ 2: SAG を最小値に設定すると、よりコンパクトなレスポンスを得ることができ、反対に設定値を高くすることでよりダイナミクスとサステインを効かせることができます。
- ノブ 3: どれくらいのヒーターハムとACリプルをトーンと相互に作用させるかをコントロールします。最高値に設定すれば強烈にワイルドなサウンドが得られます。

6・9

アンプ・エディットページ 3

ページ3には、アンプ・モデルの特性に影響を与える、2種類のオプションが追加されています。

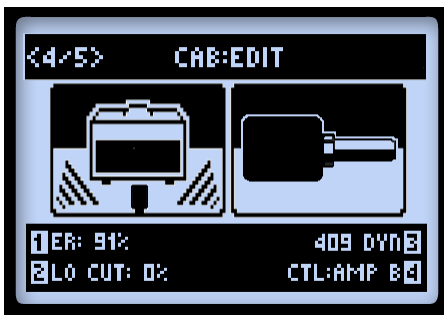


Amp : Edit 画面のページ3 (ブリアンプ・モデルには表示されません)

- ノブ 1: パワーチューブのバイアスを変更します。最小値に設定すると「冷めた」Class AB バイアスが得られます。最大値の場合、アンプは Class A で動作します。
- ノブ 2: 設定値を高くした際にパワーアンプ・チューブのボイスがどのように反応するかは、BIAS EXCURSION で決まります。よりコンパクトなサウンドでレスポンスを得たいときは、設定値を低めにします。チューブ・コンプレッションをより効かせたいときは、設定値を高くします。このパラメーターは特に **DRIVE & MASTER** セットアップに反応します。
- ノブ 3: このページに記載する機能はありません。

アンプ・エディットーページ 4

マイクとスピーカー・キャビネットのオプションが記載されています。



Amp : Edit 画面のページ4 (AMP: EDIT LCD画面のページ 2)

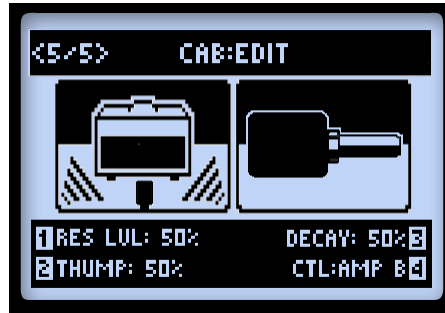
注意：キャビネット・モデルに「No Cab」を選択すると、スピーカー、マイクやアーリー・リフレクションの処理が適用されなくなるため、これらのマイクとアーリー・リフレクションの設定は反映されません。

- ノブ 1: 「アーリーリフレクション」の量を設定します。設定値を高めると、反射音のより強いルームサウンドをアンプ・トーンに加えます。
- ノブ 2: 低周波数アッテネーター。サウンドの低域に締めりを出します。
- ノブ 3: マイク・タイプを選びます ([6・5ページ](#)のマイク・モデル表参照)。

操作が終了したら **HOME** ボタンを押すか、**ENTER** ボタンを2度押しして **AMP : EDIT** 画面を終了させます。カスタマイズした Amp Model セットアップを維持したい場合は、プリセットを必ず保存してください。

アンプ・エディットページ 5

ここではスピーカー・キャビネットのパラメータをさらに詳細にエディットし、好みに合わせてサウンドを洗練させることができます。



- ノブ 1:モデル・スピーカーのレゾナンスの全体レベルを調整します。数値を上げるとブライトでライブなサウンドになります。レゾナンス・レベルを上げると全体の音量も上がります。
- ノブ 2:モデル・スピーカーのレゾナンスの低周波数を調整します。この数値を上げると低域が増え、キャビネットのサウンドに「パンチ」を加えます。
- ノブ 3:モデル・スピーカーのレゾナンスのディケイ・タイムを調整します。低い数値では「タイト」なスピーカー・コーンの感じを、高い数値では「ルーズ」なスピーカーの感じを提供します。

注：上記の3つのキャビネットのパラメーターは相互に影響します。レゾナンス・レベルを下げるとパンチやディケイの効果も下がります。パンチやディケイはモデル・スピーカーのレゾナンスに適用されているので、レゾナンス・レベルが最小値に設定されているとパンチやディケイの効果は聞こえなくなります。

パンチやディケイはモデル・スピーカーのレゾナンスに適用されているので、レゾナンス・レベルが最小値に設定されているとパンチやディケイの効果は聞こえなくなります。

アンプ / プリセット・モデル

全てのHDアンプ/プリアンプ・モデルのベースとなったクラシックなアンプを、以下の表に記載します。

* 詳細は、<http://line6.jp/support/manuals/> から入手可能な POD HD Pro モデル・ギャラリーをご覧ください。

POD HD Pro アンプ / プリアンプ・モデル	
アンプ/プリアンプ・モデル	以下の製品がベース*
Amp Disabled	選択すると、アンプモデルはロードされません。
Blackface Double Normal	'65「Blackface」Fender® Twin Reverb®, ノーマル・インプット・チャンネル
Blackface Double Vibrato	'65「Blackface」Fender® Twin Reverb®, ビブラート・インプット・チャンネル
Hiway 100	Hiwatt® Custom 100
Super O	'60年代の Supro® S6616
Gibtone 185	Gibson® EH-185
Tweed B-Man Normal	'59 Fender® Tweed Bassman®, ノーマル・インプット・チャンネル
Tweed B-Man Bright	'59 Fender® Tweed Bassman®, ブライト・インプット・チャンネル
Blackface 'Lux Normal	Fender®「Blackface」Deluxe Reverb®, ノーマル・インプット・チャンネル
Blackface 'Lux Vibrato	Fender®「Blackface」Deluxe Reverb®, ビブラート・インプット・チャンネル
Divide 9/15	Divided By 13 9/15
PhD Motorway	Dr. Z® Route 66
Class A-15	'61「Fawn」Vox® AC-15
Class A-30 TB	Vox® AC-30 "Top Boost"
Brit J-45 Normal	'65 Marshall® JTM-45 MkII, ノーマル・インプット・チャンネル
Brit J-45 Bright	'65 Marshall® JTM-45 MkII, ブライト・インプット・チャンネル
Plexi Lead 100 Normal	'59 Marshall®"Plexi" Super Lead 100, ノーマル・インプット・チャンネル
Plexi Lead 100 Bright	'59 Marshall®"Plexi" Super Lead 100, ブライト・インプット・チャンネル
Brit P-75 Normal	Park 75, ノーマル・インプット・チャンネル
Brit P-75 Bright	Park 75, ブライト・インプット・チャンネル
Brit J-800	Marshall® JCM-800
Bomber Uber	2002 Bogner Uberschall
Treadplate	Mesa/Boogie® Dual Rectifier®
Angel F-Ball	Engl® Fireball 100
Line 6 Elektrik	思わずニタつくLine 6オリジナル

* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Fender®, Twin Reverb®, Bassman®, Deluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plc.の登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®, Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltd.の登録商標です。Engl®は、Beate Auslug and Edmund Engl.の登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。.

POD HD Pro アンプ／プリアンプ・モデル	
アンプ/プリアンプ・モデル	以下の製品がベース*
Solo 100 クリーン	'93 Soldano® SLO 100、ノーマル・チャンネル、「クリーン」モード
Solo 100 クランチ	'93 Soldano® SLO 100、ノーマル・チャンネル、「クランチ」モード
Solo 100 OD	'93 Soldano® SLO 100、オーバードライブ・チャンネル
Line 6 Doom	最高の歪みを得るために改造版JCM800プリアンプに、Hiwatt®のパワーアンプを合体
Line 6 Epic	レベルの大きさを問わずに素晴らしいサステインとディストーションを生み出すLine 6独自のモデル
Flip Top	Ampeg®B-15NF Portaflex® ベース・ギター・アンプ

* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Fender®、Twin Reverb®、Bassman®、Deluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limited.の登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plc.の登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®、Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltd.の登録商標です。Engl®は、Beate Ausflug and Edmund Engl.の登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。.

アンプ・コントロール・ラベル

一部のアンプ・モデルには、Amp>Edit 画面に異なる名称のアンプ・トーン・ノブが表示されます。モデリングしたクラシックなアンプに特別なノブ・コントロールが搭載されている場合は、その動作をエミュレートしました。以下がその内容です。

- **Super O:** 実際の Supro® には 1 種類の DRIVE と 1 個の TONE ノブしかないため、TONE を **MID** ノブへマップし、BASS、TREBLE、PRESENCE コントロールを作り出しました：



Super O の Amp : Edit 画面

- **Divide 9/15:** Divided by 13 アンプは相互作用する 2 チャンネルを提供します。 **DRIVE** ノブで「クリーン」チャンネルのコントロールを行い、 **BASS** ノブは「ダーティ」チャンネルの DRIVE ノブとして使用します。 **MID & TREBLE** ノブはアンプの TONE & CUT ノブのように作動します。



Divide 9/15 Amp : Edit 画面

- **Class A-15 & Class A-30TB:** Vox® のデザインに従って、これら 2 種類のアンプモデルの **MID** ノブに「CUT」のラベルを付けました。ノブを反時計回りに回すと、ハイ・エンド周波数が減少します。



Class A-15 & Class A-30TB Amp : Edit 画面

キャビネット・モデル

キャビネット・モデルのベース*となったクラシックなスピーカー・キャビネットを以下の表に記載します。

POD HD キャビネット・モデル	
キャビネットモデル	以下をベース*
No Cab	Fender® 「Blackface」 Twin Reverb® コンボ・キャビネット、2x12インチ Jensen® スピーカー
212 Blackface Double	Hiwatt® キャビネット、4x12インチ Fane® 12287 50W スピーカー
412 Hiway	Supro® S6616 コンボ・キャビネット、「6x9」スピーカー 1 台
6x9 Super O	Gibson® EH-185 コンボ・キャビネット、1x12インチ Field Coil スピーカー
112 Field Coil	’59 Fender® Tweed Bassman® コンボ・キャビネット、4x10インチ Jensen® アルニコ・スピーカー
410 Tweed	Fender® 「Blackface」 Deluxe Reverb® コンボ・キャビネット、12インチ Oxford 12K5-6スピーカー 1 台
112 BF ‘Lux	Divided By 13 9/15 コンボ・キャビネット、12インチ Celestion® G12H Heritage (70th Anniversary) スピーカー 1 台
112 Celest 12-H	Dr.Z®、Z Best キャビネット、2x12インチ Celestion® スピーカー (G12H Heritage 1 台と Vintage 30 1 台)
212 PhD Ported	’61 「Fawn」 Vox® AC-15 コンボ・キャビネット、12インチ・スピーカー 1 台
112 Blue Bell	Vox® AC-30 「Top Boost」、2x12インチ Celestion® Alnico Silver Bell スピーカー
212 Silver Bell	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® G12M 「Greenback」スピーカー
412 Greenback 25	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® Rola G12H 「Blackback」スピーカー
412 Blackback 30	Marshall® キャビネット、4x12インチ Celestion® G12T75 スピーカー
412 Brit T-75	Bogner Überschall キャビネット、4x12インチ Celestion® スピーカー (2 x G12T75 と2 x Vintage 30スピーカー)
412 Uber	Mesa/Boogie® キャビネット、4x12インチ Celestion® Vintage 30 スピーカー
412 Tread V-30	Engl® Pro キャビネット、4x12インチ Celestion® Vintage 30 スピーカー
412 XXL V-30	Engl® Pro cabinet, 4x12 inch Celestion® Vintage 30 スピーカー
115 Flip Top	Ampeg® Custom Design, CTS 1x15スピーカー

* 全ての製品名は、その商標の該当所有者の権利に基づくものであり、Line 6社との関連、または提携関係は一切ありません。これらの製品名および記述は、Line 6のサウンド・モデル開発中に研究対象となった特定の製品を識別するためにのみ使用しています。Fender®, Twin Reverb®, Bassman®, Deluxe Reverb®は、Fender Musical Instruments Corporationの登録商標です。Vox®は、Vox R&D Limitedの登録商標です。Marshall®は、Marshall Amplification Plc.の登録商標です。Dr. Z®は、Dr. Z Amps, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogie®, Dual Rectifier®は、Mesa/Boogie, Ltd.の登録商標です。Engl®は、Bene Aurling and Edmund Engl.の登録商標です。Hiwatt®は、Fernandes Company, Ltd.の登録商標です。Fane®は、Fane Internationalの登録商標です。Gibson®は、Gibson Guitar Corp.の登録商標です。Supro®は、Zinky Electronicsの登録商標です。Celestion®は、Celestion International Ltd.の登録商標です。Jensen®は、Jensen Loudspeakers and Audiovox Corporationの登録商標です。

7 - エフェクト・モデル

POD® HD Proには、人気の高いLine 6 M13 ストンプボックス・モデラーに由来するものなど、素晴らしいエフェクト・モデルが多数収められています！この章では、POD HD Pro エフェクト・モデル全てをカテゴリーに分けて記載したリファレンス表と、それらのパラメーターに関する詳細も併せて用意しました。エフェクト・モデル・パラメーターは、全てエディット・モードからアクセスすることができます。エディット・モードの機能についての詳細は、[5・1ページの「5 - エフェクト・エディット・モード」](#)をご覧ください。

ヒント：モデルについての詳細は、<http://line6.jp/support/manuals/>から入手可能な、POD HD Pro モデル・ギャラリーとM13 アドバンスド・ガイド の文書と併せてご覧ください。

ダイナミクス・モデル

ダイナミクス・エフェクト・モデル・パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Noise Gate	Threshold	Decay	--	--	--
Hard Gate	Open Threshold	Close Threshold	Hold	Decay	--
Tube Comp	Threshold	Level	--	--	--
Red Comp	Sustain	Level	--	--	--
Blue Comp	Sustain	Level	--	--	--
Blue Comp Treb	Sustain	Level	--	--	--
Vetta Comp	Sensitivity	Level	--	--	--
Vetta Juice	Amount	Level	--	--	--
Boost Comp	Drive	Bass	Comp	Treble	Output

共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のダイナミクス・エフェクト・モデルに共通です。

- **Threshold**:コンプレッサー・エフェクトでは、値を下げると圧縮率が上がり、Threshold設定による自動メイクアップ・ゲイン段も機能します。
- **Sustain**:コンプレッサーの中にはサステインを含むものがあります。これはThresholdコントロールと良く似ていますが、機能は逆です。設定値を高くすると圧縮効果が高まるため、サステインの効いたソフトでウエットな音が得られます。
- **Level**:全体のボリュームを調整します。設定値を高くすると、一般的にアウトプットがブーストします。

ディストーション・モデル

ディストーション・モデル・パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Tube Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Screamer	Drive	Bass	Tone	Treble	Output
Overdrive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Classic Dist	Drive	Bass	Filter	Treble	Output
Heavy Dist	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Color Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Buzz Saw	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Facial Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Jumbo Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Fuzz Pi	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Jet Fuzz	Drive	Fdbk	Tone	Speed	Output
Line 6 Drive	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Line 6 Distortion	Drive	Bass	Mid	Treble	Output
Sub Octave Fuzz	Drive	Bass	Sub	Treble	Output
Octave Fuzz	Drive	Bass	Mid	Treble	Output

共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のディストーション・エフェクト・モデルに共通です。

- **Drive**: オーバードライブ、ディストーション、ファズの量を調整します。
- **Bass**: ベース EQ レベルを調整します。
- **Mid**: ミッド EQ レベルを調整します。
- **Treble**: トレブル EQ レベルを調整します。
- **Output**: 全体のボリュームレベルを調整します。設定値を高くするとアウトプットがブーストします。

モジュレーション・モデル

モジュレーション・モデル・パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Pattern Tremolo	Speed	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4
Panner	Speed	Depth	Shape	VolSens	Mix
Bias Tremolo	Speed	Level	Shape	VolSens	Mix
Opto Tremolo	Speed	Level	Shape	VolSens	Mix
Script Phase	Speed	--	--	--	--
Panned Phaser	Speed	Depth	Pan	Pan Spd	Mix
Barberpole Phaser	Speed	--	Fdbk	Mode	Mix
Dual Phaser	Speed	Depth	Fdbk	LFO Shp	Mix
U-Vibe	Speed	Depth	Fdbk	VolSens	Mix
Phaser	Speed	Depth	Fdbk	Stages	Mix
Pitch Vibrato	Speed	Depth	Rise	VolSens	Mix
Dimension	Sw1	Sw2	Sw3	Sw4	Mix
Analog Chorus	Speed	Depth	Ch Vib	Tone	Mix
Tri Chorus	Speed	Depth	Depth2	Depth3	Mix
Analog Flanger	Speed	Depth	Fdbk	Manual	Mix
Jet Flanger	Speed	Depth	Fdbk	Manual	Mix
AC Flanger	Speed	Width	Regen	Manual	--
80A Flanger	Speed	Range	Enhance	Manual	Even Odd
Frequency Shifter	Freq	Mode	--	--	Mix
Ring Modulator	Speed	Depth	Shape	AM/FM	Mix
Rotary Drum	Speed	Depth	Tone	Drive	Mix
Rotary Drm/Hrn	Speed	Depth	Horn Dep	Drive	Mix

共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のモジュレーション・エフェクト・モデルに共通です。

- **Speed**:エフェクトのモジュレーション／オシレーション／トレモロ速度を調整します。設定値を高くすると速度が増します。速度は**Hz**や音価で設定できます。:
 - **Hz** 値を選ぶと、モジュレーション速度がサイクル／秒で表示されます。
 - **Note Division** (音価) を選ぶと、現在の**Tap Tempo**をベースにしたタイムになります ([1・5ページの「タップ・テンポ」](#) 参照)。
- **Depth**:モジュレーションの強さを調整します。設定値を高くすると、エフェクトによっては極端なピッチベンドや、震えるような音が得られます。
- **Fdbk (Feedback)** :エフェクトに送り戻されるディレイの信号の量設定値を高くすると、よりドラマチックな雰囲気になります。
- **Mix**:「Dry」と「Wet」信号のバランスを設定します。0%では信号にエフェクトを全く加えませんが、100%ではエフェクトがかかった信号だけが聞こえます。コーラス、フランジャー、フェーズ・エフェクトには、ミックスを0から50%に設定するのがベストです。ヴィブラート、トレモロ、ロータリー・エフェクトには、ミックスを90～100%で試してください。自由に実験してみてください！

「Script Phase」、「Pattern Tremolo」、「AC Flanger」、「80a Flanger」には **Mix** パラメーターはありません。これらのドライ/ウェット・バランスは、インスピレーションを与えたクラシックなペダルと同じように「固定」です！

フィルター・モデル

フィルター・モデル・パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Voice Box	Speed	Start	End	Auto	Mix
V-Tron	Start	End	Speed	Mode	Mix
Q Filter	Freq	Q	Gain	Type	Mix
Vocoder	Mic	Input	--	Decay	Mix
Seeker	Speed	Freq	Q	Steps	Mix
Obi Wah	Speed	Freq	Q	Type	Mix
Tron Up	Freq	Q	Range	Type	Mix
Tron Down	Freq	Q	Range	Type	Mix
Throbber	Speed	Freq	Q	Wave	Mix
Slow Filter	Freq	Q	Speed	Mode	Mix
Spin Cycle	Speed	Freq	Q	VolSens	Mix
Comet Trails	Speed	Freq	Q	Gain	Mix
Octisynth	Speed	Freq	Q	Depth	Mix
Synth O Matic	Freq	Q	Wave	Pitch	Mix
Attack Synth	Freq	Wave	Speed	Pitch	Mix
Synth String	Speed	Freq	Attack	Pitch	Mix
Growler	Speed	Freq	Q	Pitch	Mix

共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のフィルター・エフェクト・モデルに共通です。

- **Frequency**:エフェクトで使用する中心周波数を選びます。
- **Q**:使用中のフィルターの周波数幅を調節します。
- **Speed**:モデルのモジュレーションやオシレーターのを割合を調節します。**Hz** 値か**Note Division**に調節可能です：
 - **Hz** 値を選ぶと、特定の変調速度がサイクル／秒で提供されます。
 - **ノート・ディビジョン**の値を選ぶと、現在の**Tap Tempo**をベースにしたタイミングになります ([1・5 ページの「タップ・テンポ」](#) 参照)。

- **Mix**:「Dry」と「Wet」信号のバランスを設定します。0%では信号にエフェクトを全く加えませんが、100%ではエフェクトがかかった信号だけが聞こえます。フィルター・エフェクトでは、完全に並外れた効果要素を得るために100%のセッティングもを試してみてください。

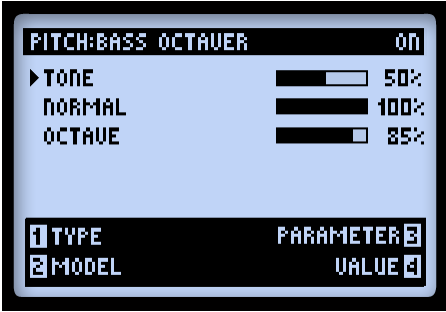
ピッチ・モデル

ピッチ・モデル・パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Bass Octaver	Tone	Normal	Octave	--	--
Pitch Glide	Pitch	--	--	--	Mix
Smart Harmony	Key	Shift	Scale	--	Mix

ピッチ・エフェクト・モデル・パラメーター

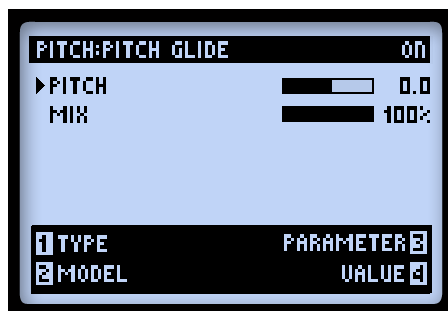
これらのエフェクトは他よりも多少複雑なため、各ピッチ・エフェクト・モデルのエディット・モード画面とパラメーターの詳細を用意しました。

Bass Octaver



- **Tone**:エフェクト全体のトーン
- **Normal**:ドライ信号のボリュームをコントロールします。
- **Octave**:処理されたオクターブ信号のボリュームをコントロールします。

Pitch Glide

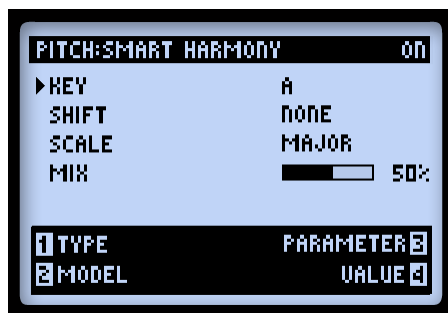


このエフェクトは、ワイルドなピッチ・ベンディング効果を生み出すために、Line 6 FBV™ペダル・コントローラーをPitchパラメーターに割り当てて使用するのがベストです([B・16ページの「エクスプレッション・ペダルとVariax®ノブ・コントローラーのアサイン」](#)参照)。しかし、特定のピッチを設定して、演奏に追従する静的ハーモニーやオクターブ・ユニゾンノートを加えることが可能です。

- **Pitch**: 入力信号と調和して聴こえるノートのピッチを、手動で選択することができます。
- **Mix**: ウェット&ドライ信号のバランスをコントロールします。ピッチ処理をした信号のみを聴きたい場合は100%に設定し、入力信号とピッチ処理された信号の両方を聴きたい場合は50%前後に設定します。

7・7

Smart Harmony



スケールとキー、シフトの値を設定すれば、DSPアルゴリズムから、ギターリフに合わせたパーフェクトなハーモニーが生まれます。設定可能なパラメーターは以下の通りです:

- **Key**: 演奏するキーを選びます。
- **Shift**: ハーモニーノートのためのインターバル値を決めます。
- **Scale**: 使用したいスケールを選びます（以下の手順と表を参照）。
- **Mix**: バランスやドライ信号 + ハーモニーノートを設定します。

Smart Harmonyエフェクトは、自動的にギターのシングル・ノート・ピッチを検知して、ユーザーが選択したキーとスケールに合うようにシフトします。キーの選択ができます。他の音階モードを使いたい場合は、以下の表を参考にしてください。

- キーは左側から、モードは上から選びます。
- 2カ所がつながる所の枠が、そのモードに選ぶキーです。例えば、CーLydianには、スケールはG Majorです。

	モード						
キー	イオニアン	ドリアン	フリジアン	リディアン	ミクソリディアン	エオリアン	ロクリアン
A	A Maj	G Maj	F Maj	E Maj	D Maj	C Maj	Bb Maj
B	B Maj	A Maj	G Maj	Gb Maj	E Maj	D Maj	C Maj
C	C Maj	Bb Maj	Ab Maj	G Maj	F Maj	Eb Maj	Db Maj
D	D Maj	C Maj	Bb Maj	A Maj	G Maj	F Maj	Eb Maj
E	E Maj	D Maj	C Maj	B Maj	A Maj	G Maj	F Maj
F	F Maj	Eb Maj	Db Maj	C Maj	Bb Maj	Ab Maj	Gb Maj
G	G Maj	F Maj	Eb Maj	D Maj	C Maj	Bb Maj	Ab Maj

Smart Harmony モデルスケール・リファレンス表

プリアンプ+EQモデル

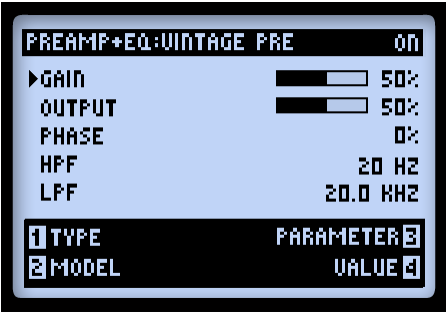
EQ モデラーパラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Graphic EQ	80Hz	220Hz	480Hz	1.1kHz	2.2kHz
Parametric EQ	Lows	Highs	Freq	Q	Gain
Studio EQ	Low Freq	Low Gain	Hi Freq	Hi Gain	Gain
4 Band Shift EQ	Low	Low Mid	Hi Mid	Hi	Shift
Mid Focus EQ	Hi Pass Freq	Hi Pass Q	Low Pass Freq	Low Pass Q	Gain
Vintage Pre	Gain	Output	Phase	Hi Pass Filter	Lo Pass Filter

共通パラメーター

以下のパラメーターはEQモデルに共通です。

- **Frequency** (「Low」、「Mid」、「High」も同様):特定のEQバンドの中心周波数や、範囲を選びます。
(グラフィック EQ モデルには、それぞれゲインが調整可能な「固定」バンドが含まれています。)
- **Q**:周波数バンドフィルターの周波数幅や、シェイプを調節します。
- **Gain**:特定のバンドの出力レベルを調節します。(マルチファンクション・ノブ #4でアクセスした、Gainパラメーターが全体の出力レベルを調節します。)

Vintage Pre



これはRequisite®Y7 ヴィンテージ・チューブ・マイク・プリアンプに基づいた*ヴィンテージのモノ・チューブ・マイク・プリアンプのモデルで、マイク・ソース・インプットやVariax アコースティック・ギターで使用するのに最高だけではなく、ベースやギター・アンプと共に使用することで、シグナル・パスのどの位置に入れても心地良いチューブの暖かさを得ることができます。

- **Gain:**インプット・ゲインの数値を入れます。レベルが高いとチューブ・ディストーションが加わります。
- **Output:**最終アウトプット・レベルを決めます。大幅なシグナル・ブーストが可能です。
- **Phase:**通常は0を、逆相するには180を選択してください（2本のマイクをミックスする際、フェーズ・アウトすることで打ち消しあっているようなサウンドを直すには、片方のマイクの位相を反転する必要がある場合もあります）。
- **HPF:**低域を減らすハイ・パス・フィルター。Hzの数値を上げて低域の減少が始まる周波数を決めてください。
- **LPF:**高域を減らすロー・パス・フィルター。KHzの数値を下げて高域の減少が始まる周波数を決めてください。

ディレイ・モデル

ディレイ・モデルーパラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Ping Pong	Time	Fdbk	Offset	Spread	Mix
Dynamic Dly	L Time	L Fdbk	R Time	R Fdbk	Mix
Stereo Delay	Time	Fdbk	Thresh	Ducking	Mix
Digital Delay	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Dig Dly W/Mod	Time	Fdbk	ModSpd	Depth	Mix
Reverse	Time	Fdbk	ModSpd	Depth	Mix
Lo Res Delay	Time	Fdbk	Tone	Res	Mix
Tube Echo	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Tube Echo Dry	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Tape Echo	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Tape Echo Dry	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Sweep Echo	Time	Fdbk	Swp Spd	Swp Dep	Mix
Sweep Echo Dry	Time	Fdbk	Swp Spd	Swp Dep	Mix

* Requisite®は、Requisite Audio Engineeringの登録商標です。

ディレイ・モデル・パラメーター・リファレンス表					
モデル	パラメーター				
Echo Platter	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Echo Platter Dry	Time	Fdbk	Wow/Flt	Drive	Mix
Analog W/Mod	Time	Fdbk	ModSpd	Depth	Mix
Analog Echo	Time	Fdbk	Bass	Treble	Mix
Auto-Volume Echo	Time	Fdbk	ModDep	Swell	Mix
Multi-Head	Time	Fdbk	Heads 1-2	Heads 3-4	Mix

共通パラメーター

以下のパラメーターは大部分のディレイ・エフェクト・モデルに共通です。

- **Time:**ディレイ/リピート・タイムを調節します。設定値が高いと、ディレイはより長くなります。時間はms 値やノート・ディビジョンで調整可能です：
 - ms 値を選ぶと、特定の時間がミリ秒で表示できます。
 - ノート・ディビジョン値を選ぶと、現在の Tap Tempo をベースにした時間になります ([1.5ページの「タップ・テンポ」](#)参照)。
- **Fdbk (Feedback) :**ディレイを繰り返す回数を設定します。
- **Depth:**ディレイの中にはモジュレーションを含むものがあります。通常はリピートに適用するピッチモジュレーションの強さを調節するためのデプス・パラメーターが含まれています。
- **ModSpd:**ピッチモジュレーションの速度をコントロールします。
- **Mix:**「ドライ」と「ウェット」信号のバランスを設定します。0% では信号にエフェクトを全く加えませんが、100% ではディレイがかかった信号だけが聞こえます。

リバーブ・モデル

リバーブ・モデル－パラメーター・リファレンス表				
モデル	パラメーター			
Plate	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Room	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Chamber	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Hall	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Echo	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Tile	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Cave	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Ducking	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Octo	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Spring	Decay	PreDelay	Tone	Mix
'63 Spring	Decay	PreDelay	Tone	Mix
Particle Verb	Dwell	Condition	Gain	Mix

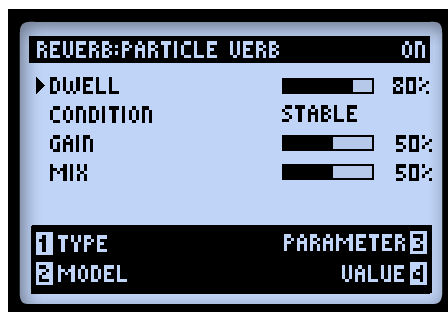
7・12

共通パラメーター

以下のパラメーターは、Particle Verbモデルを除けば全てのリバーブ・モデルに共通です。このモデルについては別途説明します。

- **Decay**:リバーブ効果の持続時間を設定します。
- **PreDelay**:リバーブ効果が聞こえる前の時間を構成します。
- **Tone**:ウェット・リバーブ信号の全体のトーンを調節します。設定値を高くすると、より明るく、さらに残響効果が増します。
- **Mix**:ドライ & ウェット信号のバランスを0%（ドライ信号のみ）から100%（ウェット・リバーブ信号のみ）の間で設定します。

Particle Verb



STABLEモードにより、コードを濃密にモジュレーションされたパッドへ変える、新しい種類のリバーブ・エフェクトです。CRITICALモードも似ていますが、ピッチがわずかに上昇します。HAZARDモードでは、全ての音列が除去されます。このモデルのパラメーターは、ほかのリバーブとは異なっています：

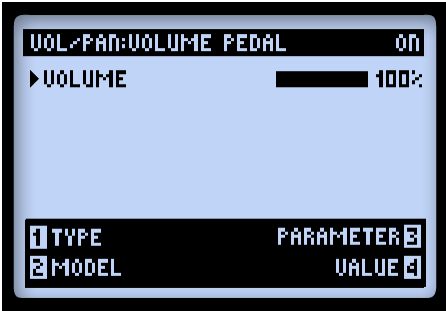
- **Dwell**：基本的に、リバーブ・テイルの減衰までの時間を調節するディケイ・パラメーターです。
- **Condition**：「STABLE」、「CRITICAL」、「HAZARD」から選びます。今までとは違うリバーブを体験してみましょう！
- **Gain**：エフェクトの出力レベル全体を設定します。

ボリウム・パン/ワウ・モデル

モデルの**Volume/Pan**と**Wah**セットは、主に Line 6 FBV™シリーズ・コントローラー・エクスプレッション・ペダルで使用するよう設計されています。トーンに Wah や Volume モデルを加えると、自動的に EXP 1 と EXP 2 コントローラーに割り当てられます。詳細は7・14ページの「エクスプレッション・ペダルのアサイン」をご覧ください。

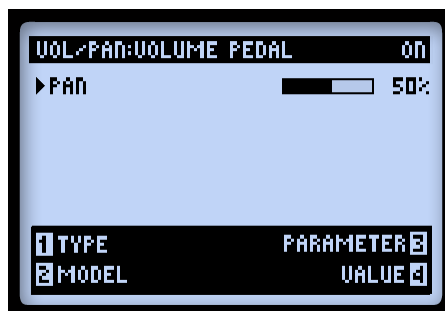
Volume/Pan モデル・パラメーター・リファレンス表	
モデル	パラメーター
Volume	ボリウム
Pan	パン L-R バランス

Volume



Volume: 信号レベルを調整します。100%はユニティ・ゲインです。このパラメーターは、いつでもマルチファンクション・ノブを通じてアクセスすることができます。Line 6 FBV ペダルをボリウムのコントロールに割り当てると、ペダルで調節するのと同様に、この Volume パラメーターにも視覚的に反映されます。

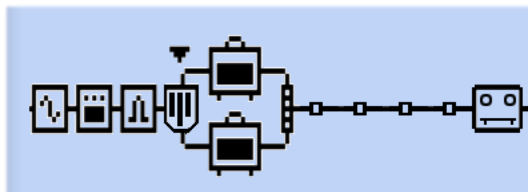
Pan



- **Pan**: 左右のステレオ・チャンネルに送られる信号バランスを調節します。0%は左にフルに送り、50%は左右に均等に送り、100%は右にフルに送ります。

パンを使用しているときに聞き取れるエフェクトは、シグナル・チェーンの中の位置と、どのエフェクト・タイプがそれに続くかによって大きく異なります。以下がその例です：

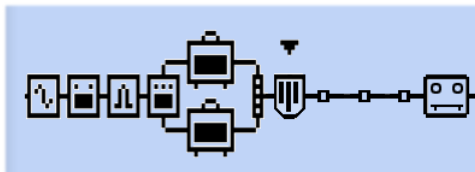
パス A & B が分かれる前



パス A & B が分かれる前に設置したパン

ここに置くと、ギター信号は左へパンしてパス A へ、右へパンしてパス B へ送られます。2 種類のアンプ・モデルのサウンドを「ブレンド」してみるのもクールかもしれません。

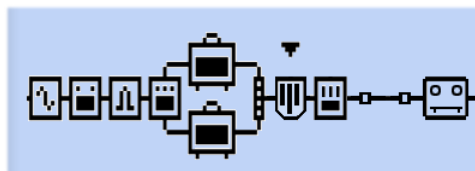
パス A & B ミキサーの後



パス A & B ミキサーの後

この位置では、パンに送られるステレオ・レフト & ライトの信号はミキサー Pan のセッティングで決定されます。そこでパン・エフェクトがこれらの信号を左右のメイン出力へパンします。このポスト・ミキサー位置は、POD HD Pro の左右のアウトプットを両方利用する場合のみにメリットが得られます。

Pan の後にモノ・アウトプット・エフェクト・モデルを置く



Pan の後に置いたモノ・エフェクト・モデル (EQ)

[3・6ページの「モデル・タイプとモノ/ステレオ・シグナル・ルーティング」](#)で説明したように、エフェクト・モデルを Pan の後に置くと、Pan モデルの出力は「モノ化」されます。これは全てのステレオ・エフェクト・モデルに当てはまります。従って、一般的に Pan モデルと同じ信号経路の中に後からモノラル・エフェクト・モデルを置くのは避けた方が良いでしょう。

Wah Models

ワウ・モデル・パラメーター・リファレンス表		
モデル	パラメーター	
Fassel	Position	Mix
Conductor	Position	Mix
Throaty	Position	Mix
Colorful	Position	Mix
Vetta Wah	Position	Mix
Chrome	Position	Mix
Chrome Custom	Position	Mix
Weeper	Position	Mix

共通パラメーター

以下の通り、各ワウには 2 種類のパラメーターがあります：

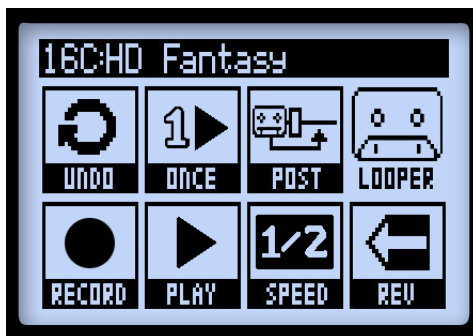
- **Position:**これでワウの「スweep」をコントロールします。どの Wah モデルもこのパラメーターを使用してFBV。
- **Mix:**「ドライ」と「ウェット」信号のバランスを設定します。0%では信号にワウ・エフェクトを全く加えませんが、100%ではワウがかかった信号だけが聞こえます。さらに巧妙な効果を得たい場合は、ミックスを 100% 以下に下げてください！

8 - ルーパー・モード

POD® HD Proには、機能満載の Looperモードが含まれています。その操作はLine 6 FBV™フットコントローラーを接続すればアクセス可能です。Looperモードは、最大48秒のモノ録音時間（1/2 Speedモード使用時）や24秒の録音時間（Normalモード使用時）が可能であるばかりではなく、取り消し、オーバードブ録音、ハーフスピードでのループ再生、リバース等さらに多くの機能が揃っています！Looper機能のためのフットスイッチの割り当ては、対応するLine 6 FBV コントローラーのモデルによって異なります。詳細については[B・1ページの「付録 B：FBVフットコントローラー」](#)をご覧ください。

ルーパー・フットスイッチ・コントロール&パフォーマンス・ビュー

Looperモードを起動させると、POD HD Proのパフォーマンス・ビュー画面の1つとして追加のルーパー画面が利用可能になります。全てのルーパー機能の動作がこの画面に表示されます。*これらは、「それぞれのボタンを押せばこうなる」表示として考えることができます。ルーパーの使用中に**VIEW**ボタンを押すと、この画面が表示されます（[2・2ページの「ページ 1、Setup:Utilities」](#)も参照してください）。



パフォーマンス・ビュー、ルーパー機能

注意:ルーパー・ブロックの「Pre/Post」位置を設定するオプションは、ほとんどのFBV コントローラー器機でアクセスすることができます。あるいはシグナル・フロー・ビュー画面内のエフェクト・モデル・ブロックのように、ルーパー・ブロックを移動させることも可能です。

ルーパー画面の中で表示される機能の詳細は以下の通りです。




UNDO—FBVの**Bank Up**フットスイッチを使用して、最後に録音したオーバーダブを「取り消し」ます。Overdub-Recordモード、Loop Playbackモードの使用中止や停止中にこのフットスイッチを押すと、最後に録音したオーバーダブのみが消去されます。この機能で最初に録音したループが消去されることはありません。

PLAY ONCE—FBVフットスイッチを押すと、録音したループ（録音したオーバーダブがある場合は、それも含めて）を1サイクル再生します。事前に録音したフレーズを要求が有り次第、起動させるには便利です！


- 
 再生中、Play/Stopアイコンが「STOP」を表示し、押せば直ちに停止できることを示します。

PRE/POST—ルーパー・ブロックは、シグナル・フロー・ビュー内の「Pre」か「Post」のどちらかの位置へ移動することができます。ループの録音中、アンプ& エフェクトの処理をギター信号に加えるか、あるいはループの再生にだけ加えるかを判断します。

- PRE:**ギターは処理されないまま録音されます（例—ループはアンプ & エフェクト処理の「前」に録音されます）。再生すると、ループ・オーディオは、現在選択されているプリセットのアンプ & エフェクト処理を与えるために、入ってくるギターと共にミックスされます。**PRE**に設定したままプリセットやトーン・セッティングを変更すると、変更したものがループ再生に適用されて聞こえるはずです。




- 
 ルーパーを**PRE**に設定すると、Pre/POSTアイコンが「POST」を表示し、ルーパー・ブロックを POST 位置に移動可能であることを示します。

- POST:**ギター信号は処理されて録音（例—ループはアンプ&エフェクト処理の「後」に録音されます）。再生すると、ループ・オーディオは、アンプとエフェクトで処理された後のギター信号と共にミックスされます。これにより、ループが最初から録音されてあったプリセット・トーンを再生する際に、ギター入力だけに適用させるプリセットを新たに選択できるのです！

- 
 ルーパーを**POST**に設定すると、Pre/Postアイコンが「PRE」を表示し、ルーパー・ブロックを PRE 位置に移動可能であることを示します。

注意：POSTモードでループを録音した後に、PREに切り替えてループを再生すると、現在選択されていたアンプとエフェクトがループ再生（アンプとエフェクトを適用して既に録音したループの位置）に適用される結果となります。この場合、ループ再生時に著しく音量が上がるので注意してください！

RECORD/OVERDUB—ループを録音するときは、FBVの**RECORD**フットスイッチを押すだけでルーパーは即座に録音を開始します。パフォーマンス・ビューには以下が表示されます：

- 
 録音機能により「DUB IN」が画面に表示されます。FBVの**RECORD**フットスイッチを押すと、直ちに Overdub-Recordモードに入ります。
- 
 ここで**RECORD**を押して、演奏をすると、その音は全て最初に行ったループ録音の上に録音され、パフォーマンス・ビューに「DUB OUT」が表示されます。FBVのフットスイッチを再び押すと、オーバーダブ録音が停止します。
- 
 Play/Record機能により、「STOP」が表示され、FBVの**PLAY/STOP**ボタンを押すと、再生＆録音が停止することを示します。

注意：録音したループが1つあれば、いつでもそのループの上にオーバーダブを重ねることができます。ループを再生し、**REC/OVERDUB**スイッチを踏み、そのループの再生中にFBVの**RECORD**フットスイッチを押します。新しいライブ・ギターは、先に録音したループの上に重ねて録音されます。この手順を繰り返すことで何回でも好きなだけオーバーダブを重ねることができます！



ループ再生の停止中に**RECORD**を押すと、常に新しいループが録音されるため、最初に録音されたものは廃棄されます。

PLAY/STOP—録音したループの再生/停止を切り替えるときは、FBVの**PLAY/STOP**ボタンを押します。積極的にループを録音する際にこのスイッチを利用すれば、押すだけで録音を停止し、ループの「アウト」ポイントを設定することができます。再生中は、常にボタンが点灯します。



- 
 再生中は、Play/Stopアイコンが「STOP」を表示します。

1/2 SPEED—FBVの**1/2 SPEED**フットスイッチを押すと、1/2 Speed機能の On/Off が切り替わります。

1/2 Speed オプションは、録音と同様に再生にも使用することができます。それぞれに特定動作があるため、[8•6 ページの「1/2 Speed 操作」](#)を参照してください。

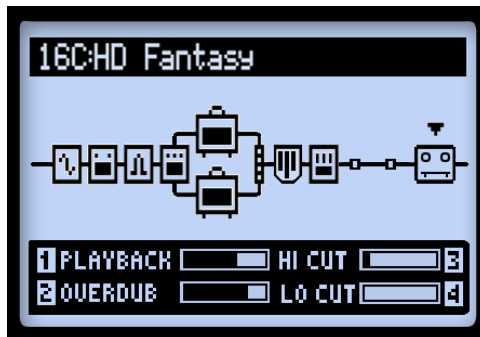
-  1/2 Speed の起動中は、SPEEDアイコンが「FULL」を表示します。
-  1/2 Speed を Off にすると、SPEEDアイコンが「1/2」を表示します。

REVERSE—FBVの**REVERSE**フットスイッチを押すと、Reverse Play機能のOn/Offが切り替わります。
On の場合、ループ全てが逆再生されます。

-  Reverse の起動中は、アイコンが「FWD」を表示します。
-  Reverse が Off の場合、アイコンが「REV」を表示します。

ルーパー・セッティング

VIEW ボタンを押してシグナル・フロー・ビュー画面を表示させます。次にルーパーを選択していくつかの追加設定にアクセスします。



シグナル・フロー・ビュー画面、Looperオプション

- **Playback (ノブ 1)** ーマルチファンクション・ノブ1を使用して、ルーパー再生時のボリュームを調整します。ここでボリュームを少し下げれば、生のギターの方が多少大きく聞こえて便利でしょう。
- **Overdub (ノブ 2)** オーバーダブ・モード内でループの音量を設定するには、マルチ・ファンクション・ノブ2を使用してください。例えば、オーバーダブ・レベルが90%に設定されている場合、新しいオーバーダブ用のループが始まるたびに音量は10%ずつ減り、オーバーダブを繰り返すことでサウンドが静かになります。
- **Hi Cut (ノブ 3) と Lo Cut (ノブ 4)** ーマルチファンクション・ノブ3 & 4でこれらの EQ オプションを調節し、ループ再生時のトレブルとベースを下げます。生ギターとループ再生の「ミックス」を最適化するためには、これらを下げておく方が便利です。これらのコントロールは、ノブで値を高く設定するほどハイとローの周波数帯域を下げることができます。

1/2 Speed 操作

ルーパーは録音と再生に 1/2 Speed と Full Speed の両方のオプションを利用します。これらのオプションがループ録音の最大時間に直接影響を与えます。

POD HD ルーパー録音時間	
Full Speed	最大 24秒間
1/2 Speed	最大 48秒間

該当する特定動作は以下の通りです：

- **Full Speed**：録音前に **Full Speed** に設定した場合、ルーパーの最大録音時間は 24 秒間です。
 - **Full Speed** の設定で録音したループを再生すると、録音時そのままの音で聞こえます。
 - この設定を **1/2 Speed** にした場合、録音したループの再生は半分の速度で、ピッチが 1 オクターブ下がった状態で再生されます。
- **1/2 Speed**：録音前に 1/2 Speed に設定した場合、ルーパーの最大録音時間は 48 秒間になります。
 - **1/2 Speed** の設定で録音したループを再生すると、録音時そのままの音で聞こえます。
 - この設定を **Full Speed** にした場合、録音したループの再生は 2 倍の速度で、ピッチが 1 オクターブ上がった状態で再生されます。

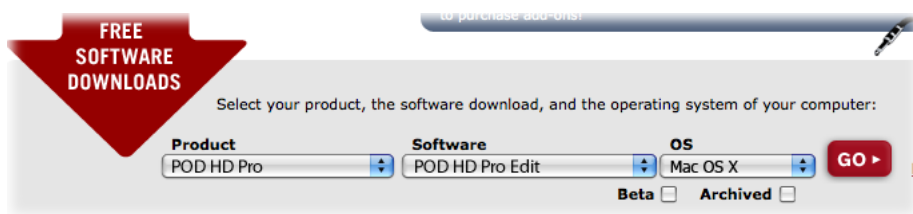
9 - USBオーディオ

この章ではPOD® HD ProのUSBオーディオ能力について説明します。Line 6 USBオーディオ・ドライバーをインストールすれば、Mac®やWindows®のための、質の高いオーディオ・インターフェースとしてPOD HD Proを使用することができます。

Line 6 USBオーディオ・ドライバー

コンピュータにPOD HD Proを接続する前に、無償提供されるLine 6 POD HD Pro Editソフトウェアをダウンロードし、インストールしておくことをお勧めします。これにより、必要なUSBオーディオ・ドライバーとLine 6 Monkeyアップデート・ユーティリティがインストールされます（[A・1ページの「付録A：Line 6 Monkey™」](#)参照）。The latest POD HD Pro Edit installer, as well as individual installers for the Driver & Line 6 Monkey, are also always available from <http://jp.line6.com/software>.

注意：POD HD Pro USBデバイス・ドライバーにはMac OS® Xバージョン10.5（Leopard®）または以降のバージョンが必要です。



POD HD Pro Editソフトウェアを選択するLine 6ソフトウェア・ダウンロード・サイト

インストレーションが終わりましたら、コンピュータのUSB 2.0ポートへ直接デバイスを接続し、POD HD Proの電源を入れます。POD HD Proの接続は、必ずコンピュータのUSB 2.0ポートを使用してください（USBハブには接続しないでください）。

<http://line6.jp/support/manuals>から入手可能なPOD HD Pro Editインストーラー・ガイドとPOD HD Pro Editパイロット・ガイドもご覧ください。

オーディオ・ルーティング

POD HD ProのUSB接続を使用すると、オーディオ・ドライバーはいくつかの作業を管理できるようになります。ドライバーは、処理されたギター信号をUSB Record Sendからコンピュータへ送り、コンピュータから再生オーディオを受け取ります。また、低レイテンシ・モニター信号を与えるために、処理されたギター信号がRecord Sendへルートを回す前に捉えます。次にそのモニター信号を再生オーディオと共に合わせます。そしてこの合わせた信号をPOD HD Proアナログ・アウトプットへ送るのです。

POD HD ProとDTシリーズ・アンプ間でL6 LINK™接続がアクティブの場合、全てのUSBオーディオはミュートされるので注意してください。



POD HD Proの Record Send

上記で示すように、Record Sendは、POD HDが処理した、24-ビット・デジタル信号を USB接続により運ぶ、仮想の「パイプライン」です。オーディオ・ソフトウェアがレコーディングのために入力信号として利用できるようにするのが目的です。

POD HD Record Sendは、オーディオ・ソフトウェアの中で、利用可能なオーディオ入力/録音装置として現れます。このSendをオーディオ・トラックの入力に選ぶだけで、POD HD Pro 信号を録音することができます。Sendに送られる信号レベルは、POD HD Proの設定により影響を受けます: ミキサー・ブロック Volume A & B、アンプ・モデル DRIVE& VOLUME、エフェクト・モデル GAIN コントロール、ボリューム・ペダルやその他。録音の質を重視するのであれば、ソフトウェアの中のインプット・メーターを目で確かめながら少なくとも半分から上で調節し、「クリッピング」が生じないようにします。

Record Sendに送られるオーディオ信号のタイプは、POD HD ProのSetup: Outputs画面の中にある、Output Modeの設定によりコントロールされることに注意してください。USB録音を行うほぼ全ての場合、「Studio/Direct」に設定した方が良いでしょう。詳細は[2・8ページの「ページ 4、Setup : Output」](#)をご覧ください。

Line 6 Audio-MIDI装置パネル

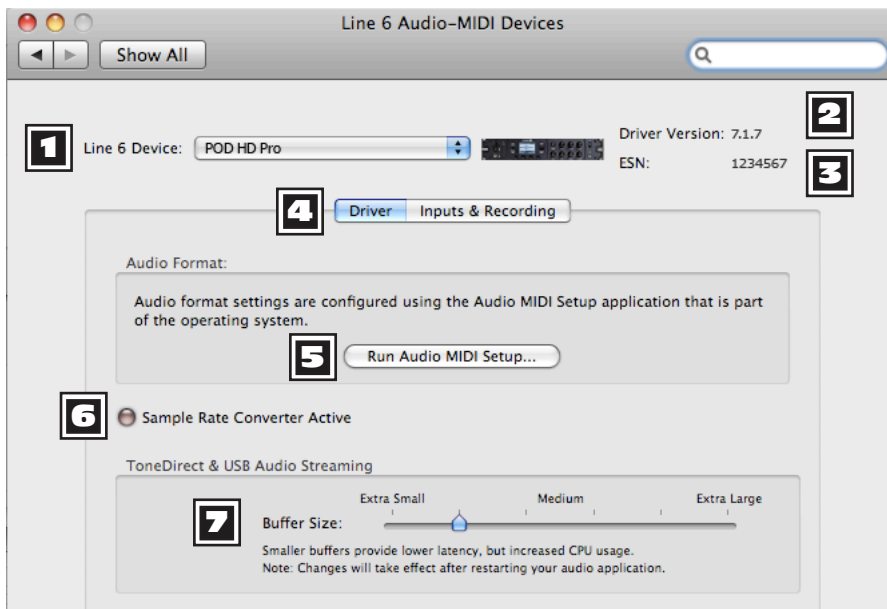
Line 6 Audio-MIDI Devices ユーティリティは、様々なオーディオ・ドライバー・セッティングを構成する場所です。Line 6 Audio-MIDI Devices ダイアログの中のオプションは、Mac®とWindows®システム間では多少異なります。以下の説明を参照してセットアップに合わせてください: [9・4ページの「Mac® – Line 6 Audio-MIDI 装置」](#)または [9・10ページの「Windows® – Line 6 Audio-MIDI デバイス」](#)を参照。

Mac® – Line 6 Audio-MIDI 装置



Mac®の「システム・プリファレンス」の中から Line 6 Audio-MIDI Devices ユーティリティを起動します。このユーティリティからいくつかのオプションにアクセスします。

Line 6 Audio-MIDI 設定 – Driver オプション (Mac®)



Line 6 Audio-MIDI Settings ウィンドウ – Driver ページ

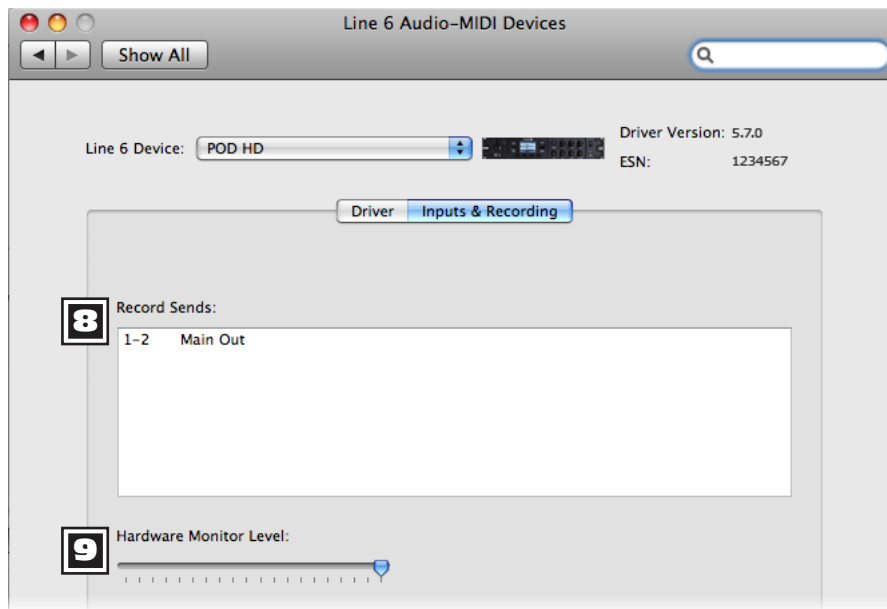
9•4

- 1 Device セレクター:**ここでPOD HD Proを選びます。Line 6対応のオーディオ・デバイスを2台以上接続している場合は、このリストの中からそれぞれを選ぶことができます。
- 2 Driver Version:**現在そのデバイスにインストールされているドライバー・バージョン・ナンバーが表示されます。
- 3 ESN:**現在接続されているデバイス独自のエレクトロニック・シリアル・ナンバーが表示されます。
- 4 Driver/Inputs & Recording セレクター:**Driver Options ウィンドウの2つのページのどちらを表示するかを選びます。[9•14ページの「Inputs & Recording ページ」](#)も参照してください。)
- 5 Run Audio-MIDI Setup:**Mac® Core Audio インターフェース・ドライバー・セッティングは、Mac OS® X オーディオMIDIセットアップ・ユーティリティの中で構成されます。このボタンを押すとこのダイアログが出現します ([9•4ページの「Mac® – Line 6 Audio-MIDI 装置」](#)参照)。

6 Sample Rate Converter Active: デバイスが本来の48kHz以外のサンプル・レートで操作されると、このインジケーターが点灯します。POD HD Proは内蔵サンプル・レート・コンバーターの利用により、48kHzに加え、44.1kHz、88.2kHz、96kHzのレートもサポートしています。オーディオ・サンプル・レートの設定に関する詳細は、使用するソフトウェアの説明書で確認してください。

7 USB Audio Streaming Buffer: 入力モニター信号のオーディオ反応に合わせてバッファサイズを調節します。基本的に、デフォルト・セッティングはほとんどのシステムに対して問題がありません。しかしオーディオがドロップアウトしたり、システム上で大量のCPUデマンドを課している場合は、スライダーの目盛りを1つか2つ右へ上げて負担を軽減させてください。

Inputs & Recording ページ



Line 6 Audio-MIDI Settings ウィンドウ Inputs & Recording ページ

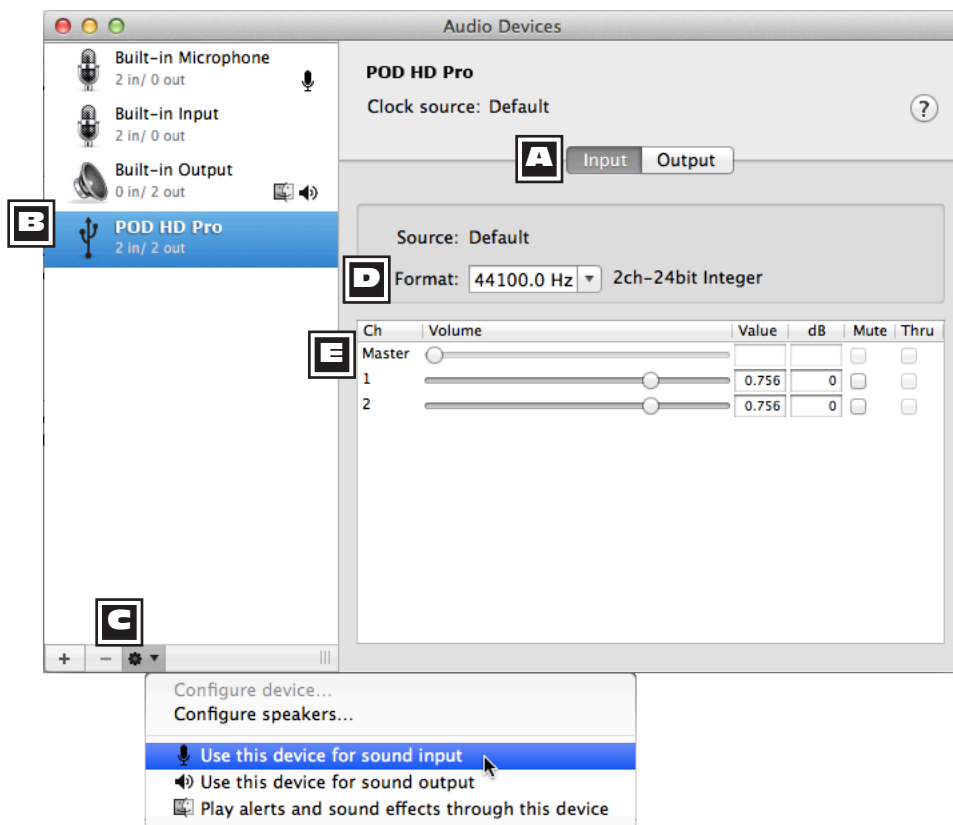
8 Record Sends リスト: ここに表示されているのが、オーディオ・ソフトウェアに使用可能な、現在接続されているLine 6デバイスのRecord Sendsです。POD HD Proには、ステレオ「1-2 Main Out」のRecord Sendが1種類表示されます。

9 ハードウェア・モニター・レベル:処理されたギター・トーンの出力ボリュームをこのスライダーでコントロールし、モニター専用に調節します（信号はデバイスのメイン・アウトプットへ送られます）。Record Sendを経由してコンピュータに送られた信号レベルへの影響はありません。これにより、DAWソフトウェアで録音を行う場合などといった、コンピュータからの再生オーディオに対するギターのモニター・レベルのバランスをとることができます。

DAWアプリケーションへの録音にPOD HD Proをオーディオ・インターフェースとして使用すると、DAWもまたそれ自身の「ソフトウェア・モニタリング」機能を提示してきます。DAWトラックでプラグ・インと共に処理したギター信号を聞きたい、というような場合には、DAWのソフトウェア・モニタリング機能を使いたくなるかもしれません。DAWソフトウェア・モニタリングを使用する場合は、このスライダーのレベルを最小値に設定して、DAWソフトウェア・モニタリング信号だけが聞こえるようにします。

Mac OS® XオーディオMIDIセットアップ・ユーティリティ

POD HD ProはMac® Core Audioドライバー・タイプを利用しているため、実際にどのようなMac®オーディオ/マルチメディア・ソフトウェアに対しても、オーディオ・インターフェースとして互換性を備えています。大部分のCore Audioデバイスと同様に、オーディオMIDIセットアップ・ダイアログのAudio Devicesページからいくつかのセッティングを見つけることができます。この画面には入力および出力の2つの設定画面があります。どちらの画面にも似たような選択肢がありますが、設定は選択されているデバイスの入力および出力に独立して行われます。



Audio MIDI設定、入力画面 (Mac OS® X 10.6以降*)

*注：Mac OS® Xバージョン10.5のAudio MIDI設定はレイアウトが若干異なりますが、ここで説明されているのと同様のオプションおよび機能が提供されています。

A 入力出力画面セクター:それぞれのオプションを表示するにはこれらのボタンを使用してください。

B 機器セットリスト:お使いのPOD HDデバイスをこのリストから選択して、画面にセッティングを表示させてください。

C デフォルト・オーディオ・デバイス・オプション:機器セットリストでお使いのPOD HDデバイスを選択した後、この小さな歯車のボタンを押し、POD HDがMac®用アプリケーションのデフォルトの入力(または)出力のサウンド装置になるように設定してください*。これらのオプションのいずれかを選択した場合、POD HDの右側に表示されているデバイス・リスト内のそれぞれのアイコンに、デフォルトのデバイスとして選択されていることが表示されます。

***注:**多くのDAWのアプリケーション (GarageBand、Logic、Ableton Liveなど) は、ここの設定とは独立してそれぞれの初期設定内でオーディオの入力、出力デバイスを選択することが可能です。

- このサウンド入力装置を使用:Mac®アプリケーションのオーディオ・レコーディングなどにおけるデフォルトの入力装置としてPOD HDを使用したい場合はこのオプションを選択してください。
- このサウンド出力装置を使用:iTunes®の音楽再生など、Mac®アプリケーションにおけるデフォルトの出力装置としてPOD HDを使用したい場合はこのオプションを選択してください。
- この装置を通して警告とサウンドエフェクトを再生:このオプションを選択すると、システムのアラート音などがそのデバイス経由で再生されます。POD HDのギターやオーディオ・プレイバックと同じ大音量でMac®のアラート音を聞きたくない場合はこれを選択しないでください。

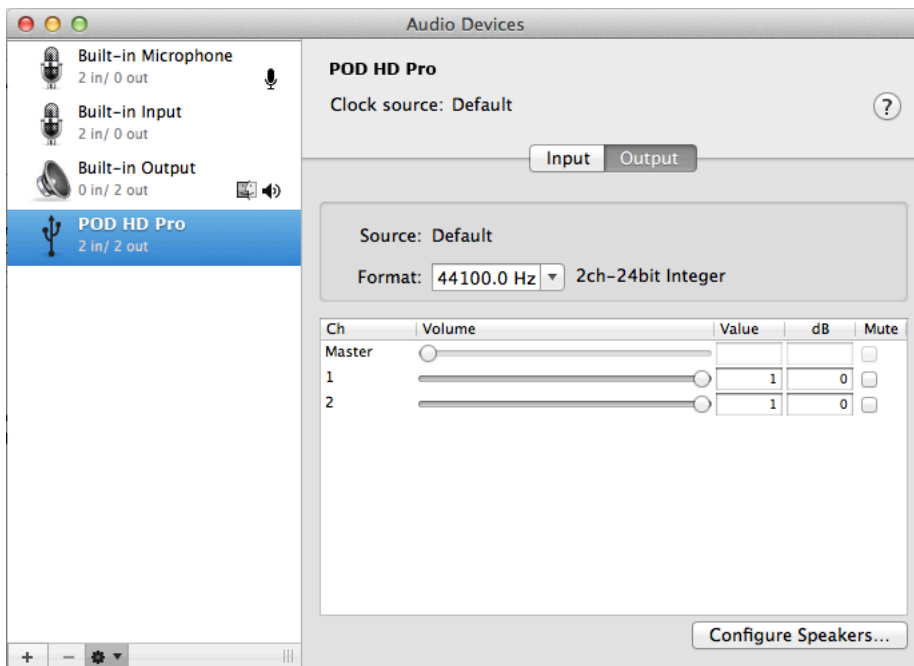
D フォーマット:これらのオプションは、POD HDのレコーディング (インプット画面を表示している場合) およびプレイバック (アウトプット画面を表示している場合) のサンプル・レート*およびビット・デプスを表示します。POD HDのビット・デプスは24bitで固定されています。

***オーディオ・ソフトウェアが作動している場合、この画面のサンプル・レート・セクターからサンプル・レートを変更しないことが推奨されます。通常、各オーディオ・ソフトウェアには初期設定内でサンプル・レートを変更するオプションが用意されているので、そこでレートを変更してください。**



ボリューム・スライダー：これらのスライダーは選択されているデバイスのレベルを調整するために使用します。

- オーディオ装置—入力画面を表示している場合（上記参照）、録音アプリケーションに送られるレコード・センド信号をスライダーでコントロールします。これらのスライダーはDAWアプリケーションの録音レベルを微調整するために使用することができます。また、インプット信号を最大+18dBブーストすることが可能です。
- オーディオ装置—出力画面を表示している場合（下記参照）、アプリケーションからPOD HDに送られるオーディオ・プレイバック信号のステレオ・レベルをスライダーでコントロールします。これらのスライダーは、USBプレイバック・オーディオに対してギター・インプットの信号を独立して調整することが可能です。

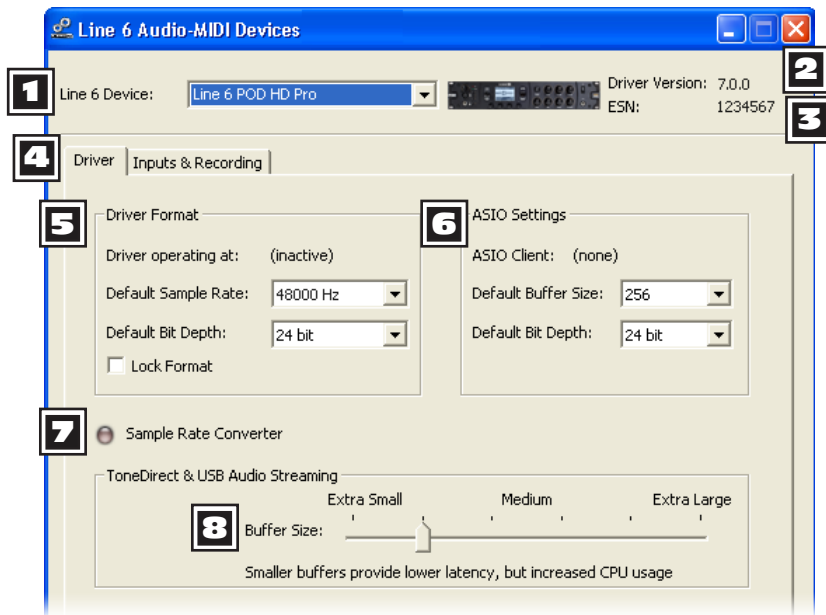


Audio MIDI 設定、出力画面 (Mac OS® X 10.6以降)

Windows® – Line 6 Audio-MIDI デバイス

特に明記しない限り Windows® XP、Windows Vista®や Windows® 7 の以下の設定は同じです。

Windows® コントロール・パネルの中から Line 6 Audio-MIDI Devices を起動します。Windows® システム上で、POD HD Pro はオーディオ & マルチメディア・ソフトウェア・アプリケーションとの互換性を最大限に発揮するために、DirectSound と ASIO® レコーディング・ドライバーの両方を提供しています。使用されるオーディオ・ソフトウェアが、ASIO® オーディオ・ドライバーに対応しているのであれば、より高いパフォーマンスを得るためにも、このドライバーを選択することをお勧めします。ASIO® ドライバーのセッティングを促す表示が出ときは、そのダイアログの表示箇所を設定を行います。



Line 6 Audio MIDI Devices – Driver タブ (Windows® XP)

1 デバイス・セレクター—ここで POD HD Pro を選びます。Line 6 対応のオーディオ・デバイスを 2 台以上接続している場合は、このリストの中からそれぞれを選ぶことができます。

2 Driver Version—現在そのデバイスにインストールされているドライバー・バージョン・ナンバーが表示されます。

3 ESN –現在接続されているデバイス独自のエレクトロニック・シリアル・ナンバーが表示されます。

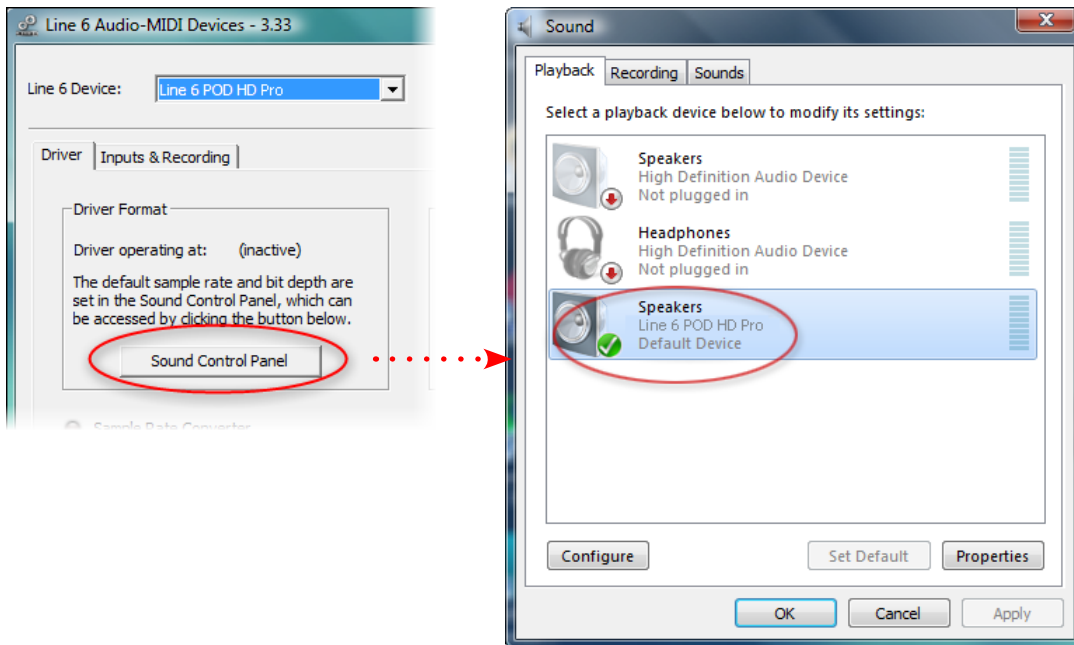
4 Driver/Inputs & Recording Selector – Driver Options ウィンドウの2つのタブのどちらを表示するかを選びます。(9・14ページの「[Inputs & Recording ページ](#)」も参照してください。)

5 Driver Format Operation (Windows® XPのみ) –これらのオプションは、アプリケーションがWindows® DirectSound® ドライバー経由でPOD HD Pro デバイスを使用するときのみ適用可能です。ASIO® ドライバーを経て使用する場合、これらのオプションは選択不可能です。

- **Driver operating at:** オーディオ・アプリケーションで使用する際に、ドライバーが実際に使うサンプル・レート&ビット深度を表示します。使用していない場合は「inactive」が表示されます。
- **Default Sample Rate & Bit Depth:** POD HD Pro をオーディオ・インターフェースとして使用する際に、アプリケーション（ASIO® 以外）が使用するデフォルトのサンプル・レート&ビット深度を、このオプションで設定します。
- **Lock Driver Format:** チェックを入れると、DirectSound® ドライバーは（Windows® オーディオ・アプリケーションによって要求されたサンプル・レートに従うことに反して）常に、2つ前のダイアログで設定したサンプル・レートとビット深度で動作します。

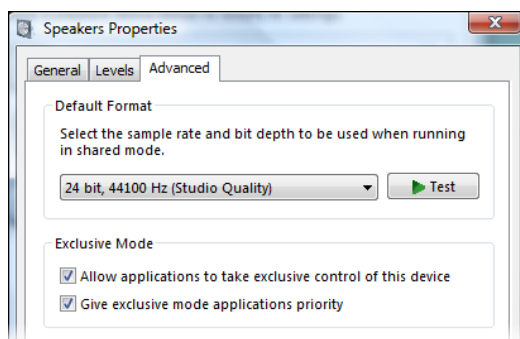
5 ドライバー・オペレーション (Windows Vista® & Windows® 7)

Windows® VistaとWindows® 7には、**サウンド・コントロール・パネル**ボタンが見えるはずです。これをクリックするとWindows®サウンド・パネルが起動します。全てのWindows®マルチメディア・プログラムで、POD HDをそのサウンド・カード・デバイスとして利用したい場合は、サウンド・パネルの再生と録音タブ内で、「デフォルト」オーディオ・デバイスとして指定することができます。



POD HD Proをデフォルト・プレイバック・デバイスとして選択

Soundダイアログの中のプロパティボタンをクリックして、Windows®マルチメディア・アプリケーションと共に使用したPOD HDサンプル・レートとビット深度のデフォルト・フォーマット設定にアクセスすることもできます。(Line 6デバイス用にASIO®ドライバーを使用するように設定したオーディオ・アプリケーションを使用すると、ASIO®は直接そのデバイスと通信を行うようになり、これらの「デフォルト・フォーマット」の設定が適用されないことに注意してください。)



Window Vista/7 コントロール・パネル>サウンド>プロパティ>アドバンス・タブ

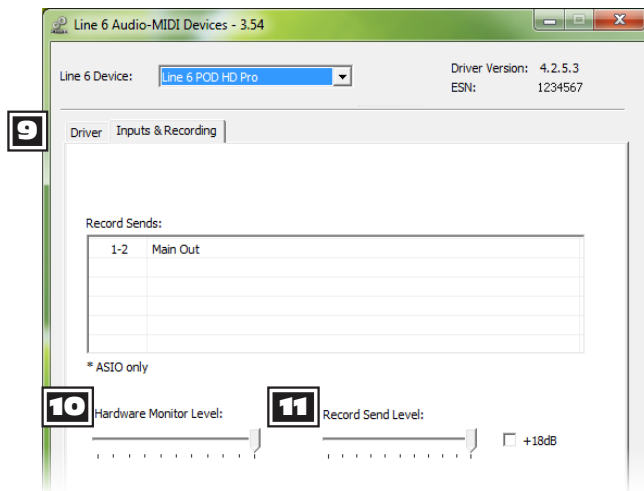
6 ASIO® ドライバー・セッティング

- **ASIO® Client:** POD HD ProをASIO®オーディオ・デバイスとして使用しているオーディオ・ソフトウェアを実行している場合、そのソフトウェアの名称がここに表示されます。
- **Buffer Size:** 使用中のASIO®バッファ・サイズがDAWソフトウェアの「応答性」と「レイテンシ」に影響を及ぼします。設定が低ければ低いほど応答速度はより速くなります。しかしそのプロセッサの高い使用量と引き換えにオーディオ・ドロップアウトの危険性が増します。オーディオ・ソフトウェアの再生や録音にばらつきがある場合は、値を上げてください。一般的に最初は、256に設定するのが良いでしょう。
- **Bit Depth:** 使用中のASIO®ビット深度 ここでは24ビットでを使用することをお勧めします。

7 Sample Rate Converter—デバイスが本来の48kHz以外のサンプル・レートで操作されると、このインジケータが点灯します。POD HD Proは内蔵サンプル・レート・コンバーターの利用により、48kHzに加え、44.1kHz、88.2kHz、96kHzのレートもサポートしています。

8 USB Buffer Size—このスライダーを使用して、入力モニター信号のオーディオ反応に合わせてバッファサイズを調節します。基本的に、デフォルト・セッティングはほとんどのシステムに対して問題がありません。しかしオーディオがドロップアウトしたり、システム上で大量のCPUデマンドを課している場合は、スライダーの目盛りを1つか2つ右へ上げて負担を軽減させてください。

Inputs & Recordingページ



Line 6 Audio MIDI Devices－Inputs & Recordingタブ

9 Record Sendsリスト:ここに表示されているのが、オーディオ・ソフトウェアに使用可能な、現在接続されているLine 6デバイスのRecord Sendsです。POD HD Proには、ステレオ「1-2 Main Out」のRecord Sendが1種類表示されます。

10 Hardware Monitor Level:処理されたソース・インプット・トーンの出力ボリュームをこのスライダーでコントロールし、モニター専用に調節します（信号はデバイスのメイン・アウトプットへ送られます）。Record Sendを経由してコンピュータに送られた信号レベルへの影響はありません。これにより、DAWソフトウェアで録音を行う場合などといった、コンピュータからの再生オーディオに対するギターのモニター・レベルのバランスをとることができます。

お使いのDAWに独自の「ソフトウェア・モニタリング」機能がある場合もあります。DAWのプラグインを通したギターのシグナルを聞きたいなど、DAWのソフトウェア・モニタリングを使用したい場合もあると思います。DAWソフトウェア・モニタリングを使用する場合は、このハードウェア・モニターのスライダーを最小に設定し、DAWソフトウェア・モニタリングの信号だけが聞こえるように設定してください。

11 Record Send Level:このスライダーは、PODからRecord Send経由でお使いのコンピュータに送られるPODの信号レベルを独立して調整します。DAWのトラックに録音される信号レベルに直接影響します。DAWへ送る信号をブーストさせたい場合は、ここの+18dBチェックボックスにチェックを入れることもできます。

付録 A: Line 6 Monkey™



Line 6 Monkey™ は無償で提供されるインテリジェントなアップデーター・ソフトウェアです。POD® HDやその他の関連するLine 6製品も同様に、常に最新のバージョンに更新することができます。Line 6 Monkeyは、POD HD Pro USBデバイス・ドライバと共に Mac®やWindows®コンピュータに自動的にインストールされます。まだUSBデバイス・ドライバをインストールされていないのでしたら、POD HDをコンピュータと共に活用するためには、すぐにでも入手する必要があります。[9・1ページの「9 - USBオーディオ」](#)を参照してください。Line 6 Monkeyを定期的に起動させて最新のアップデートを確認し、インストールすることをお勧めします。

A・I

Line 6 Variax®ユーザーの方へ：使用されているVariax向けの最新アップデートを入手するため、Line 6 Monkeyを使用することを強く推奨します。詳細は[A・4ページの「Line 6 Variaxアップデート」](#)をご覧ください。

Line 6 Monkeyを起動する

POD HDをコンピュータのUSB 2.0ポートへ接続してからデバイスの電源を入れて Line 6 Monkeyを起動します：

- Mac®の場合、アプリケーション/Line 6/Line 6 Monkeyへと進みます。
- Windows®の場合、Startメニュー ¥プログラム \Line 6\Tools\Line 6 Monkeyへと進みます。

特に明記しない限り、以下の手順はMac®やWindows®上で同じです。

ログイン・アカウント

Line 6 MonkeyがLine 6とコミュニケーションをとり、必要なものを提供できるように、まずはログインを行います。何回かクリックするだけ、それに無料です！まだアカウントを作成していない場合は、**New User**ボタンをクリックして、アカウント作成手順に進みます。

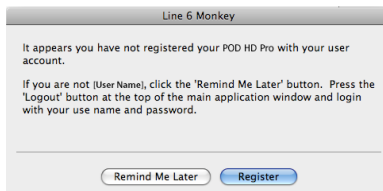
User Name

Password:

Please click the 'Updates' tab below to get updates

ハードウェアを登録する

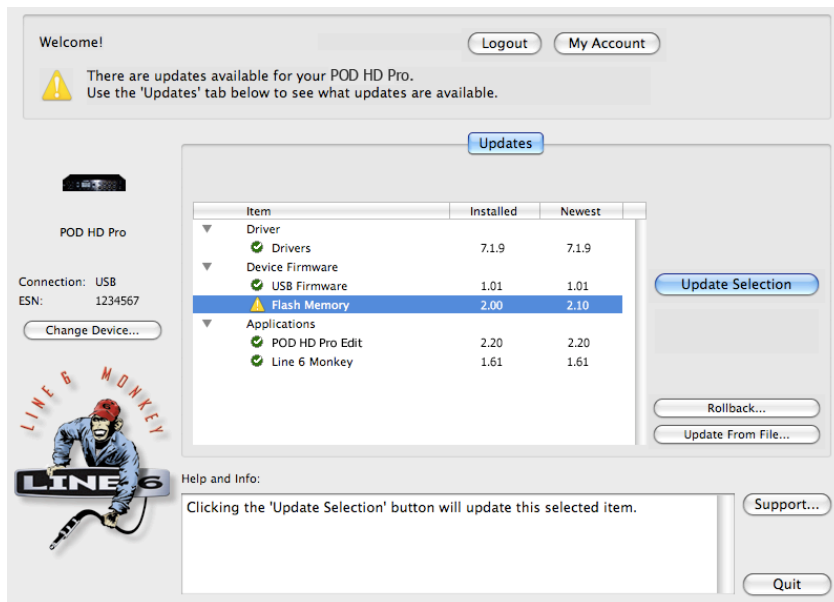
まだ登録がお済みでない場合は、接続した Line 6 ハードウェアの登録を促すダイアログがここで表示されます。本当に簡単な手順です。**Register** ボタンをここでクリックしてください。



FBV MkII ユーザー: Line 6 FBV MkII コントローラーを使用している場合も同様に、利用可能なアップデートをインストールすることをお勧めします。上記で説明した通り、FBV MkII を直接コンピュータの USB ポートへ接続して Line 6 Monkey を使用します。

アップデートを入手する

入手可能な新しいアイテムとして、より新しいバージョンがある場合は、そのアイテムをクリックして、あなたの Monkey にインストールの手順を案内させていただきます。

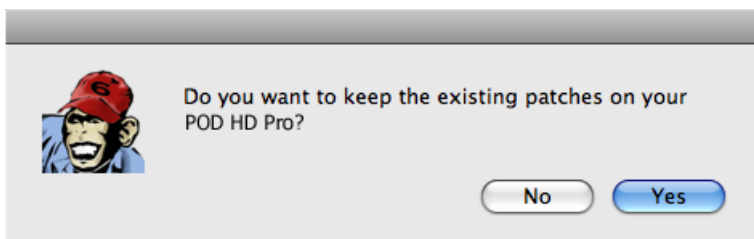


Line 6 Monkey — POD HD用のUpdates 画面

例として、上記のスクリーン・ショットはMonkeyがより新しいファームウェアを発見したことを示しています。フラッシュ・メモリー・バージョンが入手可能であり、それは現在のデバイスにインストールされています。このシナリオでは、Flash Memoryアイテムを選び、次に**Update Selection**をクリックします。画面に表示されるメッセージを注意して読んでください。あとしばらくで、Monkeyがアップデートの操作をお手伝いします。アップデートが全て完了するまでは、デバイスのコントロールと接続ケーブルには、触れないようにすることが特に重要です！

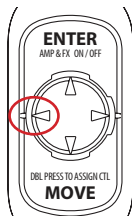
フラッシュメモリー・アップデートとプリセット

通常、フラッシュ・メモリーのアップデートにはファクトリー・プリセット一式が含まれています。お手持ちのデバイスのメモリーに保存されているプリセット一式よりもさらに新しい改訂版である場合があります。アップデート中に現在のプリセットをそのまま保持するかどうかを促すメッセージが表示されます。「No」を選択すると、お手持ちのデバイスのプリセットは永久的に上書きされることになります。



フラッシュメモリーの更新中に表示される、現在のプリセットを保持するためのメッセージ

ヒント！ POD HD Pro Editを使用することで、簡単にプリセット一式を一つのファイルとしてコンピュータに保存することができます（[1・6ページの「POD HD Proエディット・ソフトウェア」](#)参照）。

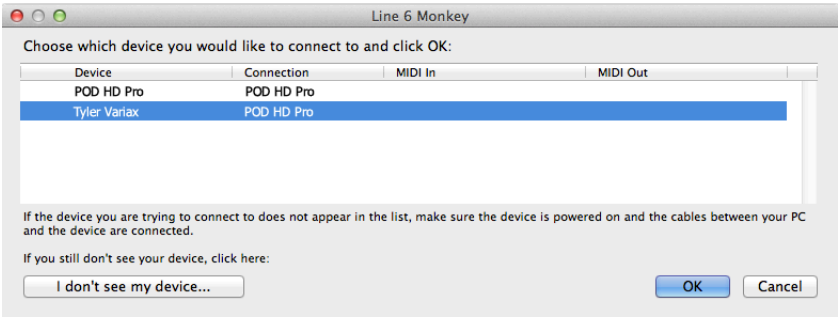


フラッシュ・メモリーの更新が終了したら、ナビ・ディスクの左矢印ボタンを押しながらPOD HD Proの電源を入れてください。これにより、グローバル設定の全てがファクトリー・デフォルトに「リセット」されます。リセットを行うことで、新しいフラッシュ・メモリー・バージョンに含まれているセットリストのタイトルも更新されます（バージョンが異なる場合）。

Line 6 Variaxアップデート

Line 6 Variaxをご使用の場合、最新のファームウェア・アップデートの確認とインストールを行うことを強く推奨します。最新のPOD HD Proファームウェア、POD®HD Pro EditおよびVariax® Workbench™ソフトウェアと互換性を保つためにファームウェア・アップデートが必要な場合があります。

手順は、VariaxをPOD HD Pro背面の**VARIAX**インプットに接続し、Line 6 Monkeyを起動するだけです。接続されているデバイスから選択するように指示されます。



使用されているVariax楽器を選択し、**OK**をクリックしてください。Line 6 Monkeyアップデート・ウィンドウが開き、お使いのVariaxで使用可能なアップデートが表示されます。Flashアップデートが使用できる場合は、それを選択して**Update Selected**をクリックし、最新バージョンをインストールしてください。

最新のVariax Workbenchソフトウェアのダウンロードおよびインストールがされていない場合は、それも実行してください。こちらもLine 6 Monkeyアップデート・ウィンドウ内に表示されます。

付録 B:FBVフットコントローラー

ハンズフリーで POD® HD Pro のプリセット、アンプ、エフェクトやパラメーターにアクセスしてみませんか？ 対応する Line 6 FBV™ コントローラーを接続すれば、事は簡単です！ FBV コントローラーを利用した POD HD Pro の使い方とその多くの利点をここで詳しく説明します。

ヒント: Line 6 FBV シリーズの機器を接続すれば、POD HD Pro を MIDI コントローラーとして他の MIDI 機器を操作するように設定することもできます！ 詳細は B・1 ページの「付録 C: MIDI」をご覧ください。

FBV MkII & FBV シリーズ・コントローラー

Line 6 FBV Shortboard MkII コントローラーは、POD HD Pro を使用する際の推奨 FBV 機器です。POD HD Pro の不可欠な機能に簡単にアクセスすることができる最新モデルです。



FBV Shortboard MkII コントローラー

数台の FBV コントローラー・モデルと共に POD HD Pro を使用する事も可能です: **FBV Express MkII**, **FBV Longboard** と **FBV Shortboard** さらに、Line 6 **EX1** エクスプレッション・ペダルを FBV Shortboard MkII や FBV Shortboard と共に使用することで第 2 のペダル・コントローラーを加えることができます。これらの製品の詳細は、<http://line6.com/footcontrollers/fbvshortboardmkii.html> にアクセスしてご覧ください。

アップグレードを行っていますか？ Line 6 FBV MkII シリーズ・コントローラーを使用している場合は、直接コンピュータの USB ポートへ接続し、Line 6 Monkey を起動させることで、最新のアップデーターをチェックしてインストールすることができます B・A・1 ページの「付録 A: Line 6 Monkey™」をご覧ください。

接続をはじめる



全てのFBV 機器に「RJ-45」ケーブルが同梱されています。このケーブルは本物のスタンダード「Category 5」コンピュータ・ネットワーク・ケーブルです。従って、万一無くされた場合は、家電製品店やコンピュータ・ストアでこのタイプのケーブルをお買い求めください。

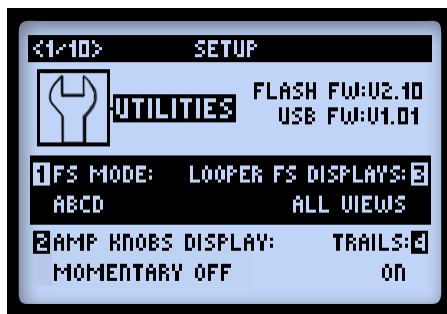
POD HD Proの電源をOffにしてから、このケーブルでFBV 機器の**TO AMP**端子と POD HD Proの**FBV**端子を接続します。エクスプレッション・ペダルをお持ちの場合は、FBVの**EXP. PEDAL**端子に接続します。それからPOD HD Proの電源を入れます。FBVが点灯し、これで準備はOKです！

注意：使用するペダルは、FBV 機器に合わせて必ず調整してください。お手持ちのFBV 機器に同梱のパイロット・ハンドブックをご覧ください。または<http://line6.jp/support/manuals/>からパイロット・ハンドブック、あるいはFBVアドバンスド・ガイドをダウンロードして参照してください。

FBV用のセットアップ・オプション

FBV 機器を接続した場合、POD HD Proの動作に影響を与えるSetupオプションがいくつかあります。VIEW ボタンを長押しして Setupに入り、以下のオプションにアクセスします。（その他のSetupオプションについての詳細は、[2・1ページの「システム・セットアップへアクセスする」](#)も併せてご覧ください。）

Setup：Utilities ページ I



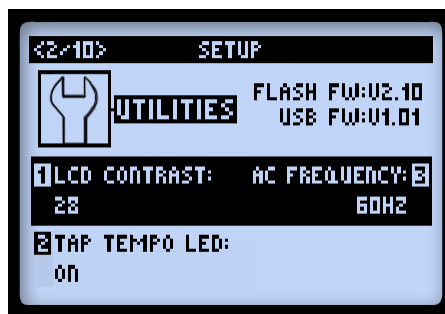
- FS MODE (ノブ 1)：FBVの**A、B、C、D**フットスイッチの機能を設定します。この設定はグローバルです。プリセット毎に割り当てるこれらの設定方法については、[3・7ページの「エフェクト&アンプ・ブロックFBVフットスイッチのアサイン」](#)をご覧ください。

- **ABCD**:現在選択されているバンクのプリセット A から D までを切り替えます。
- **FS 5～8**:FS5 から FS8 On/Off までに割り当てたアンプやエフェクト・ブロックを切り替えます。

パフォーマンス・ビュー画面を利用すれば、現在選択されているプリセットの ABCD と FS の割り当てを、ビジュアルな情報で参照することができるために便利です。次のセクションをご覧ください。

- **LOOPER FS DISPLAY (ノブ 3)**:ルーパー・モード画面をどの方法で、またいつ表示させるかを決定します ([1・3 ページ](#)と同様に、以下のセクションも参照してください)。

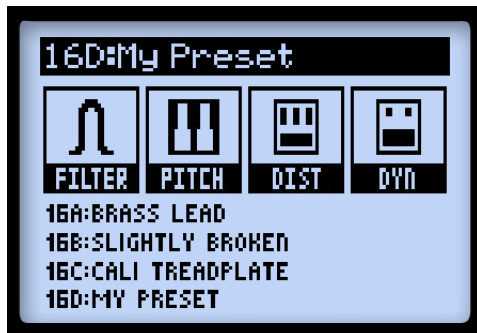
Setup ページ 2



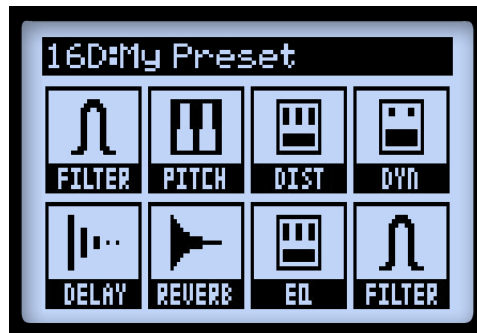
- **FBV EXPRESS (ノブ 4)**:FBV Express MkII モデル・コントローラーを POD HD Pro に接続して正確に機能させるために、このオプションは必ず「On」に設定してください。

POD HD Pro パフォーマンス・ビュー画面

パフォーマンス・ビュー画面では、FBVフットスイッチにコントロールを割り当てた、プリセットやアンプ&エフェクト・ブロックをビジュアルな情報として参照することができます。



FS5～FS8へのABCDの割り当て

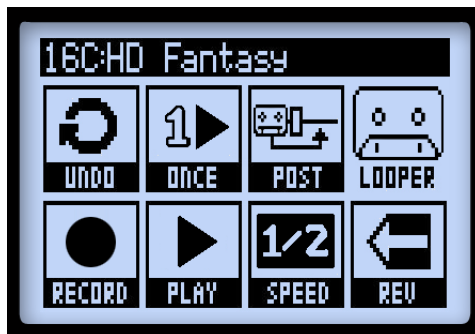


FS1～FS8へのエフェクトの割り当て

特定のFBVモデル機器で、どのFBVフットスイッチを8種類のフットスイッチにそれぞれ割り当てて関連させるかの判断は、以下のページに記載されるフットスイッチ・マッピング表を参照してください。（これらのフットスイッチの割り当てに関するエディット&作成方法は、[B・18ページ](#)に記載されています。）

POD HD Proが Looperモードに入ると、パフォーマンス・ビュー画面の3番目の画面にFBVフットスイッチを利用してアクセスするルーパー機能が表示されます。[8・1ページの「ルーパー・フットスイッチ・コントロール&パフォーマンス・ビュー」](#)も併せてご覧ください。

ヒント：POD HD ProのLooperモードは、Line 6 FBV Shortboard MkIIやオリジナルFBVロングボード、またはShortboardコントローラーが接続されている場合にのみアクセスが可能です。



Looperモードが起動中のパフォーマンス・ビュー

FBV コントローラー・デバイスフットスイッチ&ペダル・マッピング

FBV 機器のフットスイッチとペダルは、特定のPOD HD Pro機能にあらかじめマッピングされています。これらのマッピングは、それぞれFBVコントローラーのタイプによって多少の違いがあります。お手持ちのFBVモデルに合う表を参照してください。これらの表に記載されているPOD HD Pro機能についての詳細は、以下のセクションをご覧ください。

FBV Shortboard MkII



FBV Shortboard MkIIーフットスイッチ & ペダル・マッピング				
フットスイッチ・ラベル	POD HD Proの機能	FBVのLCD画面	フットスイッチ LED	説明
FUNCTION 1	Looper モード On/Off	変化無し	モードの作動中は点灯	Looper モードの On/Off を切り替える
FUNCTION 2	セットリスト・セレクト・モードの On/Off	セットリスト選択画面を表示	モードの作動中は点灯	セットリスト・セレクト・モードの On/Off を切り替える
▲	Bank Up (バンク・モード)	バンクの列表示、点滅	変化無し	次のバンクを列表示
	セットリスト・セレクト (Set List モード)	セットリスト選択画面を表示	変化無し	セットリストを選択
▼	Bank Down (バンク・モード)	バンクの列表示、点滅	変化無し	前のバンクを列表示
	セットリスト・セレクト (Set List モード)	セットリスト選択画面を表示	変化無し	セットリストを選択
STOMP	FS1 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS1」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
MODULATION	FS2 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS2」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える

FBV Shortboard MkII—フットスイッチ & ペダル・マッピング

フットスイッチ・ラベル	POD HD Proの機能	FBVのLCD画面	フットスイッチLED	説明
DELAY	FS3 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS3」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
REVERB	FS4 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS4」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
A	プリセット A を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット A を読み込む
	FS5 On/Off (FS 5–8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS5」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
B	プリセット B を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット B を読み込む
	FS6 On/Off (FS 5–8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS6」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
C	プリセット C を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット C を読み込む
	FS7 On/Off (FS 5–8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS7」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
D	プリセット D を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット D を読み込む
	FS8 On/Off (FS 5–8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS8」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
TAP	タップ・テンポを設定する	変化無し	テンポに合わせて点滅	タップしてテンポ速度を設定する
	Tuner モード On/Off	Tuner を表示	テンポに合わせて点滅	長押しして Tuner モードを起動／終了
ペダル・トウスイッチ	EXP 1/EXP 2 ペダル・モード (ペダル2に何も接続されていない場合)	変化無し	EXP 1=WAH 点灯 EXP 2=VOL 点灯	オンボード・ペダルを EXP 1 と EXP 2 モード間で切り替える
	トウスイッチ	変化無し	変化無し	フットスイッチとして割り当て可能

Looper モード・フットスイッチ・マッピング

POD HD ProがLooperモードに入ると、いくつかのFBVフットスイッチはそのマッピングを変更して、以下のルーパー機能を行います。[8・1ページの「8・ルーパー・モード」](#)も併せてご覧ください。

FBV Shortboard MkII – Looper モード・フットスイッチ・マッピング			
フットスイッチ・ラベル	POD HD Proの Looper機能	フットスイッチLED	説明
FUNCTION I	Looper モード On/Off	モードの作動中は点灯	Looper モードの On/Off を切り替える
STOMP	Undo	Undo の操作中は点灯	最後に録音したオーバーダブを消去
MODULATION	Play Once	録音したループの再生中は点灯	現在録音したループを一回のみ再生
DELAY	Looper Pre/Post	ルーパーが Post 位置のとき点灯	ルーパーの位置をシグナル・チェーン内の「Pre」か「Post」に設定
A	Record/Overdub	録音中は点灯 オーバーダブ中は点滅	直ちに録音を開始 – あるいは現在、ループの再生中であればループの上にオーバーダブを重ねる
B	Play/Stop	再生中は点灯	録音したループの再生と停止を切り替える
C	Full/Half Speed	1 / 2 スピード使用時に点灯	ループの再生と録音をノーマルと 1 / 2 スピード間で切り替える
D	Reverse/Forward	選択後に点灯	ループの再生と録音をノーマルとリバース間で切り替える

ペダル機能

FBV Shortboard MkII 機器には、「オンボード」エクスプレッション・ペダルが同梱されており、オプションとして 2 台目のエクスプレッション・ペダル用の端子も装備されています。これらのペダルで、コントローラーに割り当て可能な POD HD Pro **EXP 1** と **EXP 2** にアクセスすることができます。プリセットをカスタマイズするために、これらのコントローラーへアンプ & エフェクト・パラメーターを割り当てる方法については、[B・16ページの「エクスプレッション・ペダルとVariax®ノブ・コントローラーのアサイン」](#)をご覧ください。

FBV の **EXP. PEDAL** インプットに追加のペダルが接続されていない場合、オンボード・ペダルの「トウスイッチ」で **EXP 1** と **EXP 2** 間のコントロールを切り替えることができます。FBV の赤 **WAH** と緑 **VOL** の LED が点灯し、現在選択されているペダル・モードをそれぞれ示します（トウスイッチに他の機能を手動で割り当てることも可能です。[B・20ページの「EXP ペダル・トウスイッチを使用する」](#) 参照）。

ペダル2を接続した場合のEXP 1とEXP 2

2台目のエクスプレッション・ペダル（Line 6 EX-1エクスプレッション・ペダル等）を接続すると、オンボード・ペダルは**EXP 1**へのみ、ペダル2は**EXP 2**へのみマッピングされた状態を維持します。ペダル2が接続されているときは、常に**EXP 1** & **EXP 2**LEDの両方が点灯します。

FBV Express MkII



FBV Express MkII – フットスイッチ & ペダル・マッピング				
フットスイッチ・ラベル	POD HD Pro の機能	7区分のLED 表示	フットスイッチ LED	説明
A	プリセット A を選択 (ABCD モード)	選択したプリセットを示す「A」を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット A を読み込む
	FS5 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセットを表示	ブロックの作動中は点灯	「FS5」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
B	プリセット B を選択 (ABCD モード)	選択したプリセットを示す「B」を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット B を読み込む
	FS6 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット・チャンネルを表示	ブロックの作動中は点灯	「FS6」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
C	プリセット C を選択 (ABCD モード)	選択したプリセットを示す「C」を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット C を読み込む
	FS7 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット・チャンネルを表示	ブロックの作動中は点灯	「FS7」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える

FBV Express MkII – フットスイッチ & ペダル・マッピング				
フットスイッチ・ラベル	POD HD Pro の機能	7区分のLED 表示	フットスイッチ LED	説明
D	プリセット D を選択 (ABCD モード)	選択したプリセットを示す「D」を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット D を読み込む
	FS8 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット・チャンネルを表示	ブロックの作動中は点灯	「FS8」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
点灯中 A、B、C、D	チューナー on/off	現在の音符名とその音がフラットかシャープかを表示	そのまま点灯	現在点灯しているフットスイッチを長押ししてチューナー・モードの on/off を切り替えます。
	システム・テンポを設定します	テンポ速度でドットが点滅	そのまま点灯	現在点灯しているフットスイッチを「タップ」してその機器のテンポ・モードに入ります。
ペダル・トウスイッチ	EXP 1/EXP 2 ペダル・モード	変化無し	EXP 1 = WAH 点灯 EXP 2 = VOL 点灯	EXP 1 と EXP 2 モード間でペダルを切り替える
	トウスイッチ	変化無し	変化無し	割り当て可能なフットスイッチ

ヒント：Line 6 FBV Shortboard MkII を使用して POD HD Pro の Looper モードへ、アクセスすることはできません。

ペダル機能

FBV Express MkII 機器には、「オンボード」ペダルが同梱されており、コントローラーへ割り当て可能な POD HD Pro の **EXP 1** と **EXP 2** の両方へアクセスすることができます。プリセットをカスタマイズするために、これらのコントローラーへアンプ&エフェクト・パラメーターを割り当てる方法については、[B・16 ページの「エクスプレッション・ペダルと Variax® ノブ・コントローラーのアサイン」](#)をご覧ください。

ペダルの「トウスイッチ」を使用することで **EXP 1** と **EXP 2** 間のコントロールを切り替えることができます。FBV の赤 **WAH** と緑 **VOL** の LED が点灯し、現在選択されているペダル・モードをそれぞれ示します（トウスイッチに他の機能を手動で割り当てることも可能です。[B・20 ページの「EXP ペダル・トウスイッチを使用する」](#) 参照）。

FBV Longboard

B・10



FBV Longboardーフットスイッチ & ペダル・マッピング				
フットスイッチ・ラベル	POD HD Pro の機能	FBVのLCD画面	フットスイッチ LED	説明
FX LOOP	Looper モード On/Off	変化無し	モードの作動中は点灯	Looper モード の On/Off を切り替える
AMP I	セットリスト・セレクト・モードの On/Off	セットリスト選択画面を表示	モードの作動中は点灯	セットリスト・セレクト・モードの On/Off を切り替える
REVERB	FS4 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS4」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
TREMOLO	FS1 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS1」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
MODULATION	FS2 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS2」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
DELAY	FS3 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS3」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
BANK DOWN	バンク・ダウン (バンク・モード)	バンクの列表示、点滅	変化無し	前のバンクを列表示
	セットリスト・セレクト (Set List モード)	セットリスト選択画面を表示	変化無し	セットリストを選択
BANK UP	バンク・アップ (バンク・モード)	バンクの列表示、点滅	変化無し	次のバンクを列表示
	セットリスト・セレクト (Set List モード)	セットリスト選択画面を表示	変化無し	セットリストを選択

FBV Longboardーフットスイッチ & ペダル・マッピング				
フットスイッチ・ラベル	POD HD Pro の機能	FBVのLCD画面	フットスイッチ LED	説明
CHANNEL A	プリセット A を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット A を読み込む
	FS5 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS5」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
CHANNEL B	プリセット B を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット B を読み込む
	FS6 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS6」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
CHANNEL C	プリセット C を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット C を読み込む
	FS7 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS7」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
CHANNEL D	プリセット D を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット D を読み込む
	FS8 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS8」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
TAP TEMPO	タップ・テンポを設定する	変化無し	テンポに合わせて点滅	タップしてテンポ速度を設定する
	Tuner モード On/Off	Tuner を表示	テンポに合わせて点滅	長押しして Tuner モードを起動／終了
ペダル I トウスイッチ	トウスイッチ	変化無し	変化無し	フットスイッチとして割り当て可能

Looper モード・フットスイッチ・マッピング

POD HD ProがLooperモードに入ると、いくつかのFBVフットスイッチはそのマッピングを変更して、以下のルーパー機能を行います。[8・1ページの「8・ルーパー・モード」](#)も併せてご覧ください。

FBV Longboard－Looper モード・フットスイッチ・マッピング			
フットスイッチ・ラベル	POD HD ProのLooper機能	フットスイッチLED	説明
REVERB	Undo	Undoの操作中は点灯	最後に録音したオーバーダブを消去
TREMOLO	Play Once	録音したループの再生中は点灯	現在録音したループを一回のみ再生
MODULATION	Looper Pre/Post	ルーパーが Post位置のとき点灯	ルーパーの位置をシグナル・チェーン内の「Pre」か「Post」に設定
CHANNEL A	Record/Overdub	録音中は点灯 オーバーダブ中は点滅	直ちに録音を開始 – あるいは現在、ループの再生中であればループの上にオーバーダブを重ねる
CHANNEL B	Play/Stop	再生中は点灯	録音したループの再生と停止を切り替える
CHANNEL C	Full/Half Speed	1 / 2 スピード使用時に点灯	ループの再生と録音をノーマルと 1 / 2 スピード間で切り替える
CHANNEL D	Reverse/Forward	選択後に点灯	ループの再生と録音をノーマルとリバース間で切り替える

ペダル機能

FBV Longboard機器には2台の「オンボード」ペダル、**ペダル 1**と**ペダル 2**、が同梱されています。これらのペダルは、POD HD Proの**EXP 1**と**EXP 2**のそれぞれ割り当て可能なコントローラーへ恒久的にマッピングされています。プリセットをカスタマイズするために、これらのコントローラーへアンプ & エフェクト・パラメーターを割り当てる方法については、[B・16ページの「エクスプレッション・ペダルとVariax® ノブ・コントローラーのアサイン」](#)をご覧ください。

ペダル1トウスイッチでアンプやエフェクト・ブロック On/Offを切り替えるように、手動で割り当てることができます。[B・20ページの「EXPペダル・トウスイッチを使用する」](#)参照

FBV Shortboard



B・13

FBV Shortboard – フットスイッチ & ペダル・マッピング

フットスイッチ・ラベル	POD HD Pro の機能	FBVのLCD画面	フットスイッチ LED	説明
FX LOOP	Looper モード On/Off	変化無し	モードの作動中は点灯	Looper モードの On/Off を切り替える
▲ BANK	バンク・アップ (バンク・モード)	バンクの列表示、点滅	変化無し	次のバンクを列表示
▼ BANK	バンク・ダウン (バンク・モード)	バンクの列表示、点滅	変化無し	前のバンクを列表示
STOMP	FS1 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS1」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
MODULATION	FS2 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS2」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
DELAY	FS3 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS3」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
REVERB	FS4 On/Off	変化無し	ブロックの作動中は点灯	「FS4」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
CHANNEL A	プリセット A を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット A を読み込む
	FS5 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS5」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える

FBV Shortboard – フットスイッチ & ペダル・マッピング				
フットスイッチ・ラベル	POD HD Pro の機能	FBVのLCD画面	フットスイッチ LED	説明
CHANNEL B	プリセット B を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット B を読み込む
	FS6 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS6」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
CHANNEL C	プリセット C を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット C を読み込む
	FS7 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS7」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
CHANNEL D	プリセット D を選択 (ABCD モード)	現在選択されているプリセット名を表示	選択後に点灯	現在選択されているバンクのプリセット D を読み込む
	FS8 On/Off (FS 5-8 モード)	現在選択されているプリセット名を表示	ブロックの作動中は点灯	「FS8」に割り当てたアンプ/エフェクト・ブロックを切り替える
TAP	タップ・テンポを設定する	変化無し	テンポに合わせて点滅	タップしてテンポ速度を設定する
	Tuner モード On/Off	Tuner を表示	テンポに合わせて点滅	長押しして Tuner モードを起動/終了
ペダル・トゥスイッチ	EXP 1/EXP 2 ペダル・モード (ペダル2に何も接続されていない場合)	変化無し	EXP 1=WAH 点灯 EXP 2=VOL 点灯	オンボード・ペダルをEXP 1とEXP 2モード間で切り替える
	トゥスイッチ	変化無し	変化無し	フットスイッチとして割り当て可能

Looper モード・フットスイッチ・マッピング

POD HD ProがLooperモードに入ると、いくつかのFBVフットスイッチはそのマッピングを変更して、以下のルーパー機能を行います。[8・1ページの「8 - ルーパー・モード」](#)も併せてご覧ください。

FBV Shortboard – Looper モード・フットスイッチ・マッピング			
フットスイッチ・ラベル	POD HD ProのLooper機能	フットスイッチLED	説明
FX LOOP	Looper モード On/Off	モードの作動中は点灯	Looper モードのOn/Offを切り替える
STOMP	Undo	Undoの操作中は点灯	最後に録音したオーバーダブを消去
MODULATION	Play Once	録音したループの再生中は点灯	現在録音したループを一回のみ再生
DELAY	Looper Pre/Post	ルーパーが Post位置のとき点灯	ルーパーの位置をシグナル・チェーン内の「Pre」か「Post」に設定
CHANNEL A	Record/Overdub	録音中は点灯 オーバーダブ中は点滅	直ちに録音を開始 – あるいは現在、ループの再生中であればループの上にオーバーダブを重ねる
CHANNEL B	Play/Stop	再生中は点灯	録音したループの再生と停止を切り替える
CHANNEL C	Full/Half Speed	1 / 2 スピード使用時に点灯	ループの再生と録音をノーマルと 1 / 2 スピード間で切り替える
CHANNEL D	Reverse/Forward	選択後に点灯	ループの再生と録音をノーマルとリバース間で切り替える

ペダル機能

FBV Shortboard機器には、「オンボード」エクスプレッション・ペダルが同梱されており、背面にはオプションとして2台目のエクスプレッション・ペダル用の端子も装備されています。これらのペダルで、コントローラーに割り当て可能なPOD HD Pro **EXP 1**と**EXP 2**にアクセスすることができます。プリセットをカスタマイズするために、これらのコントローラーヘアンプ&エフェクト・パラメーターを割り当てる方法については、[B・16ページの「エクスプレッション・ペダルとVariax®ノブ・コントローラーのアサイン」](#)をご覧ください。

FBVの**EXP. PEDAL**インプットに追加のペダルが接続されていない場合、オンボード・ペダルの「トウスイッチ」で**EXP 1**と**EXP 2**間のコントロールを切り替えることができます。FBVの赤**WAH**と緑**VOL**のLEDが点灯し、現在選択されているペダル・モードをそれぞれ示します（トウスイッチに他の機能を手動で割り当てすることも可能です。[B-20ページの「EXPペダル・トウスイッチを使用する」](#)参照）。

ペダル2を接続した場合のEXP 1とEXP 2

2台目のエクスプレッション・ペダル（Line 6 EX-1エクスプレッション・ペダル等）を接続すると、オンボード・ペダルは**EXP 1**へのみ、ペダル2は**EXP 2**へのみマッピングされた状態を維持します。ペダル2が接続されているときは、常に**EXP 1** & **EXP 2**LEDの両方が点灯します。

エクスプレッション・ペダルとVariax®ノブ・コントローラーのアサイン

以下の表で示される通り、FBV機器のペダルはPOD HD Pro **EXP 1**と**EXP 2**コントローラーへアクセスするように設計されており、どのアンプやエフェクト・モデルのパラメーターも割り当てることが可能です。これらのコントローラーをPOD HD Proのパラメーターへ割り当てて手順は以下の通りです。

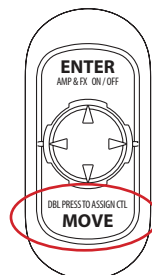
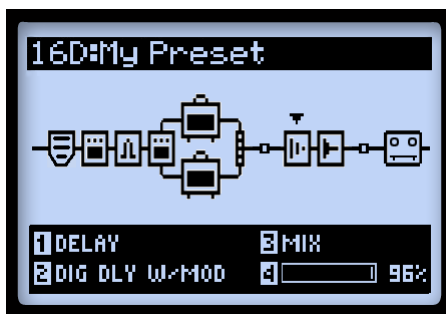
Variaxノブをコントローラーとして使用

あらゆるLine 6 Variaxギターのボリュームおよびトーン・ノブは、全てのPOD HD ProアンプまたはFXパラメータをコントロールするためにアサインすることができます。POD HD Proのパラメータをリモートでコントロールする場合、同時にVariaxギターのボリュームまたはトーンを変えてしまわないようにLocal Controlを「ロック」した方がいいかもしれません。詳細は[2-11ページの「ページ 7、Setup : Variax Options」](#)をご覧ください。

アンプ & エフェクト・パラメーターをコントロールする

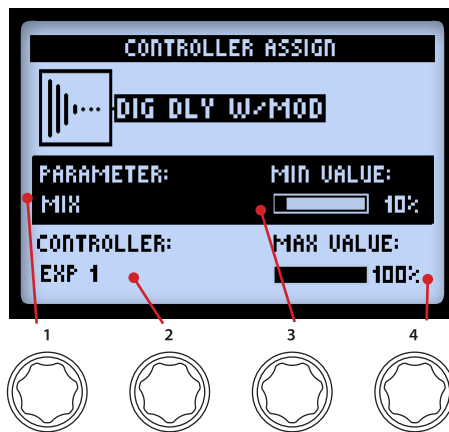
エクスプレッション・ペダルおよびVariaxノブ・コントローラーのアサインはController Assign画面で行います。シグナル・フロー・ビューの中でエクスプレッション・ペダルに割り当てたいアンプまたはFXブロックを選択し、**MOVE**を2度押します。この例では、シグナル・フロー・ビューの中でディレイのFXブロックを選択し、EXP-1ペダルでコントロールするよう設定します。

ヒント：エクスプレッション・ペダルおよびノブ・コントローラーは、同時に50以上のPOD HDのパラメータをコントロールすることができ、ペダルまたはノブの動きひとつでサウンドにさまざまな変化を与えることができます。プリセット内の複数のパラメータを共通のコントローラーでコントロールするには、以下の手順に従ってください。



注意: コントローラーにエフェクトモデル・パラメーターが割り当てられている場合、このパラメーター値を手動でエディットすると、コントローラーのMINやMAX値が変わります。例えば、EXP-1 ペダル・コントローラーがワウ・エフェクトモデルのPositionパラメーターに割り当てられている場合は、Wah モデルを選び、Edit 画面に移動してPositionパラメーターを選びます。ペダルが「ヒール」位置に近い場合は、マルチ・ファンクション・ノブ4を回してMIN値を調整することができます。ペダルが「トゥ」位置に近い場合は、ノブを回してMAX値を調整します。

選択したモデルのためのController Assign画面が表示されます。この例では、Digital Delay W/Modulationです。マルチファンクション・ノブ1~4を使用して、コントローラー割り当てオプションを設定します。



Controller Assign画面

- **PARAMETER** (ノブ 1) : コントロールしたいモデルのパラメーターを選びます。* この例では、**Mix**パラメーターを選びます。
- **Controller** (ノブ 2) : パラメーターにアサインしたいコントローラーを選択します。アサインしない場合はOff、またはEXP 1、EXP 2、Variax Vol、Variax Toneを選択してください。
- **MIN. VALUE** (ノブ 3) : ペダルの「ヒール」位置にしたいパラメーター値を設定します。
- **MAX. VALUE** (ノブ 4) : ペダルの「トウ」位置にしたいパラメーター値を設定します。

トーンにワウ・エフェクト・モデルを加えると、ワウの「Position」パラメーターは自動的に**EXP 1**に割り当てられます。同様に、ボリュームやパン・エフェクト・モデルを加えると、その「Position」パラメーターは自動的に**EXP 2**に割り当てられます。その結果、既にペダルの割り当てが行われている場合は、複数アイテムがこれらのエクスペディション・ペダルに割り当てられることになります。全てのファクトリー・プリセットには既にワウ、ボリューム、パンが含まれているため、これらも例外無く割り当てられます。プリセットに必要な無いモデルのEXP割り当てがある場合は、必ず外すようにしてください。

FXループのパラメーターにコントローラーをアサインしたい場合、シグナル・フロー・ビュー内のFXループ・ブロックを選択し、上記の説明のようにコントローラー・アサイン画面へ入ってください。



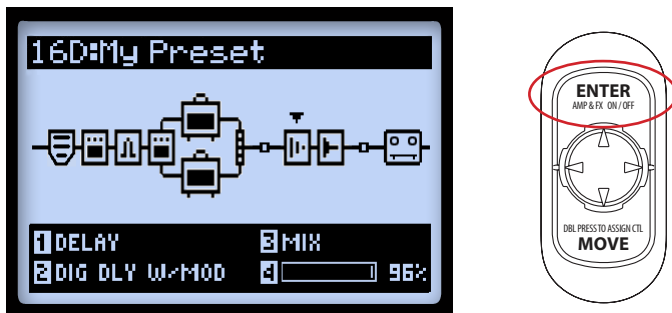
FXループのコントローラー・アサイン

アンプ&エフェクト・ブロック・フットスイッチのアサイン

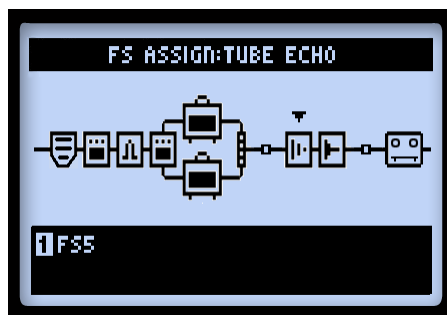
FBVフットスイッチは、オンボード・ペダルの「トウ・スイッチ」も同様に、どのアンプやエフェクト・ブロックのOn/Offも切り替えを設定することができます。[B・4ページ](#)に記載されている通り、現在設定されているプリセットのエフェクト・フットスイッチの割り当ては、パフォーマンス・ビュー画面内で参照することができます。これらの設定はプリセット毎に保存されます。

エフェクトやアンプ・ブロックをフットスイッチへ割り当てる

シグナル・フロー・ビューの中から、フットスイッチの1つに割り当てたいエフェクトやアンプ・ブロックを選びます。一例として、ディレイ・エフェクト・ブロックを選択します。次に**ENTER**ボタンを長押ししてFootswitch Assign画面を表示させます。



アンプかエフェクト・ブロックを選択し、ENTERボタンを長押しします



ディレイ・エフェクト・モデル選択した場合のFootswitch Assign画面

マルチファンクション・ノブ1を使用して、このエフェクト・ブロックを割り当てたいフットスイッチを選びます。FS1～FS8、EXP Toe Switchを選びます。またはNoneを選んでブロックの割り当てを外します。以下のような動作になります：

- アンプやエフェクト・ブロックが既にフットスイッチに割り当てられている場合：現存のブロックは割り当てを維持し、このフットスイッチを選ぶことで追加的に新しくブロックを割り当てます。パフォーマンス・ビューを見ると、フットスイッチが「Multi」グラフィックを表示し、この状態を示しているのがわかります。2種類、またはそれ以上のパラメーターを同じフットスイッチに設定し、それらのOn/Offを同時に切り替えたり、または1つだけをOnにしておいて、その他をOffに切り替えることも可能です！



フットスイッチに複数のブロックが割り当てられていることを示します

ヒント：現在設定されているフットスイッチの割り当てを見る場合は、Footswitch Assign画面から◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使って画面下の各ブロックを選択し、それぞれのノブ1セッティングをご覧ください。

- フットスイッチにブロックが1つも割り当てられていない場合：それぞれのフットスイッチに対応するパフォーマンス・ビューの中にN/Aグラフィックが表示されているのがわかります。

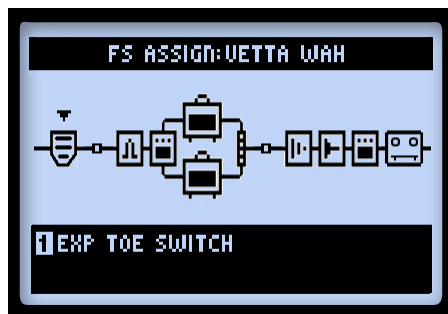


フットスイッチにブロックが1つも割り当てられていないことを示します

EXPペダル・トウスイッチを使用する

上記の通り、トーンに Wah や Volume/Pan モデルを加えると、それらのPositionパラメーターは自動的に**EXP 1**と**EXP 2**コントローラーに割り当てられます。この設定済みのWah/Volume切り替えが、ほぼ全てのファクトリー・プリセットに含まれています。しかし、新しく加えたアンプやエフェクト・モデルに対し、トウスイッチの割り当ては自動的に設定されないため、ここに手動による設定方法を説明します。

- 上記の手順に従い、Wahモデルを選択した状態でFS Assign画面へ行き、そのエフェクト・ブロックを**EXP TOE SWITCH**へ割り当てます。これにより、ペダルのトウスイッチを通じて、ワウのOn/Offを切り替えることができます。

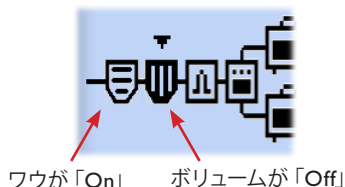


エフェクト・ブロックをオンボード・ペダルの「トウスイッチ」へ割り当てる

さらに、異なるエフェクト・パラメーター（Volume - Position 等）が反対側の EXP ペダル・モードでコントロールされていれば、コントロール中に任意のモデルだけをアクティブにすることができるので、トウスイッチで両方のエフェクトの On/Off を交互に切り替えることができれば便利だと考えるでしょう。例えば、ワウが **EXP 1**、ボリュームが **EXP 2** でコントロールされている所にプリセットがあると思います：

注意: 「PEDAL 2」を FBV に接続されている場合（または FBV Longboard を使用している場合）は、ワウとボリュームは既に 2 台のペダルによって個々に操作されるため、以下の設定を使う必要はありません。

- **EXP TOE SWITCH** をクリックすると、赤い **EXP ILED** が点灯します。
- シグナル・フロー・ビューの中で、ボリューム・エフェクト・ブロックを選択し、**ENTER** ボタンで「Off」に切り替えます。ワウが「On」、そしてボリュームが「Off」になったことがわかるはずです。

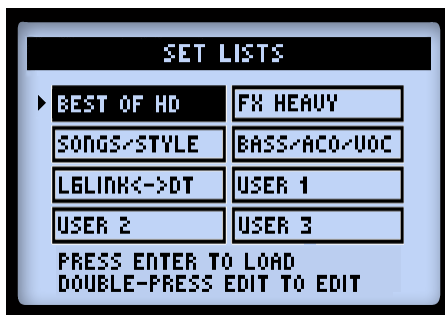


- 既に述べたフットスイッチの割り当て手順を繰り返し、ワウとボリュームの両方にそれぞれ **EXP TOE SWITCH** を割り当てます。
- このプリセットのために、**EXP TOE SWITCH** をクリックして **EXP 1** を設定するたびに、ペダルによるコントロールでボリュームは「Off」に、そしてワウは「On」に切り替わります。**EXP 2** に切り替えた場合は、この逆の動作を得ることができます。
- このセッティングは必ずプリセットと共に保存してください！

セット・リストを選択する

FBV Shortboard MKII & FBV Longboard 機器用に Set Lists 画面へアクセスし、異なるプリセットを読み込むことができます（[4・1ページの「4・セットリスト&プリセット」](#)参照）。FBVからの操作：

- **FUNCTION 2** (Shortboard MkII) または **AMP 1** (Longboard) を押すと、POD HD Proに Set Lists画面が表示されます。



Set Lists画面

- **BANK UP**と**BANK DOWN**フットスイッチを押して好みのセットリストを選びます。FBVのLCD画面は、選択したセットリスト名を表示することに注意してください。
- **FUNCTION 2/AMP 1**を再び押して選択したセットリストを読み込みます。前のセットリストからの同じ番号のプリセットが、新しいセットリストから自動的に読み込まれます。

タップ・テンポ



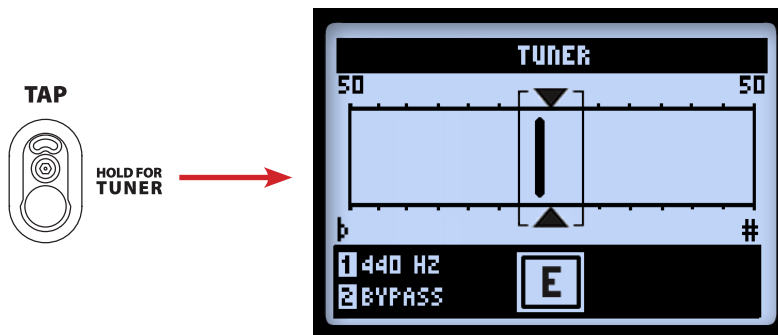
全てのFBV 機器において、**TAP**フットスイッチをリズムに合わせて踏むことでタップ・テンポを設定することができます。あるいは、Setupの中でテンポ値を数字で設定することも可能です（[2・10ページの「ページ 6、MIDI/Tempo」](#)参照）。

TAPスイッチのLEDが点滅し、現在のタップ・テンポBPMを示します。Tempo Syncパラメーターが用意された、テンポベースのエフェクト（モジュレーション、フィルター & ディレイ・エフェクト）は、このタップ・テンポ値をもとに音符を任意に設定することができます。

Tunerモード

全てのFBV機器において、チューナー・モードに入るときは**TAP**ボタンを長押しします。詳細はB・23ページの「チューナー・モード」をご覧ください。

B・23



Tuner画面

付録 C:MIDI

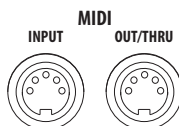
この付録にはPOD® HD Proで利用可能なMIDI機能の説明が記載されています。POD HD Proは、割り当て可能なフットスイッチ&ペダル・コントローラーの離れた場所からのアクセス、そしてバンク&プリセットを読み込むために送信されるMIDIメッセージに応答します。POD HD Proはまた、セットリストとプリセット内を移動する際に、バンク & プログラム・チェンジ・メッセージを送ります。POD HD Proは、MIDIコントローラー・デバイスとしての機能も備えているため、カスタマイズしたMIDIコマンドを他のMIDIデバイスへ送信することも可能です。Line 6 FBV™シリーズ・コントローラーを接続した状態でこの機能を使えば、FBVデバイスを効果的に、フル機能のMIDIフットコントローラーに変えることができるので大変便利です！

C・I

POD HDはLine 6 DTシリーズのアンプにMIDI CCを送信することができるため、多数の「隠れ」パラメーターにアクセスして、さらに多くのカスタム・トーンを作り出すことが可能です。<http://line6.jp/support/manuals/>にあるDTシリーズのMIDIインプリメンテーション・ガイドや、その他のLine 6 MIDI関連説明書をご覧ください。

MIDI INPUT & OUT/THRU

全てのMIDIコミュニケーションに使用する接続は、**MIDI INPUT**と**MIDI OUT/THRU**ポートで行います。(POD HD Proに、USB-MIDI機能は含まれていません。) MIDI信号を他のデバイスへ送る場合は、一般的な5ピンのMIDIケーブルを**MIDI OUT/THRU**から外部デバイスのMIDI Inputへ接続します。MIDI信号を受け取る場合は、POD HD Proの**MIDI IN**と本機のMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。



POD HD Proの**MIDI INPUT**、**OUT/THRU**コネクタ

MIDI Setup オプション

MIDIチャンネルを設定して MIDI メッセージの送信&受信を行うときは、POD HD Pro **SETUP:MIDI/Tempo - MIDI Channel** オプションを使用します。この MIDI チャンネルで MIDI データを受け取り、POD HD Pro の **MIDI OUT/THRU** を「通過」させて他の MIDI デバイスへ送ることもできます。その場合は、この同じ Setup ページの **MIDI Out/Thru** オプションを、「Thru」に設定しておいてください。
[2・10 ページの「ページ 6、MIDI/Tempo」](#) をご覧ください。

MIDI を利用した POD HD Pro の機能の操作

POD HD Pro フットスイッチ & ペダルの割り当て、Looper 機能等は、POD HD Pro の **MIDI IN** ポートに接続した MIDI コントローラー・デバイスを経由させて、離れた場所から操作することができます。これらの POD 機能にアクセスするためには、以下の表に記載されている MIDI CC 設定を使用して、MIDI コントローラー・デバイスを設定する必要があります。

POD HD Pro－MIDI コントロール・リファレンス		
MIDI CC #	値	機能
ペダル & フットスイッチ・アサイン		
001	0 - 127	EXP-1 ペダル・アサイン
002	0 - 127	EXP-2 ペダル・アサイン
051	0 - 127	FS1 アサイン On/Off 切り替え
052	0 - 127	FS2 アサイン On/Off 切り替え
053	0 - 127	FS3 アサイン On/Off 切り替え
054	0 - 127	FS4 アサイン On/Off 切り替え
055	0 - 127	FS5 アサイン On/Off 切り替え
056	0 - 127	FS6 アサイン On/Off 切り替え
057	0 - 127	FS7 アサイン On/Off 切り替え
058	0 - 127	FS8 アサイン On/Off 切り替え
059	0 - 127	EXP トウ・スイッチ・アサイン On/Off 切り替え
ルーパー・コントロール		
060	0-63 = Overdub, 64-127 = Record	ルーパー Record/Overdub スイッチ

POD HD Pro—MIDI コントロール・リファレンス		
MIDI CC #	値	機能
061	0-63 = Stop, 64-127 = Play	ルーパー Play/Stop スイッチ
062	64-127 = Play Once	ルーパー Play Once スイッチ
063	64-127 = Undo	ルーパー Undo スイッチ
065	0-63 = Forward 64-127 = Reverse	ルーパー Forward/Reverse スイッチ
067	0-63 = Pre 64-127 = Post	ルーパー Pre/Post ポジション・スイッチ
068	0-63 = Full 64-127 = Half	ルーパー Full/Half Speed スイッチ
099	0-63 = Off 64-127 = On	Looper モード On/Off
追加コントロール		
064	64-127 = Tap	タップ・テンポ - タップ・テンポに入る
069	0-63 = Off 64-127 = On	Tuner モード On/Off

バンク&プログラム・チェンジ・メッセージ

POD HD Proは入力されたMIDIバンク & プログラム・チェンジ・メッセージに対し、以下のように反応します。

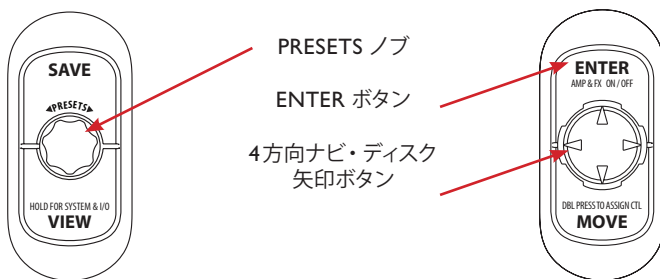
- **セットリストを読み込む**:MIDIコントローラー・デバイスから、セットリスト内で選択したプリセット用のプログラム・チェンジ・メッセージ（プリセット01A～16D用の値0～63）に続いて、バンク・チェンジCC00（バンクMSB）、CC32（LSB）メッセージを、値0（セットリスト1）、1（セットリスト2）等と共に送信します。セットリストとプリセットがPOD HD Proへ読み込まれます。
- **現在選択されているセットリスト内のプリセットを読み込む**:セットリスト内のプリセット用にプログラム・チェンジ・メッセージ（プリセット01A～16Dの値0～63）を送ります。

プリセットを操作するためにPOD HD Proハードウェア（**PRESETS**ノブ、**4方向ナビ・ディスク**、FBVフットスイッチ**A、B、C、D**＊）を使用する場合、選択されているプリセットに適合するMIDIプログラム・チェンジ・メッセージが自動的に送信されます。このメッセージは**MIDI OUT/THRU**から送信されます。また、フットスイッチでバンクおよびプログラム・チェンジ・メッセージを送信するように設定することも可能です。次のセクションをご覧ください。

*FBV FS5からFS8のフットスイッチを押してPOD HD Proのプリセットを切り替える際にこのプリセット・データを送信するには、Setupの「フットスイッチ・モード」を「ABCD」にする必要があります。[2・2ページの「ページ 1、Setup : Utilities」](#)をご覧ください。

この機能を利用すれば、以下に記載されているMIDIバンク&プログラム・チェンジ・コマンドを送信することで、POD HD Proから外部機器をコントロールすることができます。さらに、もう1台のLine 6 POD HD ProやPOD HD500に接続すれば、その接続したデバイスを、最初のPOD HD Proが読み込むセットリスト&プリセットの動作に従わせることも可能です！

特定の操作でこれらのPOD HD Proコントロールがアクセスされたときに、自動的に送られるMIDIメッセージを以下に説明します。



バンク&プログラム・チェンジを送信する POD HD Pro コントロール

- **PRESETSノブを回す**: 時計回りや反時計回りに回すと、POD HD Pro内部では現在のセットリスト内のプリセットを通じて設定値が増減します。これらの動作もまた以下のMIDIメッセージを送ります:
 - 時計回りに回す: 値を増やすプログラム・チェンジ・メッセージを送信します。
 - 反時計回りに回す: 値を減らすプログラム・チェンジ・メッセージを送信します。
- **FBVフットスイッチA、B、C、Dを押します**: 内部的に、現在のバンク内のそれぞれのプリセットを選択します。これらのスイッチも同様に、0から64までの値の付いた、固定メッセージとしてのMIDIプログラム・チェンジを送信します。現在選択されているバンクによって、特定の値が決められています（例えば、バンク1に対しては、4つのフットスイッチが0～3の値を送り、バンク2に対しては、4～7の値を送る等）。
- **PRESETSノブ、ナビ・ディスクの矢印ボタン、ENTERボタンを押す**: この一連の操作により、内部的にセットリスト画面を呼び出し、セットリスト（1～8）を選択し、そのセットリストを読み込みます。この操作もまたMIDIバンク・チェンジのメッセージを送信します。セットリスト1～8を選択すると、それぞれ0～7の値でメッセージが送られます。

POD HD Pro/FBVをMIDIコントローラーのとして使用する

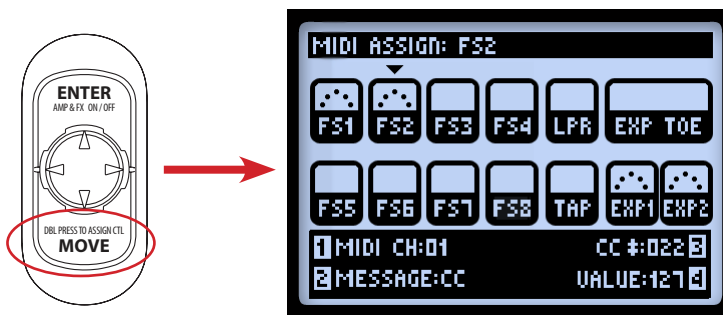
注:お使いのFBVデバイスのスイッチやペダルが各POD HD Proのアサインابل・コントローラー (FS 1 -8、EXP 1、EXP 2、トール・スイッチなど) にどのようにマッピングされているかを見るには、[B・5ページの「FBV コントローラー・デバイスフットスイッチ&ペダル・マッピング」](#)をご覧ください。

ほぼ全てのFBVフットスイッチとペダル・コントロール用にカスタマイズしたMIDIコントロールの割り当てを含めるように、POD HD Proのプリセットは、いくつでも構成することができます。これにより、POD HD ProとFBVを使用して、離れた場所からLine 6 M13、M9、POD® Farm 2プラグ・イン、もう1台のPOD HD ProやHD500デバイス、外部MIDIコントロールに対応するその他のLine 6、あるいは他社製品等のハードウェアやソフトウェアをコントロールすることができます！

フットスイッチFS5～FS8は、それらのSetupオプションがFS5～FS8「Pedalboard Mode」に設定されている場合は、設定したMIDIアサインだけを送信します。C・5ページの「FBV コントローラー・デバイスフットスイッチ & ペダル・マッピング」参照 また、POD HD Proを Looperモードで使用中の場合、いくつかのフットスイッチから固定されたMIDI CCが送信されます。["Looperモードのフットスイッチ動作" on page C・5](#)参照。

MIDI ASSIGN 画面

MIDI ASSIGN画面は、MIDIコマンドを自在に構成する場所です。MIDI ASSIGN画面にアクセスするときは、ホーム・ビュー・ページから**MOVE**ボタンを長押しします。この画面で行った設定は全てプリセット毎に保存されます。



MOVE ボタンを長押ししてMIDI ASSIGN画面を表示させます。

◀▶と◀▶ナビ・ディスク・ボタンを使用して、FBVフットスイッチかEXPペダルを選びます。選択したコントロールが下向きの矢印で示されます(上の画面ではFS2)。選択が終われば、マルチファンクション・ノブ1～4でコントロールのMIDIオプションをエディットすることができます。実行するMIDIの割り当てがあれば、画面の中のそれぞれのコントロールに表示されます:



MIDI割り当てのあるFS1



MIDI割り当てのないFS1

- **MIDI CH(ノブ 1)**: 選択したコントロールがMIDI コマンドを送信するMIDI チャンネルを選びます。
 - **None**: MIDI データを送信しません。(ノブ2～4のオプションは、「None」以外のオプションを選ばない限り表示されません。)
 - **0～16**: 選択したコントロールのメッセージを送信する MIDI チャンネルを選びます。
 - **Base**: デバイス・セットアップの中で設定したように、現在の「システム」MIDI チャンネルに従うようにコントロールを設定します ([2・10ページの「ページ 6,MIDI/Tempo」参照](#))。共通の Setup - MIDI Channel 値にダイナミックに従わせるために、どんなプリセットのMIDIコントロールでも「Base」に設定しておくのは便利な方法です。
- **MESSAGE (ノブ 2)**: 選択したコントロールによって送られるMIDIメッセージのタイプを選びます。
 - **FS1～FS8、LOOPERとTAPとEXP TOE SWITCH**はそれぞれに、MIDI CC、CC トグル、プログラム・チェンジ (固定)、バンクチェンジ (固定)、またはノート・オン・メッセージを送るように割り当てることができます。
 - **EXPIとEXP2**ペダル・コントロールは、それぞれが1つの MIDI CCを定義可能な値域と共に送るように割り当てができるため、ターゲットとなるデバイス上の可変的なパラメーターをカバーすることができます。
- **CC/Program/Bank 番号 (ノブ 3)**: 選択したメッセージ・タイプによっては、さらにオプションを選ぶことができます (ノブ 2)。

- **CC 番号:**メッセージ・タイプが「CC」か「CC Toggle」の場合、000から127までのMIDI CC 番号をどれでも選ぶことができます。EXP1 やEXP2 コントロールをエディットする場合、このノブでペダルの最小CC 値を設定することができます（ノブ 4、VALUE の説明も参照してください）。
- **Program 番号:**メッセージ・タイプが「プログラム・チェンジ」の場合、固定プログラム値を000から127の中から選ぶことができます。
- **Bank 番号:**メッセージ・タイプが「バンク・チェンジ」の場合、固定プログラム値を000から127の中から選ぶことができます。追加のプログラム・チェンジ#001が自動的に送信され、通常は受信デバイスのバンクの最初のパッチが選択されます。
- **注意:**メッセージ・タイプが「Note」の場合、特定の音符値を選ぶことができます（C0からG9）。
- **Value/Velocity (ノブ 4) :**ノブ2とノブ3の設定によっては、さらにオプションを選ぶことができます。
 - **VALUE (CC用) :**メッセージ・タイプが「CC」の場合、スイッチ・コントロール（000～127）を毎回押すたびに送られるCC用の値を、これで設定することができます。EXP1 やEXP2 コントロールをエディットする場合、このノブでペダルの最大値を設定することができます。
 - **VALUE (CC Toggle用) :**メッセージ・タイプが「CC Toggle」の場合、「On」か「Off」を選ぶために 000か、127を選ぶことができます。コントロールは、クリックするたびに代わりのメッセージを送ります。これでもう、MIDI メッセージを「ミュート」できます！
 - メッセージ・タイプが「Program Change」や「Bank Change」の場合、ノブ4のオプションは表示されないことに注意してください。
 - **Velocity:**Note メッセージ用のベロシティ値を設定します（000～127）。

Looperモードのフットスイッチ動作

POD HD Pro Looperモードがアクティブの場合、接続されたFBVのルーパー・フットスイッチ機能を押すと、自動的に以下のMIDI CCメッセージを送信します。これらはグローバルMIDI CCアサインであるため、エディットすることはできません。

注意：これらのアサインは、これらのLooper モード機能のためにPOD HD ProとPOD HD500デバイスが応答するMIDI CCメッセージと同じです。従って、POD HD ProからMIDI Outを、もう1台のPOD HD ProやPOD HD500デバイスのMIDI Inへ送ると、そのLooper機能も同時に切り替わります！

Looper モード・フットスイッチ - MIDI CC 送信リファレンス		
フットスイッチ	MIDI CC #	値
FS1 (Undo)	063	127
FS2 (Play Once)	062	127
FS3 (Pre/Post)	067	切り替え: Pre= 0~63, Post= 64~127
FS5 (Rec/Overdub)	060	切り替え: Overdub= 0~63, Record= 64~127
FS6 (Play/Stop)	061	切り替え: Stop= 0~63, Play= 64~127
FS7 (1/2 Speed)	068	切り替え: Full= 0~63, Half= 64~127
FS8 (Reverse)	065	切り替え: Forward= 0~63, Reverse= 64~127

